

欠

MISSING

口腔内ニ於テ化學的變化ヲ被リ銅及銀鹽類ヲ化生シテ防腐ノ効ヲ奏シ齒質ニ浸潤シテ變色ヲ惹起スルト同時ニ硬度ヲ増シ尙ホ幾分齒質ノ知覺ヲ鈍麻ス(三)「クロールホルチャ」ハ偏答百兒加チ嘔囉仿謨ニ溶解シタルモノニシテ齒質ノ知覺ヲ鈍麻ス(四)「アリストールパラヒン」ハ「パラヒン」中ニ「アリストール」ヲ混シ細針狀ニ造リタルモノニシテ根管充填材トシテ防腐ノ効アリ(五)其他充填材中ニ特別ノ藥品ヲ混入シタルモノハ皆藥効的作用ヲ有ス

第二十六問 「アマルガム」充填ノ利害

一 充填材品トシテ「アマルガム」ノ利益トスル所ハ(一)加何ナル窩洞ニモ適應シ得ル(二)硬固ニシテ咀嚼等ノ器械的作用ニ抗抵シ得ル(三)齒冠ヲ形成

シ得ル(四)充填容易ニシテ比較的濕氣ヲ恐レザル(五)多大ノ壓力ヲ要セザルガ故ニ菲薄ナル窩壁ヲ有スル窩洞ニモ充填シ得ル

二 其弊害トスル所ハ(一)化學的變化ヲ受ル(二)寒熱ヲ傳導スル(三)色澤恰當ナラザル(四)球狀收縮ヲナス傾向ヲ有シ充填後變形ノ窩壁トノ間ニ空隙ヲ生シ腐蝕ヲ再發スルニ至ル(五)齒質ノ變色スル

第二十七問 鑲物ヲ充填スルニ際シ「セメント」ノ裏裝ハ如何ナル窩洞ニ應用スベキヤ

一 菲薄ナル窩壁ヲ有スル窩洞ニ應用ス即金充填等ノ場合ニ於テ固實ノ壓迫ニヨリ窩壁ノ缺損ヲ來ス或アル時ハ「セメント」ヲ裏裝シテ其厚徑ヲ増シ抗抵力

ヲ強カラシメ之ニ添高及保持點ヲ作ル

- 二 「アマルガム」充填ノ際應用ス即「アマルガム」ノ充填後化學的作用ニ侵サレテ齒質ヲ變色スルヲ防グ爲メ「セメント」ヲ裏裝ス殊ニ前齒ニ用テ効アリ
- 三 深窩洞ノ充填ニ應用ス即齒髓ニ近接セル窩洞ニ於テハ鑲物充填ヲ透過シ來ル寒熱ノ齒髓ヲ刺戟スルヲ防ギ又無髓齒ニ於テハ窩洞ノ深サヲ減シテ充填ヲ迅速ニ完了スルノ利益アリ

第二十八問 能粘性及不能粘性金箔ノ區別 能粘性金箔

- 一 性質 著シク粘着性ヲ有シ兩片ヲ壓着スレバ一片トナリテ分離スルコトナシ之ヲ放置スレバ不純物及瓦斯ヲ吸攝シテ粘着性ヲ減ズルモ燒還スレバ更ニ其

性ヲ恢復ス

- 二 充填法 (一)窩洞ニ保持點或ハ保持溝ヲ要ス (二)帶狀、帶狀、繩狀等窩洞ノ大小、部位ニヨリテ調製ス (三)保持點以外ハ燒還シテ用ユ (四)主トシテ髓腔ニヨリ時トシテ手壓ヲ用ユ層一層ツ、漸次凝實ス
- 三 應用 小窩洞及成形充填ニ用ユ又不能粘性金箔ノ上部ニ連接シテ充填ス

不能粘性金箔

- 一 性質 粘着性弱ク恰モ能粘性金ノ粘性ヲ失ヘルガ如シ燒還スルモ粘着性ヲ増スコトナシ一般ニ充填後ノ凝固ハ柔軟ナリ
- 二 充填法 (一)保持溝及保持點ヲ要セズ唯窩底ヲ窩口ヨリ大ナラシム (二)圓筒狀、帶狀、繩狀等一般

- ニ能粘性箔ヨリ大形ニ調製ス (三)燒還スルコトナシ (四)主トシテ手壓ヲ以テ窩洞内ニ并列壓着シ最後ニ髓腔ヲ以テ表面ヲ凝實ス
- 三 應用 大窩洞ヲ迅速ニ充填スルニ用ユ又起始點及根官充填ニ用ユ

第二十九問 金箔ノ窩壁ニ密着スルハ理學的

如何ナル作用ニヨルカ

金箔ノ窩壁ニ密着シテ逸脱セザルハ器械的作用ニヨル者ナリ柔軟ナル金箔ノ稍ヤ粗糙ニシテ全ク乾燥シタル象牙質ニ壓着セラレ且ツ保持點及保持溝ニヨリテ支持セラル、ノミナラズ窩口ノ窩底ヨリ狭キ窩洞内ニ充填物ハ一塊トナリ恰モ一種ノ楔ヲナスガ故ナリ

第三十問 根管充填法及材品ノ種類

拔膿ヲ終リ或ハ齒膜ノ疾患ヲ全治シタラバ根管ヲ充填スベシ充填ニ先ガチ根管ノ方向並ニ長徑ヲ知ルヲ要ス即測徑器ヲ用ヒ或ハ探針ニ「ラバーダム」ノ小片ヲ貫キテ根管ニ挿入スレバ「ラバーダム」ノ停止部ト針尖トノ間ハ根管ノ長ナリ之ヨリ稍ヤ短キ「バー」(「ドリール」)「リマー」等ヲ以テ根管ヲ適當ノ大サニ擴大ス此際根管外ニ突出シ或ハ側壁ヲ穿ツガ如キ過失ナキヲ要ス次ニ根管ヲ洗滌シ防濕法ヲ施シ濕氣ヲ拭去シ酒精或ハ嘔嚙仿謨ヲ塗布シ乾燥器ヲ以テ熱氣ヲ送り之ヲ蒸發セシメテ充分乾燥シ次ニ舉グル材品ノ一ヲ以テ充填ス

- 一 「パラフィン」 單純ニ或ハ「アリストル」ヲ混シテ「アリストル」、パラフィン」トナシ根管ノ大サニ準

シテ圓錐形ノ「ポイント」トナシ根管ニ挿入シ熱シタル細針ヲ穿通スレバ溶解シテ毛細管引カニヨリ根管ニ充填ス

二 「ザロール」 粉末ヲ根管ニ入レ熱シタル探針ヲ挿入スレバ溶解シテ防腐力アル充填ヲ得ベシ又溶解シタルモノヲ注射器ニテ注入スルモ可ナリ

三 「コスモリン」 探針ヲ以テ根管内ニ壓入ス充填法甚ダ容易ナリ

四 偏答百見加 圓錐狀ノ「ポイント」トナシ根管ニ挿入シタル後之ヲ加熱シ管根充填器ヲ以テ壓入ス或ハ「クロール」ホルチヤ」ヲ浸シテ充填ス

五 「クロール」ホルチヤ」 探針ニ付シ唧筒作用ヲ以テ充填ス或ハ絹糸綿花等ノ纖維ト混シテ充填ス

方法根尖端ノ廣徑ヨリ稍ヤ大ナル「ポイント」ヲ根管ニ挿入シ未ダ根尖端ニ至ラサル前ニ其壓入ヲ止メ熱シタル探針ヲ靜ニ淺ク穿入スレバ材料ハ根管外ニ逸出スルヲナク完全ナル結果ヲ得ベシ

第三十二回 智齒發生障害並ニ療法

症候 (病理學參照)

療法 齒齦吸收ノ智齒發生ニ伴ハザル爲ナラバ其部ノ齒齦ヲ十字形ニ切開シ或ハ截齦缺ヲ以テ齒齦ヲ切除シ沃度双齒菊丁幾ヲ塗布シ含嗽劑ヲ與フベシ尙ホ切開部癒合ノ恐アル時ハ創内ニ「リント」ヲ挿入シ置クベシ

智齒ノ發生スベキ位置ナキカ或ハ變位シテ其咀嚼面ヲ第二大臼齒ニ向ケテ發生シタル時ハ須ク拔去スベ

六 「セメント」 格管見「セメント」ヲ用ユ綿球ニテ壓入スルカ或ハ探針ヲ以テ唧筒作用ニ依テ充填ス

七 絹糸、綿花、石絨纖維 少許ツ、探針ヲ以テ壓入シ又防腐藥ヲ浸シテ用ユ

八 金箔、錫箔 根管ノ大サニ準シテ適宜ノ捲狀トナシ根管充填器ヲ以テ壓入ス

九 鉛 細キ「ポイント」トシテ充填ス又「クロール」ホルチヤ」ヲ浸シテ用ユ

第三十一回 齒根吸收セルモノニ根管充填ノ方法

甚ダ困難ナル手術ニシテ施術中壓根管孔外ニ材料及器械ヲ逸出シテ意外ノ失敗ヲ招ク「ア」リ之ニ用ユル材料ハ「ア」リストルパラヒン」ヲ以テ最モ適當トス其

シ若シ智齒ノ拔去困難ナル時ハ第二大臼齒ヲ拔去シテ智齒ニ位置ヲ與フベシ然レニ第二大臼齒ハ咀嚼ニ於テ非常ニ必要ナルニ反シテ智齒ハ通常殆ド無用ノモノナルバ出來得ル限リ智齒ヲ拔去スルヲ宜シトス其方法ハ牙關緊閉ヲ伴ヘタルモノニハ開口器ヲ以テ開口シ智齒用鉗子ヲ以テ普通ノ拔牙法ニ從テ拔去スベシ然レニ往々鉗子ヲ使用シ得ザル「ア」リ其際ハ挺子ヲ以テ第二大臼齒ヲ支點トシテ挺舉スベシ然ラザレバフヒシシク兵鉗子ノ楔狀嘴ヲ智齒ト第二大臼齒ノ間ニ挿入シテ把握スレバ智齒ハ齒槽ヨリ挺起スルニヨリ更ニ智齒鉗子ヲ以テ拔去ス

難生ノ繼發症トシテ起ル牙關緊閉ニハ外部ヨリ關節部ニ醋酸鉛ノ罌法ヲ施シ淋巴腺ノ腫脹ニハ「イ」ヒチ

ナルヲ塗布シ化膿ヲ伴ヒタルモノニハ其部ヲ切開シ防腐藥ヲ以テ洗滌シ「リント」ヲ挿入ス

第三十三問 有癰齒槽膿瘍ヲ治療スベキニ三

ノ術式

一 藥効法 「パー」并ニ「エキスカパーター」ヲ以テ髓腔ヲ開大シ「クレンザー」ヲ以テ根管ノ腐敗内容物ヲ除去シ「パイロゲン」ヲ以テ根管ヲ清淨ニシ「リマ」或ハ「バー」ヲ以テ根管ヲ擴大シ出來得可クンバ「クレンザー」ヲ以テ膿瘍ヲ破壊除去シ「パイロゲン」ヲ注射器ニ盛リ此嚙端ヲ根管ニ挿入シ其周圍ノ窩洞ヲ蠟或ハ僱答百兒加ヲ以テ充填シ強ク注射スル時ハ膿井ニ積敗産物ハ瘻口ヨリ洗去セラル再ヒ同一ノ方法ニヨリ沃度丁幾、「キヤンフオフイニツク」等ヲ膿瘍

ニ注入シ後乾燥器ヲ以テ根管ヲ乾燥シ防腐藥ヲ浸シタル綿花條ヲ挿入シ「ストッピング」ヲ以テ蓋護ス此方法ヲ隔日反覆スレバ容易ニ治療スベシ但シ藥液ノ通過ハ嚙筒作用ニヨルモ可ナリ

二 膿瘍破壊法 該齒ノ齒齦部ハ麻酔液ヲ注射シ或ハ烙鐵、純石炭酸等ニヨリ知覺ヲ鈍麻シ「ランセツト」ヲ以テ軟組織ヲ切開シ暫時止血劑ヲ貼シテ止血セル後「パー」ヲ以テ齒槽ノ瘻口ヲ擴大シ消毒液ヲ注射シテ膿及血液ヲ洗去リ纖細ナル器械ヲ挿入シテ膿瘍ヲ破壊シ齒根ニ血石或ハ粗糲部アル時ハ「パー」ヲ以テ平滑ニシ消毒液ヲ以テ洗滌シテ清潔ナラシメ防腐藥ヲ浸シタル「リント」ヲ挿入シ創口ノ癒着ヲ防グベシ此際根管ハ其腐敗性内容物ヲ除キ清潔ナラシム

ルヲ要ス後防腐藥ヲ以テ瘻口ヨリ日々洗滌スベシ

第三十四問 齒槽突起骨疽ノ原因及其療法

原因 齒槽突起ノ骨疽ハ主トシテ骨膜ノ失活ニヨルモノニシテ其原因ハ(一)打撲及器械ノ穿通ニヨル外傷其他拔齒ニ由ル顎骨ノ破壊(二)齒膜炎、齒槽膿瘍、智齒難生ヨリ波及シ或ハ他ノ原因ニヨル骨膜炎(三)磷中毒及汞劑ノ過用(四)亞砒酸貼用ノ過失(五)諸般ノ熱性病及發疹病即麻疹、猩紅熱、痘瘡(六)全身病殊ニ梅毒等ナリ

療法 骨疽部ノ齒齦ヲ切開シテ排膿シ骨膜及齒齦ノ炎症ヲ消退スルガ爲ニ沃度丁幾ト双蘭菊丁幾トノ合劑ヲ塗布シ又死骨ノ剝離及新骨ノ再生ヲ促進シ病勢ノ進行ヲ止ムルガ爲メ刺戟藥及防腐藥ヲ注入ス即三

「パイロゲン」、過錳倍酸加里溶液、石炭酸水、碘方糖叔丁幾、芳香硫磺等ヲ以テ洗滌シ綿花條或ハ「ガーゼ」ニ防腐藥ヲ浸シ患部ニ挿入シ置キ毎日此法ヲ反覆ス

衰弱セルモノニハ滋養物ヲ與ヘ鐵劑、幾那、赤酒、火酒等ノ強壯藥ヲ内服セシメ新鮮ナル空氣中ニ適宜ノ運動ヲナサシメ全身ノ活力ヲ恢復シ營養ヲ佳良ナラシム汞劑中毒ニ於テハ汞劑ノ服用ヲ廢シ全身病ニハ全身療法ヲ施スベシ

腐骨片ハ自然ノ剝離ヲ待ツテ齒齦ヲ切開シ鉗子ヲ以テ除去スベシト雖新骨ノ發生ヲ見ズ或ハ骨疽ノ擴進スルガ如キ傾向アル者ハ速ニ切除スベシ其術式ハ下唇ヲ下方ニ牽引シ齒槽突起ノ粘膜附着部ヲ切離シ粘

杆ヲ以テ齒齦ト共ニ骨面ヨリ剝離シリストン氏ノ鉗子ヲ以テ患部ヲ切除ス小部ノ骨道ニ於テハ齒牙ヲ拔去シ齒齦ヲ切開シテ鑿子或ハ銳匙ノ如キ器械ヲ以テ腐骨片ヲ切除ス死骨ヲ除去シタル後銳匙ヲ以テ新骨内面ノ顆粒層ヲ剔交シ防腐藥ヲ以テ洗滌シ出血甚タシケレバ枯藥又ハ單寧酸ヲ浸シタル消毒「ガーゼ」ヲ壓入シ日々洗滌シ膿ヲ排除ス齒牙ハ腐骨部大ナルカ或ハ動搖甚シクシテ刺戟トナルカ或ハ患齒ナル時ハ拔去スベシ若シ骨道一側ニ限り新骨ノ再生ニヨリ固定スル見込アラバ保存スベシ

第三十五間 拔齒ノ適應症

一 慢性齒膜炎或ハ齒槽膿瘍ニシテ治癒ノ見込ナキモノ

- 二 白堊質瘡及白堊質肥大ニヨリ神經痛ヲ發スルモノ
- 三 過剩齒ニシテ外貌又ハ言語ニ妨ゲアルモノ
- 四 交換期ニ於ケル乳齒
- 五 外科手術ノ妨トナルモノ
- 六 劇烈ナル齒槽膿瘍ニシテ隣齒ニ傳染ノ恐アルモノ
- 七 智齒難生ニシテ該齒或ハ第二大白齒
- 八 亂排齒ヲ矯正スルニ餘地ナキ時
- 九 腐朽齒根ニシテ屢々發炎シ且ツ粘膜炎ノ刺戟トナルモノ
- 十 上顎竇蓄膿症ノ原因タルモノ
- 十一 腐骨ノ原因タリ或ハ腐骨部ニ植立スルモノ

十二 齒槽突起甚シク吸收シ弛緩動搖シテ再び固植スベキ見込ナキモノ

十三 義齒裝置ニ際シテ障害タルモノ

十四 其他ノ齒病ニシテ治癒ノ見込ナク反テ他部ヲ侵害シ或ハ甚シク患者ヲ困ムルモノ

第三十六間 拔齒ノ注意及應用器械ノ消毒法

拔齒ノ注意ハ一ニシテ足ラズト雖モ其主ナルモノハ

- 一 患者ノ體質、年齡等ニ注意シ禁忌症ヲ避クベシ
- 二 拔去スベキ齒牙及其近傍部ヲ明視スベシ
- 三 適合シタル鉗子ヲ選擇シ其嘴端ヲ深ク壓入シ齒槽縁ニ達セシムベシ
- 四 最も抵抗弱キ方向ニ倒スベシ齒牙ニヨリテハ動搖或ハ回轉運動ヲナスベシ

- 五 注意シテ過發症ヲ避クベシ
 - 六 患者ヲシテ可及的疼痛ヲ感ゼザラシムベシ
 - 七 患者ヲシテ恐怖ノ念ヲ起サシムベカラズ殊ニ神經質ノ人、小兒婦人等ハ注意スベシ
- 應用器械ノ消毒ニハ理學的ト化學的ノ二様アリ(一)化學的ニハ三%以上ノ石炭酸水或ハ千倍ノ「フォルマリン」其他ノ防腐藥中ニ五分乃至十五分間浸漬スニ理學的ニハ蒸氣消毒罐中ニ十五分乃至三十分間熱氣消毒ヲ施シ或ハ曹達水中ニ煮沸消毒ス近來最も有力ナリトテ稱用セラル、ハ「フォルムアルデヒド」五斯消毒器中ニ於テ十分間消毒スルナリ
- 第三十七間 乳齒拔去ノ時期
- 乳齒ヲ拔去スベキ時期ハ齒根ノ充分ニ吸收セラレテ

已ニ弛緩シ其下部ニハ永久齒成熟シテ將ニ出銀セシトスル時テ適當トス故ニ其拔去適當時期ハ永久齒發生期ト同一ニシテ大略左ノ如シ但シ其時期ニ至ラザルモ乳齒ノ爲メ他部ニ害ヲ波及スルガ如キトアラバ須ク拔去スベシ

切齒 七歳 第一白齒 十歳

犬齒 十一歳 第二白齒 十二歳

第三十八問 抜齒ノ禁忌症

- 一 心臟病殊ニ瓣膜病、脂肪變性等
- 二 出血素質並ニ血液病即血友病、白血病、壞血病、「ヘゲソン」病等
- 三 著シキ衰弱、惡性貧血、大出血後、重キ疾患
- 四 癆病或ハ神經系病並ニ非常ニ恐怖シ易キモノ

五 妊娠及月經異常等

第三十九問 麻醉時ニ於ケル抜齒ノ注意

- 一 抜齒時ノ全身麻醉ハ半醉ノ状態ニテ可ナリ亞酸化學素ハ危險少キヲ以テ此際稱用セラル
- 二 器械ハ充分整頓シ且ツ中毒ノ豫防法ヲ講シ殊ニ解毒藥ヲ備置クベシ
- 三 麻醉ニ先チ拔去スベキ齒牙ノ數、順序、方法ヲ定メ置キ時ニ臨テ狼狽スベカラズ
- 四 患者ノ頭部ヲ前方ニ傾斜セシメ血液ノ氣管ニ流入スルヲ防クベシ且ツ開口器ヲ用ヒテ充分ニ開口セシム又舌ノ退縮ヲ防キ呼吸ヲ自由ナラシムベシ
- 五 抜齒ハ最モ迅速ナルベシ銀肉等ノ附着シテ尙ホ分離セザル齒根等ハ醒覺後離断スルヲ宜シトス

- 六 先ツ下齒ヨリ初メ且ツ齒根アル時ハ齒根ヲ先ニスベシ上齒或ハ齒冠アルモノヲ先ニスル時ハ其際ノ出血ニヨリ他部ヲ明視シ能ハザラシムレバナリ
- 七 疼痛アル齒牙ヲ最初ニ拔去スベシ
- 八 齒牙ノ咽喉又ハ喉頭ニ墜落セザル様注意スベシ其他過發症ヲ避ケザルベカラズ

第四十問 出血ノ區別並ニ拔齒後ハ如何ナル出血ヲ多シトスルカ

- 一 出血ノ部位ニ從ツテ之ヲ別テバ動脈出血、靜脈出血、毛細管出血、心臟出血ノ四トス
- 二 血管壁變化ノ状態ニヨリ之ヲ別テバ破裂出血及濾出血ノ二トス
- 三 臨床上ニハ1外出血 體ノ外表ニ於ケル出血

2 内出血 體ノ内部ニ於ケル出血ナリ

四 原因ニ從ヘバ1内因 血管壁自體ノ變化ニヨル出血2外因 化學的又ハ器械的作用ニヨル出血

五 時期ニ從ヘバ1原發的 組織ノ離断等ニ於テ直後ニ來ルモノ2反應的 二十四時間以內ニ一時的止血法ノ失墜ヨリ來ルモノ3再發的 二十四時間以後ニ永久的止血法ノ失墜ヨリ來ルモノ

拔齒後ニ於テ來ル出血ハ多ク原發的毛細管出血ナリ

第四十一問 抜齒ノ偶發症

- 一 屢發スルモノ 1 齒槽ノ小破壊2 軟組織ノ創傷 3 齒齦ノ裂傷 4 齒牙ノ破碎挫折 5 膈貧血 6 抜齒後ノ疼痛 7 止血困難 8 隣齒ノ損傷及共抜 9 誤抜 10 蜂窩織炎 11 齒槽窩ノ腐敗

二 稀ニ發スルモノ、1 下顎脫臼 2 顎骨ノ破壊 3 成齒齲ノ傷害及拔去 4 喉頭又ハ咽頭ニ拔去齒ノ墜落 5 齒槽突起ノ骨疽 6 「ヒステリー」其他ノ神經症 7 異常出血 8 膿毒症、丹毒其他創傷傳染病

第四十二問 拔牙後出血ノ處理

拔牙後ニ於ケル出血ハ通常毛細管出血ナルガ故ニ持異素質アルカ或ハ動脈等ヲ破壊セサル限ハ容易ニ止血スルモノナリ其方法ニ化學的ト理學的ノ二アリ然レモ多クハ二法ヲ併用ス

一 化學的止血法 拔牙窩内ヲ防腐液ニテ洗滌シ凝血及壞死部ヲ去リ化膿アル時ハ充分ニ排膿セシメ綿球ニ止血藥ヲ浸シテ貼ス止血藥ハ通常無害ナル「アドレナリン」、單寧酸明礬等ヲ用ユレモ又硝酸銀、過

格魯兒鐵液等ヲ用ユルコトアリ

二 理學的止血法 棉花或ハ綿撒糸ヲ球狀或ハ圓錐狀トナシ止血劑ヲ浸シテ齒槽窩内ニ壓入シ其上ニ固ク「リント」ヲ層重シテ兩顎ヲ緊合セシメ或ハ備答百兒加「モデリンカ」、石膏泥等ヲ其部ニ置キ隣齒ニ維持セシメテ強ク壓抵ス其他烙鐵ヲ以テ燒灼ヲ行フアリ

此際患者ハ安靜ノ狀態ニアラシメ運動及亢奮性ノ藥品、食料等ヲ避ケ血行ヲ靜平ナラシムベシ

第四十三問 齒科矯正術トハ如何之ヲ施スニ際シ主ナル二三ノ注意

齒科矯正術トハ牽引壓迫等ノ器械的ノ力ニヨリ齒列ノ不整ヲ矯正シ又下顎關節及顎骨位置ノ異常ヨリ來ルヲ要ス

第四十四問 矯正術ヲ施スベキ適當ノ年齡并ニ其理由

矯正術ヲ施スニ適當ナル年齡 十二三歳乃至二十歳トス但シ患者ノ狀態及手術ノ難易ニヨリ二十五歳位ニテモ成功スルコトアリ元來矯正術ニ於テ齒牙ヲ正位置ニ移動センニハ不正位置ヨリ正位置ニ至ル直線ノ方向ヲ以テ推壓及牽壓ヲ加フル者ナリ此際齒牙ノ牽推ニヨリ壓迫ヲ被リシ齒槽壁ハ吸收セラレテ退縮スルト共ニ齒牙ハ其位置ヲ進メ之ニ伴フテ齒牙ノ反對側ニハ空位ヲ生シ其齒槽壁面ハ化骨作用ヲ起シテ此空位ヲ充實スルニヨリ齒牙ヲ固定スル者ナリ故ニ幼年時代及青年時代ノ發育旺盛ナル時ハ骨ノ破壊及建

ル合咬ノ不全ヲ治スル術ナリ其主ナル注意トシテハ

一 矯正ヲ施スニ適當ナル年齡ハ十二三歳ヨリ二十歳頃迄トス二十五歳以下ハ屢効ヲ奏スルコトアレモ既ニ之ヲ超ユル時ハ殆ンド無効ナリ

二 矯正ハ長時日ヲ以テ徐々ニ行フベシ若シ齒槽ニ急劇ノ變化ヲ與フル時ハ種々ノ障害ヲ惹起スルモノナリ

三 矯正裝置ハ可成的單純ニシテ咀嚼、談話等ニ障害ナキヲ良トス

四 矯正ニハ充分ノ餘地ヲ要ス若シ餘地ナキ時ハ一乃至二齒ヲ拔去スベシ然レモ此際患者ノ年齡、發育ノ狀態及腐蝕ノ存否等ニ就キ充分ノ考慮ヲ要ス

五 矯正ヲ施シタル後一定ノ時日間其位置ニ保持ス

設容易ニシテ好結果ヲ得ベキモ患者已ニ成年ニ達シ骨質ノ化灰完全ナルモノニ於テハ容易ニ骨ノ吸收ヲ起サズ爲メニ炎症ヲ續發シ又齒槽空位ノ補充作用困難ニシテ齒牙ハ固定セズ終ニ衰脫ヲ招クアリ又十二三歳以下ニ於テハ患者幼稚ニシテ外貌等ニ留意セズ矯正裝置ヲ口腔ニ入レ置クガ如キ到底堪ヘ得ル所ニ非ス且ツ後來顎骨發育セバ亂排セルモノモ整然タル位置ヲ得ルコトアリ殊ニ拔牙ヲ要スルモノ、如キハ最モ熱慮セザルベカラズ何トナレバ矯正却テ亂排ノ原因タルコトアレバナリ

但シ或學者ハ齒牙ノ出齦直後ニ矯正ヲ施スハ齒槽ノ形成不完全ナルガ爲メ勞少クシテ効多キヲ耽クモノアリ吾人亦此説ニ左祖ス此際拔牙及復雜ナル裝置ヲ

避ケザルベカラザルハ勿論ナリ然レモ保護輪及絹糸ノ如キ簡單ナル裝置ニヨリテ矯正ヲ施ス時ハ該齒ヲ易ク正位置ニ植立セシムルノミナラズ進ク出齦スル隣齒ヲモ亦正位置ヲ得セシムルモノナリ

第四十五問 上顎前齒下顎前齒ノ内方ニ

列スル畸形ハ如何ナル方法ヲナスヤ

此種ノ不正ヲ矯正スル方法數種アリ今其一ニテ舉ゲン

一 先ツ下顎左右大白齒ニ蒸和護膜或ハ洋銀ノ被帽ヲ造リ「セメント」ヲ以テ裝置シ兩顎齒間ヲ分離シテ上前齒ト下前齒トハ全ク離開スルニ至ラシム次ニ上顎全部ノ印象ヲ探得シ普通ノ方法ニヨリテ蒸和護膜

ヲ以テ口蓋板ヲ作り前齒ノ口蓋面ニ對スル部分ヲ肥厚シ孔ヲ穿テ之ニ橙木片ヲ挿入シ其木片端ノ上前齒口蓋面ニ壓抵スル様ニナシ置ク時ハ水分ヲ吸收シテ漸々膨脹スルニヨリ上前齒ヲ前方ニ轉位セシム漸次長キ木片ト更換シ下前齒ヲ超ユルニ至ラバ上下前齒ノ相衝突スルニヨリ正位置ニ至ルガ故ニ裝置ヲ去リテ可ナリ

二 前者ト同一ノ裝置ニシテ唯橙木片ヲ用ユル代ニ「ゲヤックスクリュー」ノ一端ヲ口蓋板中ニ埋没シ一端ヲ轉位スベキ齒牙ニ壓抵シ漸次之ヲ旋轉推進シテ適當ナル位置ニ至ラシム

三 又カタラン氏斜板ヲ用ユルコトアリ下顎ノ右側第一大白齒ヨリ左側同名齒ニ至ル金屬架ノ床ヲ造リ並

前齒部ニ於テ下顎前齒唇面ニ傾斜セル銀ヲ織着ス然ル時ハ閉口毎ニ度斜ハ上顎前齒口蓋面ニ衝突スルニヨリ上前齒ハ漸次前進ス又此斜板ハ全部保護膜ヲ以テモ製作スルヲ得ベシ

第四十六問 齒槽膿瘍ノ豫後

齒槽膿瘍ノ豫後ハ一般ニ佳良ナリ根管ヲ十分ニ開大シ得テ藥液膿液ニ到達シ尙ホ瘻口ニ通過スルヲ得バ容易ニ全治スベシ根管屈曲シ或ハ膿瘍齒根ノ側部ニ附着シテ藥液到達セザルカ或ハ甚ダシキ慢性症ハ治療困難ナレモ外科的膿瘍破壞法ヲ施シ齒槽膿瘍ヲ治癒スレバ殆ンド治癒セザルコトナシ慢性症ハ再發ノ憂ナキニ非ズ

第四十七問 漂白術ノ方法及術後齒牙ヲ

充填スル方法ヲ示セ

一 準備 1 前齒ニ於テハ口蓋面、小白齒ニ於テハ
 咀嚼面ヨリ開口シテ(齶窩アルモノハ其部ヨリ)齒髓
 ナ抽出シ根管ヲ擴大シテ齒髓ノ分解物等ヲ悉ク除去
 シ齶蝕部ハ勿論變色部モ漂白後充填物ヲ維持シ得ル
 丈ケノ窩壁ヲ殘シテ齒質ノ大部分ヲ別除ス此際齶屬
 充填チモ除去スベシ何トナレバ金屬ハ漂白劑ト化合
 シテ特異ノ染色ヲ生ジテ脫色シ難キアプレバリ2
 安母尼亞水溶液、硼砂溫溶液、重曹水硼酸水等ヲ以
 テ窩洞ヲ洗滌シ清潔ナラシム之ニ用ユル藥品ハ蛋白
 質ヲ凝固スルモノヲ避クベシ是漂白劑ノ細齒管内ニ
 滲入スルヲ妨グルモノナリ3 齶管百兒加チテ根管
 尖端三分ノ一ヲ充填スベシ是レ藥品ノ齒質ニ侵害ス

ルヲ防グモノナリ4 漂白ノ際ハ防護誤ヲ裝置シテ
 患齒ノミヲ露出セシム是藥品ノ軟組織或ハ他齒ニ觸
 接スルヲ妨グルモノナリ

二 漂白法 種々アレハ大別シテ四種トス1 格魯兒
 漂白法ハ格魯兒石灰或ハ格魯兒曹達ト磷酸或ハ酒石
 酸或ハ碳酸ヲ用ユ2 過酸化漂白法ハ過酸化曹達、
 過酸化水素等ヲ用ユ3 亞硫酸漂白法ハ亞硫酸瓦斯或
 ハ硫酸那篤爾誤ト硼酸ノ混合物ヲ用ユ4 電氣漂白法
 ハ電氣ノ作用ニヨリ過酸化水素ヲ齒質中ニ透入セシ
 ムルモノナリ其中一二ヲ摘記セン

三 トルーマン氏法 先ツ前記ノ準備ヲ施シ精其ナ
 ル格魯兒石灰ヲ髓腔ニ入レ五十%磷酸ヲ以テ之ヲ濕
 ホシ齶管百兒加チテ封鎖ス一回ヲ以テ目的ヲ達セ

充填チ施シ變色ヲ再現スルノ憂ナキヲ確メタラバ永久
 充填チナスベシ

第四十八回 再植術ノ方法

再植術ハ外襲暴力或ハ誤抜ニヨリテ拔去セラレタル
 齒牙或ハ齒根、齒膜ノ治癒シ難キ疾病ニ罹レルモノ
 ナ拔去シテ再ビ其齒槽窩ニ植立スル方法ナリ

一 齒牙ノ準備 拔去セラレタル齒牙ハ直ニ防腐液
 (5%石炭酸水)等ヲ以テ洗滌シ血餅、齒石、血石其他
 病的產物ヲ除キ根尖端或ハ齶窩ヨリ齒髓ヲ抽出シ根
 管ヲ擴大シテ齶管百兒加或ハ金箔ヲ以テ根管充填チ
 施シ齶窩モ亦永久充填チ施ス若シ齒冠ノ破壞甚タシ
 キモノハ人工齒冠ヲ繼續ス又齒槽底ノ狹縮セル時ハ
 根尖端ヲ切除シテ適當ノ長サトナスヲ要ス後昇永溫

ザル時ハ一兩日後反覆ス漂白其効ヲ奏セバ熱湯ヲ以
 テ窩内ヲ洗滌シ化生物及藥品ノ殘餘ヲ溶去ス次ニ吸
 濕紙及熱空氣ヲ以テ乾燥シ格魯兒「セメント」ヲ以テ
 充填ス此「セメント」白金製ノ器具ハ絶對的ニ用ユベカ
 ラズ格魯兒ト化合シテ治シ難キ染色ヲ與フルモノナ
 リ故ニ蒸和護膜製、骨製、及象牙製ノ器械ヲ用ユベシ

四 過酸化水素用法 細キ可撓性神經針ニ綿花ヲ卷
 キ之ニ二十五%「パイロロン」溶液ヲ浸シ髓腔ニ貼付
 シ乾燥器ヲ以テ依的兒ヲ揮發セシム數回之ヲ反覆シ
 尙ホ効ヲ得ザル時ハ「パイロロン」ヲ綿球ニ浸シ根管
 ニ入レ齶管百兒加チテ被蓋シ二十四時間放置ス全
 ク脫色シタル後窩内ヲ洗滌シ後充分乾燥シ「コーパ
 ル」クリスタリン」等ヲ齒質中ニ滲入セシメ暫間充

溶液又ハ沃度丁幾チ加ヘタル温湯中ニ浸漬ス

二 齒槽ノ準備 齒槽ハ凝血チ去リ防腐、消炎法チ施ス特ニ稀薄齒槽ニアツテハ膿チ除キ五%石炭酸水ニ温湯チ加ヘタルモノチ以テ消毒洗滌シ疾病チ全治セシメ消炎、消毒完全シテ組織新生機能ノ發起セル時手術スベシ

三 齒牙ノ植置 次ニ準備セラレタル齒牙チ取リテ齒槽ニ嵌入シ正位置ニ壓抵シ咬合關係ヲ察シ動搖セザル様細糸或ハ金線チ以テ隣齒ニ結紮シテ固定ス但シ最モ完全ナルハ其部チ印象シ金銀チ以テ被帽チ作り「セメント」チ以テ兩隣齒ト共ニ合着スルニアリ

四 後療法 術後往々齒齦部ニ炎症チ起シ或ハ化膿スルコトアルヲ以テ日々沃度双關菊丁幾チ塗布シ收斂

性含嗽劑ヲ命シ毛筆、刷子チ以テ齒間ノ汚物チ去リテ酸酵作用ヲ豫防シ又噴霧器チ以テ防腐藥チ散布シ完全ニ骨植セラル、迄安置ス

第四十九回 植齒術ノ種類及植齒ノ固定

スル理由

植齒術トハ他ノ齒牙若クハ脫失セル齒牙チ扶植スル法ニシテ術式三種アリ(一)再植術 外傷ニヨリテ轉位或ハ脫失シタル齒牙或ハ治癒ノ見込ナクシテ拔去シタル齒牙チ再ビ從前ノ齒槽ニ植立スル方法ナリ拔齒直後或ハ齒槽内ノ新生組織チ以テ充滿セラレザル以前ニ限リ行フチ得(二)移植術 一ノ天然齒チ固有ノ齒槽ニ非ザル他ノ齒槽ニ移植スル方法ニシテ偶然ノ事變ニヨリ齒牙チ失ヒタル時及如何ナル方法チ以

脱落セザルナリ

第五十回 齒髓乾屍法ハ如何

齒髓乾屍法トハ失活セシメタル齒髓チ抽出セズ或ル藥品チ以テ腐敗チ豫防シ所謂木乃伊狀トナシ永久ニ防腐的ノモノタラシムル方法ナリ先ヅ亞砒酸煉劑チ以テ齒髓チ失活セシメタル後髓腔ニ於ケル抽出シ易キ齒髓ノ一部チ除去シ殘髓ニ對シテハ乾屍劑ノ一片チ髓腔ニ置キ「アマルガム」充填器チ以テ壓搾シ其上チ金箔ニテ蒸護シ適宜ノ材品チ充填ス但シ應用スベキ齒牙ハ按髓ノ困難ナル白齒部ニ限ル乾屍劑ノ處方一二ヲ擧クレバ

一 ミルレル氏處方 昇汞〇、〇〇七五 知母兒

〇、〇〇〇七五 右錠劑トス(一齒貼用ノ量)

モ保存應用シ得ザル齒牙チ拔去セル時ニ行フ(三)嵌植齒髓根ヲ受容スル爲メ人工的ニ齒槽チ形成シテ植齒スルノ方法ナリ現存セル齒槽ノ大小形狀チ變成スルモ亦然リ按齒後久シク經過シタルモノ或ハ齒牙チ發生セザルモノニ行フ

植齒ノ固定スル理由ニ就テハ未ダ確説アラズ或學者ハ齒膜ノ再甦チ唱ヘテ生理的作用ナリト説クモ信ズベカラズ唯植齒後ハ齒膜失活セルガ故ニ生活時ノ如ク骨質ト齒牙トノ間ニアリテ座穩的作用ヲ營ム丁能ハズ齒根ハ一ノ刺戟物トナリテ齒槽内ニ炎症チ惹起シ其結果齒根ノ吸收チ將來ス然ルニ骨質ハ却テ新生機能チ旺盛シ該吸收部チ充塞シ恰モ繼續齒合釘ノ刻目ニ「セメント」ノ充塞セルガ如キ狀態トナリ容易ニ

二 ベンチケシ氏處方 古加乙混二、〇 知母兒

一、〇 酸化亞鉛二、〇 「フガルマリン」十滴

右研和煉合ス

第五十一問 「アマルガム」ノ成分及含有

金屬ノ効用

齒科ニ於テ使用セラル、**「アマルガム」**ハ下ノ諸金屬ヲ含有ス(一)錫「アマルガム」ニ可塑性ヲ與ヘ又「アマルガム」ニシヨシ「容易ナラシム」(二)銀 前者ト共ニ「アマルガム」ノ主要成分ニシテ「アマルガム」ノ球狀傾向ヲ減シ硬固性ヲ與フ(三)金 「アマルガム」ノ球狀傾向ヲ減シテ硬化ヲ速カラシメ色澤ノ變化ヲ防グ(四)白金 「アマルガム」ヲシテ水銀ト抱合ヲ速カナラシメ非常ニ硬性ヲ増加ス(五) 其他銅及亞鉛ヲ

含有スルモノアレハ其効力少キガ如シ

齒科用「アマルガム」ノ一二ノ組成ヲ示セバ左ノ如シ

一 タウレンセンド氏 錫五四、五 銀四四、五

金一、〇

二 ダイアモンド 錫六六、七四 銀三一、七六

金一、五

三 チース氏 錫一六四、〇 銀九八、四 金〇、四

一五 白金〇、四一五

第五十二問 齒髓炎ノ原因療法及對症療法

一 原因療法 病原ヲ除去シテ之ヲ治癒セシムルコトニシテ1齒髓炎症ノ傳達波及ニヨルモノハ齒髓ヲ鈍麻シ或ハ失活セシメテ拔髓スベシ2腐敗瓦斯ノ根管ニ密閉セラレタルニヨルモノハ左手患齒ヲ支持シ

右手銳利ナル器械ヲ以テ齒質及充填材ヲ除キ髓腔ヲ開放シ腐敗髓ヲ抽出シ充分清淨トナシ防腐劑ヲ挿入ス3器械的刺戟ニヨルモノハ充填物ノ過高ノ爲ナラバ之ヲ別削シ不適合義齒ノ爲ナラバ之ヲ改造シ根管充填ノ不完全ナラバ充填ヲ去リ根管ヲ清淨トナス齒石沈着ノ爲ナラバ之ヲ除去ス4化學的ノ刺戟即藥品等ニヨルモノハ其使用ヲ禁シ根管ヲ洗滌ス5全身病ニ由來スルモノハ全身療法ヲ施ス

二 對症療法 諸症狀ヲ消退セシメ或ハ其増進ヲ防グモノニシテ1充血腫脹ヲ緩解シ滲出物ヲ吸收シ疼痛ヲ止ムルガ爲メ沃度丁幾、双關菊丁幾、呀囉仿誤等ヲ齒齦ニ塗布シ收斂性含嗽ヲ命シ頰部ヨリ巻法ヲ施ス又麻醉藥ノ注射、内服、塗布等ヲ行フ2齒齦刀

以テ齒槽ニ達スル迄深く穿入シテ瀉血シ或ハ水煙ヲ貼シテ充血ヲ吸取セシメ或ハ水ヲ以テ冷却シ或ハ下劑ヲ内服シ或ハ刺戟藥ヲ他部ニ貼シテ血液ヲ誘導ス

第五十三問 如何ナル作用ニヨツテ漂白

劑ハ齒牙ヲ漂白スルカ

齒牙ノ變色ガ漂白法ニヨツテ脫色スルハ其染色々素ト漂白劑トノ間ニ起ル化學的變化ニヨルモノナリ蓋其化學的作用タル色素ノ原子ノ集合及排列ヲ變シテ無色ノ物質ヲ化生スルニヨリ變色ヲ恢復シ得ルモノナリ而シテ漂白劑ニ二種アリテ各其化學的作用ヲ異ニス

一 發生機ノ酸素ヲ以テ作用スルモノ1格魯兒及其化合物、沃度、靛羅謨等ハ間接ノ酸化作用ニシテ先ヅ

含有水分中ヨリ水素ヲ奪取シ發生機ノ酸素ヲ游離シ
 強烈ナル酸化作用ヲ營ムガ故ニ色素中ノ水素ヲ奪フ
 テ其分子組成ヲ破壞スルノミナラズ遊離酸素ニ依テ
 酸化作用ヲ呈シ兩々相俟テ漂白ノ効ヲ奏ス2 過酸化
 水素及過酸化曹達ハ直接ノ酸化作用ニシテ緩ク抱合
 セル過剰ノ酸素ヲ遊離シ色素ニ對シテ酸化作用ヲ營
 ム此際泡起及鹼化作用ニヨツテ細齒管内容物ヲ壓出
 シ或ハ溶解シテ清淨ナラシム

二 亞硫酸ニシテ其作用ハ還元作用即酸素ニ對スル
 親和力ニヨルモノナリ本品ハ色素中ヨリ酸素ヲ奪テ
 化合シ色素成分ヲ破壞シテ着色ヲ消滅セシム

第五十四問 電氣透藥術ノ方法

先ツ防濕護膜ヲ裝置シテ患齒ヲ孤立セシメ若シ金屬

ルヤ否ヤヲ檢スベシ此際患者平然メラバ奏効ノ微ナ
 ルヲ以テ把柄ヲ零點ニ逆旋シ導子ヲ撒シ手術ニ着手
 スベシ奏効ニ至ルノ時間ハ通常八分乃至十五分ニシ
 テ電動力ハ十五乃至二十「ボルト」ニテ足レリ

第五十五問 三叉神經痛ノ原因及症候

原因 三種アリ(一)末梢性 原因ハ神經徑路ニ於ケ
 ル炎症、滲出物或ハ骨痛ニヨル壓迫、齒膜炎、白堊
 質肥大症、埋没齒、智齒難生、上顎齶蓋膜其他顔面
 ノ軟部及骨ノ諸病ニヨリテ起ル(二)中樞性 原因ト
 シテハ腦及其被膜ノ腫瘍、梅毒、鉛中毒其他中樞器
 官ノ疾病ナリ(三)反射的 原因トシテハ歇斯的里、
 泌尿生殖器病、麻刺利亞、精神感動、便秘、感冒、
 齒痛等ナリ

充填アラバ「バニツシ」ヲ以テ被包シ高洞内ノ腐蝕
 部ハ決シテ除去スベカラズ而シテ一〇%ノ古加乙濕
 其他ノ麻酔藥ヲ浸シタル綿花ヲ高洞内ニ緩ク充填シ
 積極導子ノ白金針頭ハ該藥液ヲ浸シタル「リント」ニ
 テ包ミ高洞内ノ綿球ニ觸接ス消極導子ハ手掌及頰部
 等適宜ノ位置ニ當ツベシ若シ該部乾燥シ居ラバ食鹽
 水ヲ浸シタル布片ヲ置クベシ此際電流ノ徑路ハ一ノ
 圓道ヲ作り電地、節電器、「ミリアンペア」メートル
 積極導子、患者、消極導子ト云フ順序ナリ

初メ節電器ノ把柄ヲ零點ニ置キ漸次ニ把柄ヲ旋回シ
 テ電流ヲ増加シ患者疼痛ヲ訴フル時ハ少シク逆旋シ
 テ疼痛ヲ緩解シ後再ビ旋進ス斯クテ麻酔作用充分ナ
 ルニ至ラバ節電器ノ把柄ヲ急激ニ旋回シ反應ヲ感ズ

症候 本症ノ主徴ハ疼痛ニシテ多クハ發作性ニ來リ
 持續性ナル「少ナシ又疼痛ハ多ク限局セズシテ放散
 シ患部ノ所在ヲ知ル「能ハズ誤テ多數ノ齒牙ヲ拔去
 スル等ノ例ハ屢々見ル所ナリ疼痛ハ刺スガ如ク患側
 ノ顔面筋ハ痙攣ヲ起シ眼中涕淚ヲ堪ヘ患者ハ苦悶、
 不快、神經過敏トナリ食慾不振、睡眠不足ノ爲大ニ衰
 弱ス而シテ神經痛ノ領域ハ各枝ニヨツテ異レリ(一)
 第一枝ハ前頭、額部、眼、眼瞼ニ發痛シ(二)第二
 枝ハ上顎骨眼下部、上唇、上顎齒ニ發痛シ(三)第三
 枝ハ下顎齒、頰部ニ發痛ス

第五十六問 上顎齶蓋膜症ノ原因症候及

療法

原因 「インフルエンザ」、鼻腔内化膿症ノ傳播、外傷

異物ノ竄入、齒槽膿瘍等ナリ最後ノ原因ニヨルモノ
ハ齒科ニ於テ最モ必要ナリ上顎第二小白齒及第一大
白齒ハ其根端竇ニ近接シ唯菲薄ノ骨壁ヲ以テ境スル
ノミナリ甚シキハ竇内ニ突出セルモノアリ故ニ一度
其根ニ膿瘍ヲ發センカ膿汁ハ容易ニ竇内ニ排出セラ
レテ蓄膿ヲ起ス

症候 初メ眼下ニ鈍重ノ感アリ頭痛及記憶減少ヲ來
シ鼻腔或ハ齒槽突起ニ開口セル尿管ヨリ膿汁ヲ漏ス
粘膜ノ腫脹ノ爲メ竇孔閉塞スル時ハ膿ノ蓄積ニヨリ
竇壁ノ擴張ヲ來シ骨ヲ壞死セシメテ穿孔スルヲアリ
又外部鼻側ノ軟組織ハ浮腫シテ疼痛ヲ發ス

療法 (一)先ヅ排膿ノ通路ヲ作成スルヲ要ス其方法
三種アリ一第二小白齒或ハ第一大白齒ヲ抜去シ、

一或ハ穿骨鑿ヲ以テ齒槽高底ニ穿孔ス若シ原因
ル患齒ノ存在スル時ハ最モ採用スベキ法ナリ二犬齒
高ノ部ニ於テ粘膜ヲ切開シ骨膜ヲ剝離シ「トレフィ
ン」、鑿或ハ套管針ヲ以テ穿孔ス三風曲セルシクリッ
ツ氏ノ穿刺針ヲ以テ下甲介ノ高サニ於テ下鼻道ヨリ
穿孔ス(二)次ニ交通孔ニ「ガーゼ」ヲ栓塞シ或ハ蒸和
繭ノ栓ヲ挿入シ或ハ尿管ヲ挿入シテ癒着ヲ防ギ排
膿ニ便ス而シテ三「バイロソ」ノ、過飽飽酸加里溶
液、硼酸水、石炭酸曹達、食鹽水、「ヒドロナフトー
ル」等ヲ以テ日々洗滌シ又沃度仿膜ヲ撤布ス

第五十七回 窩口瘡ノ症候及療法

症候 主トシテ嬰兒ニ來リ「サワロミチニス、アルビ
カンス」ナル芽生菌ノ寄生ニ歸口ス初メ口腔粘膜面

ニ點狀或ハ線狀ノ凝乳樣斑ヲ現出シ次テ褐色ニ變シ
相連合シテ表面不等ナル一大斑ヲ形成シ深ク粘膜中
ニ侵入シテ容易ニ剝離セズ斑ハ初メ舌ニ次テ全口腔
ニ生シ途ニハ咽頭、後鼻孔ニ蔓延スルヲアリ患部ハ
潮紅灼熱ヲ感シ舌ハ皸裂シ疼痛甚ク食物攝取困
難、口渴、嘔吐、下利、衰弱等ヲ發ス

療法 食物ハ流動性食物ヲ與ヘ牛乳ニハ石灰水ヲ混
合シテ用ユ食器ハ充分消毒スベシ患部ハ重曹溶液ヲ
軟布ニ浸シテ器械的ニ清潔トナシ硼酸水、鹽酸加里
水ノ含嗽ヲ命シ硼酸偏里設林ヲ塗擦ス重症ニハ伊比
知阿布爾、二百倍硝酸銀溶液、一%「プロタルゴ
ル」等ヲ塗布シ強壯劑及鹽剝ヲ内服セシム

第五十八回 水痘ノ原因及症候

原因 口腔ニ發スル濕性膿疱ナリ主トシテ二歳乃至
五歳ノ小兒ヲ侵シ大人ニハ極メテ稀ナリ通常體質
弱ナルモノ、重患經過中ニ併發ス即腺病性小兒、消
化器病者、發疹病、麻疹、痘瘡、熱病、肺炎、瘰癧
斯、麻刺利亞、他ノ口腔炎、營養不長、衣食住ノ不
潔等ト關係シ誘因トシテハ一種ノ細菌ナリ

症候 前驅症トシテ齒齦炎、倦怠、不眠、食慾不振
口渴、顔貌枯瘦、蒼白色、衰弱、盜汗等ヲ發シ約一
週日ノ後口腔、齒齦ニ發痛、充血、腫起、癢痒ヲ感
シ唾液溢流、呼吸惡臭ヲ帶ビ頰及齒齦粘膜ニ濁汁ヲ
滿セル灰色ノ小泡ヲ生シ潰爛シテ不規則ノ銳縁ヲ有
スル小潰瘍ヲ生シ褐色ノ腐肉ヲ付ス外縁ハ眞紅色ニ
シテ容易ニ出血ス此潰瘍ハ忽チ組織ニ蔓延シ眞紅色

斑ハ増大シテ黒色ニ變シ一週日ヲ經レバ組織全ク破
壞シ腐肉ハ剝離シ頸骨ヲ暴露スルニ至ル此際開口、
攝食困難トナリ全身衰弱シ敗血症全身病即發熱、神
識減乏、謔語等ヲ發シ小葉性肺炎、壞疽性肺炎、惡臭
下利等ヲ來シ約二三週日ニシテ死ス

第五十九問 喉嚢腫ノ原因症候及療法

原因 發生ノ原因ニ就テハ未ダ確説ナシハウゼン氏
ハプランゲンメーン氏腺排泄主管ノ閉塞ニ由リ分泌
物蓄積ノ爲癰腫ヲ發生スルモノナリトシノイマン氏
ハ甲狀舌管ノ殘物ヨリ發生スルト多シト稱セリ蓋シ
舌下腺排泄管ノ閉塞説ハ誤レルガ如シ
症候 舌下ノ粘膜炎ニ占位スル癰腫ニシテ其形球狀
チナン粘膜炎トニ移動シ得ベク又菲薄ナル粘膜炎ト通シ

第六十問 唾腺結石ノ原因及療法

テ内容ヲ透見スルチ得内容ハ粘稠ノ液體ニシテ卵白
ニ酷似シ通常無色ナレバ時トシテ綠黄色、帶赤色、褐
色ナルトアリ其成分中「ムチン」、「ナトロン」、「アル
ブミナート」ヲ存シ「ローダン」加里及「ブチアリン」
ナシ發育ハ緩慢ニシテ初ハ障礙ヲ起サレモ増大ス
レバ言語、嚥下ヲ妨ケ時ニ病毒ヲ感染シテ炎症ヲ發
スルトアリ
療法 切開スルノミニテハ創口閉塞シテ直ニ再發シ
無効ニ歸スルガ故ニ先ヅ古加乙涅ノ局所麻酔ヲ施シ
有鉤鑷子ヲ以テ撮擧シツ、剪チ以テ可及的的全部ヲ切
除シ殘壁ノ邊縁ヲ口腔粘膜炎ニ縫着シ壁ハ電氣燒灼器
ヲ以テ一面ニ燒灼ス

原因 唾液腺又ハ排泄管内ニ結石スルモノナリ其核
トナルハ輸尿管口ヨリ侵入セル異物ニシテ刷子毛、
魚骨、木片、菓子、果實片、齒牙破片等ナリ之ニ唾
液成分ノ磷酸石灰及炭酸石灰ヲ沈着シ紡錘形或ハ楕
圓形ノ大豆大ヨリ鶏卵大ニ至ル結石ヲ作ル或種ノモ
ノハ細菌ヲ混ズルトアリ

療法 繊細針ヲ管口ヨリ刺入シテ其音響ニヨリ或ハ
試穿ヲ施シ液ヲ採取シテ豫診シ口腔内ヨリ唾石所在
部ヲ切開シ結石ヲ摘出シ後口腔ヲ洗滌シ清潔ニ保護
セバ創口ハ直ニ治癒シ唾液ノ排泄常態トナル但シ腺
實體ヲ切開シタル時ハ縫合スルヲ要ス

第六十一問 下顎骨折ノ療法

一 整復 先ヅ折片ノ轉位ヲ整復スルヲ要ス若其整

復困難ナル時ハ麻酔ヲ施スベシ後之ヲ固定ス

二 固定 正位ニ固定スルハ種々ノ方法アリ(一)頸
症ニハ頤投石帶、四頭提頸帶或ハ複項頤帶等ノ繃帶
ヲ施シ尙之ニ綿紗繃帶、義布斯繃帶或ハ水硝子繃帶
ヲ施シ上下兩頤齒牙ヲ固ク相接着セシム(二)頤部ヲ
印象シ適當ノ材品(直ニ個百兒加チ軟化シテ作ルモ
可ナリ)ヲ以テ頤蓋蓋ヲ作り後頭帽ト共用シテ固定
セバ前者ヨリ完全ナリ(三)骨折ノ兩側ニ於テ下頤前
後面ノ齒齦ヲ切開シ鑽骨器ヲ以テ骨ヲ鑽穿シ銀線ヲ
用ヒテ兩折片ヲ固定ス(四)骨折兩側ノ齒牙ヲ互ニ結
紮シテ骨折端ヲ接合セシム(五)骨折部ニ近キ兩側ノ
齒牙ヲ對合齒ト結紮シ各骨片ヲ同高ニ支持ス(六)下
頤ヲ印象シ金屬若クハ蒸和「ゴム」ヲ以テ齒牙ヲ除キ

下顎全面ヲ被フ齒間副木ヲ製シ四個所位ニ於テ齒
 牙ト結紮シ尙外部ヨリ綑帶ヲ施ス(七)副木ハ又金屬
 線ヲ以テ造リ齒列ヲ圍繞シ臼齒部及前齒部ニ於テ唇
 面ノ副木ト舌面ノ副木トヲ共ニ結紮ス(八)整復ニ先
 テ印象シ之ニヨツテ副木ヲ製シ骨折部ニ於テ兩半
 部ニ切斷シ各半部ヲ顎ニ固定シ後「スクリウ」ヲ以テ
 兩者ヲ正位置ニ保持ス(九)副木及願蓋ヲ製シ下顎
 前面ヲ越エテ「スクリウ」其他ノ裝置ヲ以テ緊束ス
 三 後療法 顎ヲ固定セバ患者ヲシテ可及的開口セ
 シメズ專ラ流動食物ヲ與ヘ口内ヲ清潔ニ保チ局部ニ
 沃度丁幾ヲ塗布スレバ四乃至六週ニシテ治癒ス
 第六十二問 亞酸化窒素麻醉法
 先ツ患者ヲシテ手術室ニ倚リ拔齒其他ノ手術ニ適當

ナル坐位ヲ取ラシメ開口器ヲ裝置シ他ノ全身麻醉ト
 同一ノ注意ヲ以テ始ムベシ
 瓦斯ニ酸素二〇%ヲ混シテ笑氣瓦斯トシテ用ユルヲ
 好トス迷朦ハ大率二乃至四分時内ニ起リ上下兩唇ノ
 蒼色ヲ呈スルハ迷朦既ニ充分ナル徵候ナルガ故ニ直
 ニ手術ヲ行フベシ吸入ヲ止ムルノ後約一分時ニシテ
 醒覺スルモノナリ
 瓦斯ノ貯蓄器ニ數種アルト共ニ其方法モ亦異レリ今
 フレデリック、ヘウウィット氏ノ裝置ニヨツテ説カン
 其裝置ハ三個ノ鐵筒ヲ有シ二個ハ亞酸化窒素ヲ包
 容ス各筒ヨリ鐵管ヲ發シ合ソ「ゴム」管トナル一個
 ハ酸素ヲ包容シ一管ヲ發シ前ノ管ト共ニ重複ニ至
 レル兩室中一ハ亞酸化窒素ニ一ハ酸素ニ通シ上端ハ

瓦斯混合室ニ至ル混合室ノ部ニハ驗壓器アリテ瓦斯
 混合ノ比例ヲ計算ス混合室ヨリハ直ニ假面ニ至ル施
 用法ハ重複室內ノ空氣ヲ排除シ代リニ亞酸化窒素及
 酸素ヲ充シ初メ混合室ノ開口部ヨリ空氣ヲ吸入セシ
 メテ呼吸ノ自由ナルヤ否ヤヲ試ミ次デ「ゴム」指示シ
 タル指針ヲ進メテ $\frac{N_2O}{10}$ ニ至ラシムレバ純亞酸化窒
 素ノ吸入ヲ開始スルガ故ニ漸次麻醉ニ進ム以後ハ漸
 次ニ患者ノ徵候ニ應ジテ $\frac{N_2O}{10}$ ヨリ $\frac{N_2O}{10}$ ニ
 至ラシム
 迷朦中ニ起ル危險徵候トシテハ失神及虛脫ナリ其救
 急法ハ頸及胸部ヲ裸露シ口腔、鼻腔ヲ開放シテ清潔
 トシ舌ヲ牽出シ上肢ヲ上下ニ動かシテシルベスター
 氏人工呼吸法ヲ施シ或ハ心尖搏動部ヲ叩打シテ心機

同法ヲ施ス
 第六十三問 齒科ニ於ケル局所麻醉法
 一 藥液噴霧法 蒸發シ易キ藥品ヲ局所ニ噴霧シ依
 テ發起スル寒冷ニヨリ麻醉ス依的兒ヲ應用センニハ
 布片ヲ以テ唇頰其他ノ不要部ヲ保護シ依的兒噴霧器
 ニ由テ一二分間噴霧スレバ局部ハ初メ赤色トナリ次
 ニ依的兒ノ蒸散ニ由テ起ル寒冷ニヨリ氷結シテ白色
 羊皮紙狀トナリ知覺ヲ失フ又「クロールニチール」ハ
 容器ヲ掌中ニ把握スレバ體溫ニヨリ沸騰シ細微ナル
 管孔ヨリ噴霧狀トナリテ進出ス其他「クロールメチ
 ール」「リゴリン」等モ亦此目的ニ使用ス
 二 藥液注射法 麻醉藥ヲ組織ニ注射シ依テ末梢神
 經ヲ鈍麻セシム其方法ハ口内局部ノ濕氣ヲ棉花ニテ

拭ヒ防腐藥或酒精ヲ以テ消毒シ充分消毒シタル注射器ニ一%古加乙濕溶液、五%歐加乙濕溶液等ヲ盛り針尖ヲ組織ニ穿入シテ齒齦、齒槽内或ハ粘膜下ニ注射ス此際膿ノ存在部及骨膜ニ注入スルヲ避クベシ供用藥液ノ處方二三ヲ舉レバ

- 鹽酸古加乙濕 一氏 石炭酸 一氏 「アトロヒ子」五分ノ一氏 一%「ニトログリセリン」溶液五十滴水ニテ
- 古加乙濕 五、〇「アンチピリン」一五、〇 水八〇、〇
- 歐加乙濕 五、〇「アタリナリン」三滴 水一〇〇、〇

蒸溜水 一〇、〇

又彼ノ有名ナルシユライヒ氏浸潤麻醉ハ古加乙濕稀液ノ多量ヲ注入シ人工水腫ヲ起シ貧血、壓迫、厥冷ニ于與シテ知覺ヲ脫失ス浸潤液處方ハ三種アリ

- 強液 鹽酸古加乙濕 〇、二 鹽酸莫兒比濕 〇、〇 食鹽 〇、二 蒸溜水 一〇〇、〇
- 中液 鹽酸古加乙濕 〇、一 鹽酸莫兒比濕 〇、一 食鹽 〇、二 蒸溜水 一〇〇、〇 (極量五〇、〇)
- 弱液 鹽酸古加乙濕 〇、〇、一 鹽酸莫兒比濕 〇、〇、五 食鹽 〇、二 蒸溜水 一〇〇、〇 (極量五〇、〇)

三 藥液塗敷法 塗敷セル藥液ノ吸收ニヨツテ淺表部ノ知覺ヲ鈍麻スルモノナリ其方法ハ二〇%古加乙濕溶液、「ボア」古加乙濕、「オルトフォルム」、二〇%歐加乙濕、純石炭酸等ヲ唾液ヲ拭去シ乾燥シテ濕氣ヲ去リタル部ニ再三貼付シ三乃至五分時ノ後手術ス

四 電氣透藥法 (第五十四回參照)

第六十四回 口腔消毒法

口腔ハ細菌ノ好適ナル繁殖器ナルガ故ニ手術ニ先チ患部及其周圍ヲ消毒セザレバ器械ノ消毒如何ニ完全ナルモ口腔内ノ細菌ヲ患部組織ニ傳染スルノ恐アリ其消毒法ニ三種アリ(一)全口腔ヲ消毒センニハ殺菌シタル牙刷子ヲ以テ齒牙ヲ淨磨シテ器械的ニ清淨ト

ナシ次ニ有力ナル防腐洗劑ヲ以テ頰回含嗽セシム(二)齒齦等ノ如キ軟組織ノ局部ヲ消毒センニハ一度防腐的含嗽ヲナサシメタル後簡易防腐法ヲ施シ酒精ヲ棉花ニ浸シテ粘膜上ヲ精拭シ次ニ石炭酸水、昇汞水等ノ防腐藥ヲ以テ消毒セル後手術スベシ(三)齒牙ヲ消毒センニハ齒牙ノ周圍ニ附着セル食物殘片及齒石ヲ除キ強防腐藥ヲ以テ洗滌シ防腐法ヲ施ス又齦窩内ハ汚物ヲ去リ防腐藥液ヲ以テ洗滌シ充分乾燥シタル後「フォルマリン」、桂皮油、有加里油ノ如キ揮發性防腐藥ヲ貼シ暫時放置シ全窩洞ノ消毒セラレタル後手術ス

防腐的洗劑ノ一二ヲ記セバ左ノ如シ
一 「リゾール」半勺 水一六勺

二 過滿飽酸加里一、〇 水一〇〇〇、〇

三 三%「ハイロソ」

四 知母兒四氏 安息香酸四五氏 「ユーカリブ

メス」三、半 酒精二五、〇 「ウキンターグリーン」

油二五滴 右數滴ヲ水ニ滴下シ稀薄ニシテ用ユ

五 阿仙藥丁幾五、〇 密兒拉丁幾五、〇 芳香丁

幾五、〇 稀酒精一〇〇、〇 薄荷油〇、五 茴香

油〇、五 右一茶匙一盞ノ水ニ和シテ用ユ

第六十五問 拔牙術ノ適應症禁忌症及之

ニ依テ起ル偶發症ト其治療

トヲ記セ

適應症禁忌症(第三十五問及第三十八問參照)

偶發症 拔牙後ニ起ル偶發症ハ甚ダ多クニシテ一々

列舉スルニ勝ヘス今最モ屢起ルモノ、ミヲ記サン

一 齒齦裂傷 齒齦ノ一部拔去セル齒牙ニ緊着セル

爲メ齒齦ノ裂傷ヲ起シ肉片ノ浮動セルモノアラバ缺

子ヲ以テ切除スベシ若シ其裂傷廣部ニシテ齒槽ヲ露

出セル時ハ靜ニ原位置ニ復シ副木ヲ以テ壓定保持ス

ベシ

二 齒槽破壞 骨片ノ破壞小部分ナル時ハ敢テ特別

ノ治療ヲ施スチ要セズ唯齒槽ノ粗糙線ヲ「コロソダ

ム」、切断鉗子等ヲ以テ平滑ナラシムレバ足レリトス

若シ大部分ナル時切傷骨片ノ除去セラレサルモノハ

之ヲ原位置ニ壓定シ置ケバ多クハ恢復スルモノナリ

時トシテ壓定副木ヲ要スルコトアリ

三 止血困難 拔牙後ニ於ケル出血ハ出血素質患者

迅速ニ止痛スルモノナリ

五 腦貧血 婦人及虛弱患者、神經質患者ニハ壓々

アル者ナリ靜ニ仰臥セシメテ頭部ヲ低下シ胸部ノ衣

服ヲ寬ニシテ呼吸ヲ容易ナラシメ亞硝酸亞密兒ノ二

三滴ヲ吸入セシムルカ或ハ火酒、赤酒、甘硝石精等

ノ興奮藥ヲ内服セシム

六 誤抜 患齒ト同時ニ誤ツテ隣ラ拔去シ或ハ動

搖セシメタル時ハ原位置ニ再植シ尙ホ副木ヲ以テ固

定シ沃度丁幾ヲ塗布スベシ又患齒ト誤認シテ他齒ヲ

拔去シタル時モ亦然リ

七 蜂窩織炎 創面ヨリ化膿菌ノ侵入スルニヨリテ

起ル氷片ヲ以テ冷却シ亂刺ヲ施シテ放血シ消炎藥ヲ

塗布シ尙ホ下劑ヲ投シテ患者ヲ安靜ニ臥セシム

或ハ失策ニヨリ大ナル動脈ヲ損傷セルニ非サルヨリ

ハ止血概ネ困難ナラズ脫脂綿或ハ「ガーゼ」ニ單寧

酸、明礬、アドリナリン、過格魯兒鐵液等ノ止血藥

ヲ含マシメタル栓塞子ヲ齒槽窩ニ填塞シ其上ニ壓迫

ヲ加フル爲メ「ガーゼ」ヲ重疊シ頸ヲ緊合セシム或ハ

石膏泥、軟化「モテリンク」等ヲ栓塞子上ニ挿入シ或

ハ患部ヲ印象シ護膜又ハ金屬ノ床ヲ造リテ壓抵スル

トアリ出血素質患者ニハ局所療法ヲ兼テ明礬、單寧

酸、沒食子酸、麥角等ニ強壯劑ニ伍ソ内服セシムバシ

大ナル動脈ヲ切斷セル時、之ヲ結紮スルヲ勿論ナリ

四 齒槽疼痛 拔牙セル齒槽窩ニ疼痛アルモノハ防

腐性液ヲ以テ洗滌シ凝血及膿汁ヲ去リ小綿球ニ純

石炭酸ヲ浸シテ齒槽窩ニ挿入スレバ最モ確實ニ最モ

八 骨疽 拔齒時誤ツテ齒槽ノ骨膜ヲ剝離或ハ傷害シテ齒槽ノ營養ヲ斷チ化膿菌ノ侵入スルニ由リテ起ル「バイロソシ」芳香硫酸溶液、石炭酸曹達溶液等ヲ以テ洗滌シ沃度丁幾チ塗布シ腐骨剝離セル時ハ之ヲ除去スベシ尙強壯藥及滋養物ヲ與ヘテ營養ヲ佳良ナラシムベシ

第六十六問 陶材充填ノ適應症適應部適

應ノ理由ヲ各別ニ説明セヨ

適應症

陶質ハ殆ンド如何ナル場合ニ於テモ齒質ノ缺損ヲ補綴シテ其破壊ノ進捗ヲ防禦スルヲ得ルガ故ニ齒牙ノ硬固質ヲ侵ス疾病ハ皆陶材充填ノ適應症ナリ即齲齒ニヨル齒質ノ缺損ハ第一ノ適應症ニシテ又外傷暴力

ニヨル前齒ノ折傷ハ本充填ガ最も其特長ヲ發揮スル處ノモノナリ侵蝕症ニ於テモ維持ニ充分ナル窩洞ノ形成ヲ許ス場合ニハ同シク適應症ナリ只磨耗症ニ於テハ對合齒トノ咬合ノ壓力多大ナルニヨリ特種ノ場合ノ外ハ不適應ナリ

適應部

右ノ如ク陶材ハ多クノ適應症ヲ有シ最も優等ナル充填材ニシテ殆ンド何レノ部位ニモ使用シ得サルナシ唯以下二個ノ豫定條件ニ合格セザルモノハ不可ナリ
一 正確ナル印象 窩洞ヲ正確ニ印象シ得サル隣接面(特ニ白齒)ノ單窩洞及過少ナル窩洞ハ應用スルヲ得ズ深ク齲蝕線下ニ齲蝕ノ波及セサルモノハ困難ナリト雖齒根下ハ他ノ材料ヲ以テ充填シ窩洞ヲ適宜ニ

形成スレバ應用スルヲ得ベシ

二 強固ナル維持 窩洞ハ適當ナル深サヲ有シ且支持ノ働チナスベキ添窩ヲ形成シ得ルカ或ハ合釘ヲ挿入シ得ルモノナラザルベカラズ故ニ窩洞甚タ淺クシテ知覺過敏ナルモノ前齒齲蝕、白齒結節等ニ於テ短キ釘ヲ嵌入スベキ孔ヲ穿ツ能ハサルモノ前齒齲蝕ノ對合齒ニ衝突スルモノ白齒咀嚼面ヨリ他ノ面ニ擴カリタル淺窩洞等ハ應用スルヲ得ズ殊ニ白齒咀嚼面窩洞ノ淺モ時ハ維持困難ナルノミナラス咀嚼ノ壓力ニヨリ破壊スルコトアリ

豫定條件ニ抵觸セサル限ハ如何ナル部位ニモ適應スルヲ得ベシト雖陶材ガ他ノ充填材ニ優ル第一ノ點ハ其審美的外觀ニアルガ故ニ多クハ人目ニ映スル前齒

部ニ應用セラル本充填ノ價值アル部位ハ下ノ如シ

- (一) 前齒及小白齒ノ唇頰面窩洞 (二) 前齒隣接面ヨリ唇面ニ波及セル複窩洞及小白齒ノ近心面ニ於ル複窩洞 (三) 前齒切緣 (四) 白齒ノ大破壊是ナリ

第五十七問 齒根切除術ト其適應症トチ

記セ

慢性齒槽膿瘍ニ於テ其齒根尖端ニ異狀ヲ呈シ普通ノ方法ヲ以テ治療シ能ハザル時齒根切除術ヲ適用ス先ツ根管ヲ充分清掃消毒シ個答百見加ヲ以テ根管充填ヲ施シ有瘻ナレバ瘻口部ニ無瘻ナレバ齒根尖端ニ當ル齒齲部ニ交叉狀ノ切開ヲ施シ齒槽ヲ露出セシメ「パー」ヲ以テ齒根尖端ニ向テ骨壁ヲ通シテ瘻口ヲ閉キ「アドリナ」ヲ浸シタル綿球ヲ挿入シテ出血ヲ

止メ裂溝狀「バー」ヲ以テ齒根尖端ノ崩壞シテ粗糙ノ
ナレル部ヲ切除シ尙ホ其面ヲ磨キテ滑澤トナシ二五
%「フイノール」ソヤツク」ヲ以テ洗滌シ沃度仿膜「ガ
ー」ヲ挿入シ隔日之ヲ交換シ且ツ洗滌ス

第五十八問 混合充填ト連合充填トヲ類
別シテ其適例ヲ舉ケヨ

連合充填トハ二種以上ノ充填材ヲ疊層シテ充填スル
ノ謂ニシテ混合充填トハ二種以上ノ充填材ヲ混合シ
テ充填スルノ謂ナリ

第一連合充填 種々アリト雖モ今主ナルモノ二三ヲ
記スベシ(一)磷酸セメント及アマールガム 本品ハ前
齒ノ窩洞ヲ除クノ外殆ンド如何ナル場合ト雖モ應用
スルヲ得ベシ咀嚼面窩洞ノ甚々腐蝕シテ僅ニ珐瑯質

少年ノ齒牙、大腐蝕薄壁ノ窩洞等ニ暫間充填トシ
テ費用セラル方法ハ充填前窩洞ニ加奈太「パールサ
ム」ヲ塗布シ備答百兒加ノ塊片ヲ溫メ壓迫シテ窩壁
ト備答百兒加トヲ密接セシメ後「セメント」ヲ充填
スベシ

第二混合充填 之レヲ分テ二種トナス(一)異性ノ金
屬箔ヲ混合シタルモノ 金箔ト錫箔、金箔ト白金箔
ノ二枚ヲ合セテ捲狀トナシ充填用ニ供セラル、モノ
ナリ普通金充填ヲ施シ得ベキ白齒又ハ前齒ノ窩洞殊
ニ後者ニ適當ナリトス(二)「セメント」ニ他金屬ノ粉
末ヲ混合セルモノ 則チ「セメント」ニ金粉乃至錫
粉(錫ヲ沈澱セシメテ粉末トナセルモノ)ヲ適當ニ混
ズルカ或ハ「アマールガム」用合金ヲ二五乃至五〇ノ割

ノ殘存セル場合ニハ底部即チ窩洞三分ノ二位磷酸
「セメント」ヲ充填シ殘リ三分ノ一部ニ「アマールガム」
ヲ充填シ「セメント」ヲ四方ニ瀰漫セシメ後燥風ヲ
送リテ硬化シ後充填面ヲ研磨スベシ又乳白齒ノ隣接
面淺在窩洞ニシテ適當ナル濕溝ヲ作成スル「能ハサ
ル」ニ應用スレバ該齒ノ保存期中其生命ヲ全フスル
ヲ得ベシ(二)金及「セメント」 「セメント」ヲ窩洞ニ
充填シ其未ダ硬化セサルニ先チ金箔ノ數片ヲ追加シ
然ル後硬化セシメテ能粘性金ヲ追加充填スベシ少年
ノ前齒ノ如キ造構緻密ナラサル齒牙ニ大窩洞ノ存セ
ル片之ヲ施セハ永ク保護セラレ得ベシ又成人ノ齒牙
ニアリテモ前齒ノ知覺過敏部及根管充填ヲ施セシ場
合ニ於テ適ス(三)備答百兒加及「セメント」 此充填

合ニ混合シテ充填ニ供セルモノナリ以上三種何レモ
「セメント」溶液ヲ以テ練合スルカ又ハ稀薄ニ練合シ
タル「セメント」中ニ合金ヲ混合煉化スルナリ此充填
ノ目的ハ口腔液ノ爲メニ「セメント」ノ溶解セラル
ヲ豫防シ充填ヲシテ耐久ナラシムルニアリ一般ニ
「セメント」及「アルガム」充填ヲ施サル、咀嚼面窩洞
ニハ何レモ適應スベシ

第五十九問 露出齒髓ノ保護的療法及
施術ノ順序ヲ記セ

露出齒髓ヲ失活セシメズシテ之ヲ保護セント欲セバ
齒髓覆罩法ヲ施スベシ(第七問參照)

第六十問 永久齒吸收症ニ對スル治法
ヲ記セ

永久齒吸收症ニ對スル治法
ヲ記セ

永久齒吸收症ニ對シ藥効的治療ヲ以テ之ヲ治療セ
ジメンコト到底不可能ナリ故ニ齒根切除術ヲ施シ其
吸收セラレテ粗糙トナリタル部ヲ除去シ或ハ一旦拔
去シテ粗糙部ヲ平坦トナシ再植術ヲ施スベシ
(第四十八問及五十七問參照)

器 械 學

一、第一問 義齒裝置ニ適當セル口腔ノ状態

義齒ヲ裝置スルノ際口腔ハ左ノ状態ナラザルベカラズ

- 一 齒齦及口腔粘膜ノ健全ナルヲ若シ疾病ノ存在スル時ハ義齒ニヨリテ一層之ヲ増劇シ侵入シ置クニ能ハザルモノナリ
- 二 齒牙ノ清潔ナルヲ若シ齒牙ニ沈着物ノ存在スル時ハ義齒裝置後齒石ノ剝離ニヨリ間隙ヲ生ジテ不用ニ歸シ鈎モ亦其用ヲナサルニ至ル加之齒色ノ選擇ヲ誤ルモノナリ
- 三 發病セル又ハ發病シ易キ齒ハナキヲ要ス如斯モ

ノハ速ニ拔去スベシ然ラザレバ決シテ義齒ノ完全ヲ期スベカラズ

四 健全ナル齒根ハ適當ナル所置ヲ要ス即其面ヲ平滑トシ根管充填ニ施シ又架工術ニ於テ之ヲ利用ス

- 五 齒牙齒槽ノ健全ナルヲ若シ疾病アラバ之ヲ治療セシムルヲ要ス殊ニ齶窩ノ存在ハ印象ヲ錯亂スルモノナリ
- 六 裝置ノ障礙タル齒牙ヲ除クニ即動搖セルモノ或ハ甚タシク延長セルモノハ拔去スベク又總義齒ノ際ニ於テ一二齒ノ殘存ハ拔去セズシテハ好結果ヲ得ザルアリ

一、第二問 義齒ニ必要ナル性質

義齒ノ効用ハ齒牙及齒齦ノ缺損ヲ補綴シテ咀嚼、發

音、容積ヲ回復スルニアリ故ニ其性質メル以上ノ條件ヲ充分満足セシメ且ツ余害ヲ伴ハザルモノナラザルベカラズ即(一)齒牙及齒槽ヲ解剖的ニ補綴スル(二)外觀天然齒ニ異ラザル(三)咬合天然のナル(四)完全ニ咀嚼シ得ル(五)口内ニ起ル器械的作用ニ害セラレザル(六)口内ニ起ル化學的作用ニ害セラレザル(七)近傍ノ齒牙及他組織ニ障害ヲ及ボザル(八)發音ヲ害セザル(九)容積ヲ醜變セザル(十)清掃容易ナル

第三問 拔牙後假義齒ヲ入ル、ニ適當ノ時期

拔牙後一時的假義齒ヲ裝置スベキ時期ハ創面ノ一通リ癒合シテ將來愈劇多大ナル齒槽ノ變形ナキヲ想像

シ得ル時ヲ適當トス勿論拔牙後ノ狀態、疾病、數及齒槽突起、軟組織ノ狀況ニヨリ治療ノ時日一定セズト雖大凡一週日乃至十日ヲ經過セバ可ナリ

第四問 印象材各品ノ性質

(一)口内ニ堪ヘ得ベキ低溫度ニ於テ柔軟トナル(二)口腔諸部ヲ正確ニ印記シ得ル(三)印象ノ壓迫ニヨリ印象盡ヨリ流出スルガ如キ軟質ナラザル(四)印象部ヲ變形シ或ハ疼痛ヲ感ズルガ如キ硬質ナラザル(五)短時間ニシテ硬化シ變形セザル(六)收縮及膨脹ノ性ナキ(七)齒牙ニ膠着セズ且ツ使用ニ容易ナル(八)厭フベキ臭味ヲ有セズ且ツ外觀醜惡ナラザル

第五問 印象材各品ノ優劣

一 石膏ハ印象材中最モ優等ナルモノナリ其印記最モ精密ニシテ粘膜ノ柔軟ナル爲メ強キ壓迫ニヨリ變形シ易キ場合及全顎ニ齒牙ノ存在セザル場合ニ適ス其缺點ハ他材品ニ比シテ使用困難ナルト凝結後稍ヤ膨脹スルトニシテ其他ハ殆ンド所要ノ性質ニ於テ缺クル所ナシ

二 「モテリン」ガコンポジションハ其使用簡易ニシテ何レノ場合ニモ應用セラル、ガ故ニ當今最モ汎用セラル硬化後僅ニ收縮スルト印象ニ稍ヤ壓迫ヲ要スルガ故ニ粘膜ノ甚タシク柔軟ナルモノニ適セザルトノ外著シキ缺點ナシ其彈力性ハ能ク不整ノ齒牙、楔狀ノ齒間、倒置形ノ齒牙等ヲ殆ンド適當ニ印象シ分

三 蜜蠟ノ長所ハ收縮性ナク低溫度ニ於テ柔軟トナルニアリ然レモ硬化速カナラズ冷却後モ満足ナル程度ヲ有セズ分離ノ際形狀ヲ變シ易ク且ツ印記面精密ナラザル等ノ缺點アリ之ニ「パラフィン」ノ適量ヲ加フレバ稍ヤ缺點ヲ補フベシ

四 備答百兒加ハ彈力性ヲ有シ其實硬固ニシテ變形ノ憂ナク印記稍ヤ精緻ナレモ軟化度高クシテ粘膜ヲ糜爛セシムルノ恐アリ又著シキ收縮性ヲ有スル等大一缺點アリ之ニ蜜蠟ヲ加フレバ稍ヤ使用ニ適ス

第六問 印象材各品ノ性狀

一 石膏 無色或ハ白色半透明ニシテ光澤ヲ有シ鱗狀、束針狀、粒狀等ノ結晶或ハ堅塊トナリテ産ス化學上硫酸石灰ニシテ二分子ノ結晶水ヲ含有ス之ニ「氏

百五十度乃至百七十度ノ熱ヲ與ヘ水分ヲ除去シ白色
細微ノ粉末トナシタル稔性石膏ヲ齒科ニ於テ使用ス
本品ニ適量ノ水ヲ加フル時ハ軟泥狀トナリ數分ノ後
凝結シテ固塊トナル

二「モデリング」
「グマム」
「ス
テアリン」
滑石末、朱、芳香劑ヨリ組成セラレ暗赤色
ニシテ華氏二百度ニ於テ柔軟トナル粘着性及彈力性
ヲ有シ軟中硬ノ三種アリ季節ニヨリテ換用ス

三 蜜蠟 蜜蜂ノ巢ヨリ得タル黄色或ハ黃褐色ノ固
塊ニシテ特異ノ臭氣及甘味ヲ有ス華氏百二十度乃至
百三十度ニ於テ柔軟トナル晒白シタルモノヲ白蠟ト
稱ス

四 個答百兒加 熱帶ニ産スル植物ヨリ採取シ

メル樹脂ノ凝固物ニシテ黄色或ハ褐色ノ塊ヲナシ僅
ニ彈力ヲ有ス齒科用ノモノハ之ヲ精製シテ酸化亞
鉛、長石、珪石等ヲ混合シタルモノナリ華氏百八十度
乃至二百度ニ於テ柔軟トナル

第七問 個答百兒加ヲ印象材トシテノ利害
(第五問參照)

第八問 副蓋付上顎印象蓋ノ用法並ニ適
應症

此印象蓋ハトーマスワートル氏ノ創意ニ係ルモノニ
シテ口蓋穹隆ニ相當スル特別ノ口蓋板ヲ附加シタル
モノナリ此「トロー」ハ深キ口蓋ヲ有スルモノニ用ヒ
テ前齒ノ口蓋面ヲ精密ニ印象スルニ適ス用法ハ副口
蓋ノ適當ナルヲ擇ミテ蓋ニ裝置シ「モデリング」

ボツション」又ハ蠟ヲ滿シ普通ノ如ク壓抵シタル後
副蓋軸端ノ蓋ヨリ突出シタル部ヲ壓迫ス

第九問 口腔ヲ印記スルノ際口蓋齒齦ノ

硬軟或ハ數齒脱落シテ數齒存在
セルアリ此境遇ニ際シテ之ヲ印
記採得スル材品ヲ擇バサルヲ得
ズ依テ其材品ノ種類及其効用

(一) 齒齦部硬クシテ口蓋部軟弱ナレバ殆ンド如何ナ
ル材品ヲ以テモ印象スルヲ得ベシ(二) 之ニ反シテ齒
齦部軟弱ニシテ浮動シ口蓋部硬固ナルモノハ其印象
甚ダ困難ナリ此際石膏ヲ以テ印象スルヲ適當トス石
膏ハ印象時ノ壓迫弱キガ故ニ齒齦ノ變形又ハ變位ヲ
起ス患ナシ尙ホ充分軟化シタル蜜蠟ヲ用ユルモ可ナ

リ(三) 數齒脱落シテ數齒殘存セルモノハ普通其彈力
性ヲ利用シテ「モデリング」
若シ印象ノ正確ナランゴトヲ欲セバ石膏ヲ以テ印象
シ分離後破壊片ヲ接合スレバ完全ノ印象ヲ得ベシ

第十問 稔性「ギブス」トハ如何ナルモノ
ヲ云フヤ且其使用ノ方法

稔性「ギブス」トハ結晶水ヲ脱却セル石膏ヲ稱スルモ
ノニシテ使用上ノ要項左ノ如シ
一 品質 粉末微細ニシテヨク乾燥シタルモノヲ撰
用スベシ然ラザレバ固結不充分ニシテ膨脹、脆弱等
ノ弊アリ
二 混水 水ノ多量ハ其實ヲ軟弱ナラシメテ膨脹ヲ
伴ヒ少量ハ脆弱ナラシム混水量ハ通常粉末ノ約半量

テ可トス混水ニ二法アリ(一)先ツ適量ノ石膏ヲ器中ニ取り器ノ周縁ヨリ其内面ニ沿フテ徐々ニ水ヲ注入ス(二)先ツ適量ノ水ヲ器中ニ注入シ後少量ノ水ヲ數回ニ石膏ヲ水底ニ沈降シ所要ノ量ニ達セシム

三 攪拌 器底ヲ卓上ニ輕打シツ、筥子ヲ以テ敏速ニ攪拌シ氣泡ナキヲ期スベシ然ル後隨意ノ用途ニ用ニ此際長時ノ攪拌ハ膨脹性ヲ増シ且ツ脆弱トナスモノナレバ注意スベシ

四 混合材 硬化ヲ進メンガ爲メ明礬、食鹽、芒硝等ヲ混ズルコトアリ然レモ又種々ノ缺點ヲ伴フモノナリ石膏四〇、〇ニ食鹽〇、四乃至一、〇或ハ明礬〇、三乃至五、〇ハ實質ヲ堅硬ナラシメ膨脹性ヲ減ズ但シ過量ハ却テ害アリ

第十一問 石膏ヲ以テ口内印象ニ供スル

方法

- 一 蓋ノ撰定 先ツ顎堤ノ形狀ニ適合シ稍ヤ大ニシテ深キ印象蓋ヲ撰擇ス上顎全部ノ時ハ後縁挺起セルモノヲ用ユルカ或ハ其部ニ蠟ヲ以テ築堤ス又蓋ノ内面ハ縱横ノ線アリテ分離時ニ石膏ノ口内ニ遺殘スルガ如キコトナキヲ要ス但シ特別ノ場合ハ此限ニアラズ
- 二 患者ノ準備 少シク體ヲ前方ニ傾ケテ坐セシム是レ過剰石膏ノ咽頭ニ落ツルヲ防ガンガ爲メナリ粘膜ノ知覺過敏ナル患者ニハ印象前樟腦水、臭素加里水ノ含嗽ヲ命シ或ハ口蓋ニ古加乙濕溶液ヲ塗布ス又殘齒アルモノハ橄欖油ヲ齒面ニ塗布ス
- 三 蓋ノ準備ノ適當ニ混水攪拌シタル石膏泥ヲ大約

印象蓋ノ縁端マテ滿ス石膏泥ノ軟度ハ蓋ヲ倒ニシテ石膏ノ流下セザルヲ度ト

四 印象 蓋ノ一側ヨリ斜ニ口内ニ入レ邊柄ノ正中線ニ一致セル時直ニ蓋ノ後縁ヲ壓抵シ順次前方ニ及ビ唇、頰、舌等ヲ擧上シテ石膏ヲ十分粘膜ニ密接セシム

五 分離 適度ノ硬化ヲ得タラバ唇及頰ヲ擧上シ蓋柄ヲ挺擧シ後縁ヲ製下シテ空氣ヲ入レ靜ニ口外ニ取り出スベシ一部ノ印象ニ於テハ先ツ蓋ノミヲ除去シ石膏ヲ破壞シテ分離シ後破片ヲ蓋中ニ集メテ完全ノ印象トナス

第十二問 石膏ハ印象材トシテ如何ナル

利害アリヤ

- 一 利益 (一)口腔ヲ最も精密ニ印記シ微細ノ隆起ニ至ル迄克ク撰寫シ得ル(二)強壓ヲ要セズシテ印象シ得ルガ故ニ口腔粘膜ノ柔軟ナルモノ及ヒ軟口蓋ヲ自然ノ狀態ヨリ移動スルコトナク正確ニ撰寫シ得ル(三)金床義齒製作ニ當リ石膏ノ印象ハ其膨脹ヲ以テ鑄型金屬ノ收縮ヲ代償シ口腔ニ適合シタル義齒ヲ製作シ得ル(四)亂排齒及倒鐘形齒ヲ印象スルニハ口腔内ニ於テ印象ヲ内外兩半部或ハ數個ニ分數レテ分離スル時ハ印象ヲ亂スコトナシ(五)無味無臭ニシテ毎回新シキ材品ヲ用ユルガ故ニ清潔ト消毒ノ點ニ於テ最も完全ナリ
- 二 弊害 (一)印象採得法ハ他ノ材品ヨリ複雜困難ナリ若シ不注意ナル時ハ咽頭内ニ流上スルコトアリ又

分離ノ時期ヲ失ハル時ハ粘膜ニ膠着シテ分離シ能ハ
ザルノ失態ヲ來ス(一)膨脹性アルガ爲メ硬化
後僅少ノ變形ヲ來ス(二)硬化ニ時間ヲ要スルガ故久
シク口内ニ稽留セザル可カラズ(三)患者ニ苦悶ヲ
與フ

第十三問 石膏模型ノ製法

口腔ヨリ完全ノ印象ヲ得バ模型ヲ製作スルヲ得ベシ
一 印象ノ清淨 先ツ印象面ニ異物等ノ附着スルヲ
除ク其材品蠟蠟、モテリングコンボシヨン等ナラ
バ冷水ヲ注ギ毛刷子ヲ以テ輕微ニ淨刷ス若シ石膏ナ
ラバ熱湯ヲ注グベシ

二 準備 次テ石膏印象ナラバ分離劑トシテ「パニツ
ソ」ヲ平等ニ塗布シテ乾燥ス又石炭灰或油ヲ塗布ス

ルモ可ナリ他ノ印象材品ニ於テハ必ズシモ分離劑ヲ
必要トセス

三 石膏ノ注入 適度ニ泥狀トナシタル石膏ヲ上顎
ノモノニアリテハ口蓋部ヨリ下顎ノモノニアリテハ
齒齦舌面ノ高所ヨリ徐々ニ注入シ頻々底底ヲ卓上ニ
輕打シテ漸次低部ニ流下充盈セシム若シ深窩ノ存在
スル時ハ小木片ヲ再三出入セシメテ空氣ノ殘留セザ
ランヲ期スベシ又孤立齒ノ存在スル時ハ膨脹性少
キ木片或ハ鐵線ヲ其部ノ石膏内ニ挿入シテ破折ヲ防
グベシ石膏已ニ所要ノ厚徑ニ至ラバ篋ヲ以テ底ヲ平
坦ナラシム而シテ護膜床發齒ノ模型ハ低クシテ可ナ
リト雖モ金床用模型ハ約二吋ノ厚徑ヲ要シ且ツ底部
ヲ指ララシムベシ

四 模型ノ分離 石膏ノ充分凝固シタル時ハ印象材ガ
熱度ニヨリ軟化スベキモノナラバ背ヲ輕打シテ蓋ヲ
分離シタル後或ハ蓋ト共ニ熱湯ニ浸漬シ其軟化ヲ待
チテ模型ノ後端部ヨリ印象材ヲ徐々ニ分離ス又石膏
印象ナラバ蓋周縁ノ過剰石膏ヲ除去シ蓋底ヲ輕打シ
テ蓋ヨリ分離セシメ印象及模型ノ不必要ナル部分ヲ
切除シ木製或ハ角製ノ槌ヲ以テ輕打シ又ハ熱湯中ニ
浸漬スルカ又ハ接合部ニ小刀ヲ挿入シテ槓杆作用ヲ
施セバ分離スルヲ得ベシ若シ分離困難ナルハ印象
ニ深溝ヲ刻シ小刀ヲ挿入シ槓杆作用ニ因テ數部ニ分
チテ脫離セシム

五 模型ノ整備 分離シタル模型ハ小刀或ハ鋸子ヲ
以テ剩餘部ヲ切除シ適當ナル形トナスベシ後明鑿飽

和液中ニ煮沸シ或ハ其面ニ「パニツシユ」ヲ塗布ス

第十四問 石膏模型ノ破砕ヲ補綴スル方

法如何

模型ニ於テ齒牙ノ一個乃至數個切斷セラレタル時ハ
適宜ノ鐵線ヲ採リ兩切碎面ニ孔ヲ穿テ線ノ一半ヲ一
方ニ一半ヲ他方ニ嵌入セシメ相互ノ接合面ニ濃厚ナ
ル「サンダラック」バニツシユ」ヲ塗布シ強ク壓着シテ乾
燥スベシ又模型ノ兩半部ニ切斷セルモノハ各片ヲ手
指ニテ正位置ニ保持シツ、或ハ鐵線ヲ以テ接合シテ
小許ノ軟泥石膏中ニ埋沒シ損傷ノ下底部ヲ圍繞セシ
メ靜ニ乾固ス此方法ニ依リ巧妙ニ補綴スル時ハ其破
壞甚シカラザル限リハ充分使用ニ堪ユベシ

第十五問 「モルテン」ノ用途及用法

「モルテン」ハ一種ノ陶土ト「グレイセリン」ヲ煉和シテ製シタルモノニシテ繼續術、架工術及ヒ局部金床義齒製作等ニ於テ一小部ノ形態ヲ鑄印スルニ用ユ之ガ使用ニ於テ印象蓋、護謨輪、易鎔合金ヲ必要トス左ニ一二ノ用法ヲ記サン

一 金冠ノ嚙面ヲ作ルニハ齒冠ニ適合シタル「マン」中ノ蠟ヲ彫刻形成シ之ヲ護謨輪ノ半途迄滿シタル「モルテン」中ニ壓入シテ砂型ヲ作り之ニ鑄解シタル易鎔合金ヲ注入シテ陽型ヲ作り次ニ陽型ヲ護謨輪中ニ置キ其面ニ「ソーペースト」ヲ散布シ同蠟ヲ注入スレバ陰型ヲ生ズ此間ニ金銀ヲ介在シテ壓印ス

二 破壊セル齒冠ヲ蠟或ハ個管百兒加ヲ以テ完全ナル形態トナシ次ニメロツト氏「トロー」ニ「モルテン」

ヲ滿シ表面ニ「ソーペースト」ヲ散布シテ之ヲ印象シテニ護謨輪ヲ圍ラシ易鎔合金ヲ流入スレバ無蠟金冠ノ製作ニ要スル陰陽型ヲ得ベシ

三 「トロー」ニ「モルテン」ヲ滿シ「ソーペースト」ヲ散布シテ齒牙缺損部ヲ印象シ易鎔合金ヲ流入スレバ之ニヨリテ架工齒ノ狹床紋或ハ一部金床ヲ鑄印スルヲ得ベシ

第十六問 易鎔合金ノ應用

易鎔合金トハ低溫ニ於テ鑄解スル數種金屬ノ合金ナリ其種類甚ダ多シト雖左ニ主ナルモノヲ舉ゲン

メロツト氏	二	一	一	一
三〇	三三	三七	四	百七十六度
芥鉛	鉛	錫	水銀	鑄解度(華氏)
二〇	一	一	一	二百十二度

ニユートン氏	七	五	四	一	五	二	百五十一度
ウー下氏	八	四	四	二	三	二	百度
フランクリン氏	八	四	四	二	三	二	百五十度
リチャドソン氏	五	二	三	四	二	二	百八十度
エバン氏	二	二	三	四	二	二	百度
ハ	三	三	五	二	二	二	三百三十六度
	三	三	五	二	二	二	二百〇二度

易鎔合金ノ應用ハ鑄型ヲ製シ又義齒床ヲ作ルニ用ユ其利益トスル所ハ鑄解點低クシテ作業ノ容易ナルニアリ

- 一 金冠ノ製作ニ於テ嚙面版ヲ鑄印シ或ハ無蠟金冠ヲ製作ス(前問参照)
- 二 鑄床鑄印ニ用ユ石膏模型ヲ整備シテ其周圍ニ洋

紙片ヲ圍ラシ之ニ易鎔合金ヲ注入スレバ陰型ヲ生ズ冷却シタル後其面ニ酸化亞鉛ヲ酒精ニ溶解シテ塗布シ或ハ「ソーペースト」ヲ散布シ洋紙片ヲ圍ラシ同一ノ合金或ハ稍ヤ鑄解點低キモノヲ鑄解シテ其將ニ凝固セントスルノ時注入シテ直ニ水中ニ投シ冷却ノ後輕打スレバ分離ス又初メ砂型ニヨリテ陽型ヲ作り後陰型ヲ作ルモ可ナリ

三 下顎義齒ノ加重床ヲ作ル (第五十四問参照)

第十七問 單複ニ關セズ陽型ニ應用スヘキ金屬ノ性質

陽型ニ應用スル金屬ハ以下ノ性質アルヲ要ス

- 一 堅固ナルベキ
- 二 即鑄印時ニ當リ裂隙ヲ生シ或ハ柔軟ナルガ爲メ凸所ヲ磨滅シテ印記ノ不精確ナル

か加キナキヲ要ス

- 二 收縮性ナキヲ 凡テノ金屬ハ溫度ニヨリ容積ヲ増減スルモノナルガ故ニ絶對的此性無キハナシト雖モ收縮甚ダシキモノニヨリ鑄印セル床ハ口腔ニ適合セシテ難シ但シ少許ノ收縮ハ石膏模型ノ膨脹ト相平均シテ寧ロ正確ヲ得ルモノナリ
- 三 脆弱ナラサルヲ 分子間ノ粘着力強クシテ鑄印時ノ打撃ニヨリ破碎スルガ如キナキヲ要ス
- 四 鑄解點低キヲ 取扱容易ニシテ且ツ鑄解點高キモノヨリハ收縮性少ナキノ利アリ而シテ陽型ヲ陰型ヨリ後ニ製作スル時ハ此性質最モ必要ナリ

第十八回 金屬陰陽兩台ノ製作法及各金屬ノ鑄解點

金屬兩台ニ於テ陰型トハ即口腔ヨリ採得シタル印象ニ相當シ陽型トハ石膏模型ニ相當シ精密ニ相適合シテ金屬床ノ製作ニ應用スルモノナリ其製式三種アリ

（一）鑄解セル金屬中ニ石膏模型ヲ鑄入シテ先ツ陰型ヲ作り次テ該型ニ金屬ヲ注入シテ陽型ヲ得（二）石膏ヲ以テセル印象中ニ直接金屬ヲ注入シテ陽型ヲ得之ヨリ陰型ヲ得（三）鑄砂ヲ以テ砂型ヲ作り陰陽型ヲ得ルノ法ニシテ砂型法ト稱シ最モ普通ニ用ヒラレ且ツ最モ安全ナル方法ナリ

一 準備 供用ノ鑄砂ハ最モ細密ナル者ヲ撰ビ少クモ四時間以前ニ於テ適量ノ水ヲ混シテ粘性ヲ帶ハシメ混水量ハ砂ノ少量ヲ取り手指ヲ以テ強壓シ少塊ヲ作り之ヲ破損シテ美麗ナル表面ヲ呈スルヲ度トス

又石膏模型ハ其高徑ヲ約二吋ニ至ラシメ表面ヲ滑澤ナラシムル爲メ「バニツシエー」ヲ塗布シ齒牙ハ必要ナル部分ノミヲ殘シテ別リ去ルベシ

二 砂型 今鑄環ノ中ニ石膏模型ヲ印記面ヲ上ニシテ安置シ鑄砂ヲ少量ツ、指頭ヲ以テ壓入シ次ニ棍棒ノ類ヲ以テ充分凝實セシメ環ニ滿ツルニ及ビ之ヲ倒マニシテ模型周圍ノ鑄砂ヲ壓實シ且ツ鑄砂ヲ追加ス更ニ模型ノ基底ヲ下方ニ向ケ輕打スル時ハ模型ハ脫離シ蓋ニ砂型ヲ殘ス若シ模型ノ齒齧部ニ於テ添高アル時ハ該部凹部ニ更ニ石膏ヲ追加塗抹シ模型ノ全型ニ倣ヒテ斜ニ基底ニ及ボシ之ヲ以テ砂型ヲ製シ分離シタル後追加セル石膏體ヲ模型ヨリ去リ砂型ノ内壁ニ表示セラレタル位置ニ置クベシ

三 金屬注入 次ニ陽型金屬ヲ鑄解シ將ニ凝固セントシテ尙ホ流動狀ニアル時即試ニ洋紙片ヲ挿入シテ焦熱スルヲナク唯僅カニ變色スル位ヲ度トシテ傾斜セル高所ヨリ徐々ニ注入充滿セシム全ク冷却セバ砂型ヨリ去リ再ビ鑄環ヲ圍ラシ鑄印ニ必要ナル部分ノミヲ露出シテ他ハ砂ヲ以テ充塞シ陰型上ニ「ソーブ」等ノ分離劑ヲ散布シ陰型金屬ヲ注入ス此際又陽型ト同一ノ注意ヲ要ス冷却後陽型基底ヲ打撻スレバ容易ニ分離ス

此際陽型用金屬トシテハ亞鉛（七百七十三度）陰型用金屬トシテハ鉛（六百十二度）ヲ適當トス

第十九回 亞鉛鉛錫安寶母尼背鉛等ノ鑄

械的應用及各鑄解點ヲ記セ

一 亞鉛(銻解點七百七十三度) 陽型用トシテ最モ適當ナリ唯少シク脆弱ナルト收縮性アルトノ害アリ本品ノ合金タル黃銅(亞鉛ト銅)及洋銀(亞鉛、錫、「ニッケル」ハ廉價ノ「クラスプ」及矯正裝置ニ應用セラル又本品四分ニ錫一分ヲ加ヘタルモノモ陽型トシテ用ヒラル

二 鉛(銻解點六百十七度) 其質柔軟ナルヲ以テ陰鑄型ノ製作ニ稱用セラル本品五ニ安質母尼一ヲ混シタルモノハ堅牢ナラザレモ收縮性乏シキガ故ニ稍ヤ陽型ニ適ス

三 錫(銻解點四百四十二度) 陰鑄型ニ用ヒラルレモ亞鉛ト親和シ易キ害アリ本品及安質母尼、銅ノ合金ナル「バビット」鑄ハ印記鮮明ナルヲ以テ陽型ニ適

ス又本品ト鉛ノ合金ハ陰型トシテ用ヒラル

四 安質母尼(銻解點二百四十度) 錫或ハ鉛ニ混シテ之ヲ堅牢ナラシメ陰型ニ用ユ又本品ト若鉛、磷黃ノ合金ナル「スヘンス」鑄ハ直ニ印象内ニ注入シテ陽型ヲ作ル

五 若鉛(銻解點五百度) 他ノ金屬ニ混シテ其銻解點ヲ低下ス以上ノ諸金屬ト合シテ易銻合鑄ヲ造リ加重床及鑄型ノ製作ニ用ユ

第二十問 不純金ヨリ銀ヲ脱却スル法
不純金中ノ銀ヲ除去スルニハ諸法アリ(一)少量ナル時ハ火熱ヲ以テ銻解シテ昇汞ヲ加フルヲ數回ナルベシ(二)全量百分中十五分以上ノ銀ヲ含有スル時ハ王水ニ溶解シ鹽化銀トシテ銀ヲ除去シ溶解シタル金ハ

查驗ヲ以テ沈澱セシム(三)純雜銀ノ量金ノ三倍以上ナル時ハ(或ハ銀ヲ附加シテ此比例トナス)硫酸或ハ硝酸ヲ以テ處理シ銀ヲ銻解ス之ヲ「クオーターシヨ」法ト云フ(四)火熱ヲ以テ銻解シテ水中ニ點滴シテ粒狀トナシ硫酸ニ投シ更ニ乾涸シテ水蒸氣ヲ通シ硫酸銀ヲ溶解シ去ル(五)銻解シタル合金ニ鹽素瓦斯ヲ通シ銀ヲ鹽化物トシテ除去ス

第二十一問 銀ノ一汎性質並ニ銀チ口内ニ使用スル結果如何

銀ハ強キ光輝アル白色ノ金屬ニシテ比重一〇、五ニ有シ硬度ハ金ト銅トノ中間ニアリ著シク可展性及伸長性ヲ有シ銻解度ハ華氏千八百七十三度ナリ空氣中ニ於テ容易ニ酸化スルヲナシト雖硫化水素ニヨリ

鑄チ生ズ硝酸及熱シタル硫酸、鹽酸ニ溶解ス口内ニ使用スル時ハ直ニ硫化シテ表面褐色或ハ黑色ニ變ズ

第二十二問 吹火管ノ種類

吹火管トハ燒還、銻解、鐵着等金屬ヲ加熱スル際火焰ヲシテ其勢力ヲ銳カラシメ尙ホ助燃瓦斯ヲ供給スルモノナリ

一 口力吹火管 黃銅等ヲ以テ製シタル金屬ノ細管ニシテ一端約四分ノ一ノ部ニ於テ直角ニ彎曲シ尖端ニ小孔アリ他端ハ喇叭狀ヲナシ口唇ニ壓抵シテ呼吸氣ヲ吹キ入ル、所ナリ又管ノ中程ニ小球アリテ呼吸氣ニ含有スル水蒸氣ヲ蓄溜ス小鐵着及少量金屬ノ銻解等ニ用ユ

二 足力吹火管 一種ノ空氣唧筒ニシテ其形狀種々

ナレモ足力ニヨリテ護球ニ空氣ヲ滿シ其護球ノ彈力ニヨリ空氣ヲ壓出スルモノナリバードス氏及ビシヨンプ氏ノ創意ニナルモノアリ

三 自動吹火管 上下二個ノ酒精槽ヨリ成リ下槽ハ二個ノ點火口ヲ有シ其一ハ上槽ヲ熱スルノ用ニ供ス上槽熱セラレ、時ハ其酒精沸騰シテ蒸氣ヲ發シ蒸氣ハ強力ヲ以テ下槽ノ火焰ヲ吹クモノナリ

四 瓦斯吹火管 同時ニ瓦斯ト空氣トヲ吐出スル装置ナリオーウエン氏吹火管ハ簡單ニシテ瓦斯管ト空氣管トヲ平行セシメタルモノナリフレツチャー氏吹火管ハ空氣管ヲ以テ瓦斯管ヲ圍繞シ尙ホ三基ノポン

ポン燈ヲ以テ之ヲ熱ス甚タ強力ナリ
五 脫水蒸氣吹火管 ナツプ氏吹火管ト稱シ複雜ナル裝

ル方法

鐵着術トハ同質或ハ異質金屬ノ二個以上ヲ鐵着以テ合着スルノ法ナリ鐵ハ常ニ鐵着スベキ金屬ヨリ溶解點低ク且ツ親和力ヲ有スベシ鐵着ヲ施サンニハ金屬片ノ面或ハ端ヲ相接シ其間ニ鐵着置キ火熱ヲ加フレバ鐵ハ接合部ニ溶解流布シテ一片トナル

鐵着ヲ確實ナラシムルニハ以下ノ注意ヲ要ス(一)精長ナル鐵着ヲ撰用スベキ(二)鐵着ハ基礎金屬ニ充分ナル親和力ヲ有シ兩者ノ性質甚ダシキ差異ナク溶解時ニ於テ流動活潑ナルモノタルベシ例バ金屬ニ於テハ一般ニ基礎ヨリニ加疎低キモノヲ用ユ(三)鐵着面ヲ密接セシムル(四)鐵着接合間ノ毛細管引力ニヨリテ流ルモノナルガ故ニ基礎相互ノ間ニ間隙アルキハ完全

置チ有ス圓筒狀瓦斯貯藏器中ニ壓縮セラレタル亞酸化窒素瓦斯ハ一小室ニ於テ發光瓦斯ト合シ炭化酸水素瓦斯(水素二容、酸素一容)トナリテ尖端ヨリ噴出ス最モ強力ニシテ白金ト雖モ容易ニ溶解ス

第二十三問 口力吹火管ヲ使用スルニ際

シ持久ニ堪ユベキ吹法如何

肺ヨリ直接ニ空氣ヲ呼出スルコトナク口蓋ヲ以テ口腔ノ後部ヲ閉鎖シ一旦肺ヨリ空氣ヲ口内ニ送り頰筋ヲ緊張セシメテ口内ニ蓄貯シ後頰筋ノ力ニヨリテ絶エズ吹出ス時々肺ヨリ口内ニ空氣ヲ補充シ常ニ口内ヲ充滿セシムベシ又空氣ノ吸入ハ鼻腔ヨリシ決シテ口腔ニヨルベカラズ

第二十四問 鐵着術ノ釋義并ニ其確式ナ

ナル鐵着ヲ望ミ難シ(三)鐵着面ヲ清淨ニスベキ(四)基礎ニ酸化物其他汚物ノ附着シ居ル時ハ鐵着流布セザルモノナリ故ニ鐵着面ハ鐵、火力、酸類等ヲ以テ理學的、化學的ニ清淨トナスベシ(四)加熱ニ注意ベキ(五)最初基礎金屬及埋沒材ヲ鐵着溶解點ニ接近スル迄熱シ後鐵着ニ銳キ火熱ヲ與フレバ基礎ヲ損スルコトナク容易ニ目的ヲ達スルヲ得ベシ(五)正位置ニ固定スル「ピンセット」「プライヤ」等ヲ以テ支持シ或ハ鐵線ヲ以テ結紮シ或ハ埋沒材ヲ以テ埋沒シ鐵着中ニ起ル變位ヲ防ギ且ツ鐵着流布面ヲ限ルベシ特ニ陶器ノ存在スルモノハ必ズ埋沒ヲ必要トス

第二十五問 礫砂ノ性狀并ニ鐵着術ニ之

ヲ要スル理如何

硼砂ハ無色稜柱狀ノ結晶ニシテ甘鹹味チ有ス熱シテ
結晶水チ去レバ膨脹シテ鬆粗白色海綿様トナル之ヲ
煨性硼砂ト云フ之ヲ研磨シ粉末トナシテ使用ス尙ホ
熱スレバ遂ニ溶解シテ玻璃様ノ塊トナル
織着ノ際煨性硼砂ノ飽和溶液ヲ織着面ニ塗布シ或ハ
織ニ混シテ用ユルハ織着面ニ存スル酸化物ヲ溶解除
去シ且ツ織ノ流動ヲ容易ニシテ微細ナル點ニ迄到達
セシメ又織ノ溶解度ヲ低下スルガ爲メナリ

第二十六間 金床義齒ハ何加鍊金ヲ用ユ

ルカ井ニ鈍金六匁銀二匁銅

一匁ノ合金ハ何加鍊ナルヤ

義齒床ニハ十八加鍊乃至二十一加鍊ヲ使用ス十八加
鍊以下ナレバ口腔内ニ於テ化學的變化ヲ被リ二十一

加鍊以上ナレバ柔軟ニ過キテ變形シ易シ但シ白金ヲ
混セルモノハ二十二乃至二十三加鍊ト雖モ使用スル
ヲ得ベシ

純金六匁、銀二匁、銅一匁ノ合金ハ十六加鍊ナリ即チ
次式ヲ以テ計算ス

$$6 + 2 + 1 : 6 : 24 : x = 16$$

第二十七間 十八加鍊并ニ二十加鍊金ノ

和合量

十八加鍊 金 一八 銅 四 銀 二

二十加鍊 金 二〇 銅 二 銀 二

第二十八間 義齒用金銀ヲ平延スル法

溶解シタル金ヲ鑄型ニ流シテ厚キ板錠トナスカ或ハ
少量ナル時ハ未ダ冷固セサルニ當リ之ヲ壓扁シ硫酸

中ニ投シテ酸化物ヲ去リ數々燒還シ鐵髓ヲ以テ徐々
ニ打展シ厚徑略ホ所要ニ近ヅカバ「ロール」ノ兩圓環
間ニ挿入シ靜ニ回轉ス之ヲ反覆シ「ゲーシ」銀ヲ以テ
時々其ノ厚徑ヲ計リ所要ノ厚徑ニ至リテ止ム後再び
是ヲ紅織シテ硫酸ニ投シ其面ヲ清淨トナス

第二十九間 十八加鍊金ヲ織着スルニ通常

幾加鍊織チ要スルヤ

十八加鍊金ヲ織着センニハ通常十六加鍊ノ織チ要ス
之織着ニ於テ二加鍊低キ織チ用ユルヲ通則トスルガ
故ナリ二加鍊ノ差ハ色澤其他ニ於テ基礎金屬ト大ナ
ル差異ナク且ツ使用ニ困難ナキモノナリ然レモ金織
ノ配合ニ注意シテ同加鍊ノモノヲ用ユレバ最モ可ナ
リ何トナレバ完成後織着部ヲ觀破セラル、コナク且

高加鍊程化學的作用ニ抵抗スル力強キガ故ナリ

第三十間 純金ヲ十八加鍊或ハ二十二加鍊

トスル法

純金ヲ十八加鍊トナスニハ他金屬三分ノ一ヲ加フベ
シ即銅九分ノ二銀九分ノ一ヲ加フルヲ佳トス其式ハ

$$18 : 24 - 18 : 1 : x = 1/8$$

又純金ヲ二十加鍊トナスニハ他金屬十一分ノ一即

銅、銀各二十二分ノ一ヲ加フベシ其式ハ

$$22 : 24 - 22 : 1 : x = 1/11$$

第三十一間 陶齒及其色澤材品

陶齒ハ基礎ト珫瑯トヨリ成ル其體ハ其全部ヲ成シテ
齒形ヲ作り珫瑯ハ外部ヲ被フテ緻密ナル表面ト天然
齒ニ類スル色澤トチ與フ其成分ノ處方一二ヲ示サン

- 一 基礎 長石 三六〇 硅酸 二五 陶土 六二五
チタニウム 二一〇
- 二 珪瑯 長石 六〇 燐劑 一、二 チタニウム 〇、六
（燐劑ハ 硅酸四分 硼砂二分 酒石鹽一分ヨリ成ル）
- 色澤材品ハ種々アリテ一々列擧スル能ハズト雖一ニチ擧グクレバ（一）黄金粉 淡紅色（二）白金粉 灰白藍色（三）酸化チタニウム 輝黄色（四）酸化金 黄色（五）酸化亞鉛 黄色（六）酸化鐵 黑色（七）酸化銅 紅色（八）「カシウス」紫素 紅紫色等ナリ是等ハ單獨ニ或ハ數種混合シテ用ヒラル

第三十二問 陶齒ニ要スル性質

陶齒ニ所要ノ性質ハ次ノ如シ（一）天然齒ノ色澤形状ニ一致スル（二）天然齒以上ノ硬度ヲ有シ口腔内ニ於ケル器械的作用ニ抵抗シ得ベキ（三）口腔内ニ起ル化學的作用ニ侵害セラザル（四）床其他トノ連絡ヲ計ル維持裝置即釘或ハ管孔ハ完全ニシテ適當ナル位置ニアルベキ（五）口腔内ニ起ル寒熱ノ急變ハ勿論義齒製作時ノ火力ニ耐ヘ得ベキ

第三十三問 陶齒製造ニ供スル密爐ノ種類及瓦斯傷ヲ生ズル要因ヲ示セ

陶齒ノ製造ニ用ユル密爐ハ其發熱ノ原料ニヨリテ區別スレバ三種アリ（一）炭燐爐ハ石炭「コークス」ヲ燃料トシテ用ユルモノニシテ本邦ニ於ケル陶齒製造ハ

多ク之ヲ用ユリ「ブト」爐等モ之ニ屬ス（二）瓦斯爐ハ發光瓦斯ヲ燃料トシテ用ユルモノニシテ「スマントン」爐「エリア」氏爐「バーカー」スタック「グート」兩氏ノ爐等ハ之ニ屬ス（三）電氣爐ハ電流ヲ應用シテ強熱ヲ發スルモノニシテ「カスター」氏電氣爐「ヂェンキンス」氏電氣爐等之ニ屬ス

第三十四問 陶齒ニ附着セル釘ノ種類并ニ金屬ハ何ヨリ成ルカ

ニ金屬ハ何ヨリ成ルカ

陶齒ノ釘ハ白金或ハ白金ト「イリジウム」ノ合金ヨリナル其形状ハ二種アリ（一）鉄狀釘ハ護謨床用陶齒ニ附着セル者ニシテ二個アリ多クハ横列ニシテ又縦列ナルモノアリ（二）桿狀釘ハ金床用陶齒及架工齒用外裝陶齒ニ附着シ横列或ハ縦列ニシテ二個アリ但シハ「ウ」氏齒冠ハ其四個ヲ有シ有根陶齒ハ長キ一個或ハ二個ヲ有ス

第三十五問 陶齒ノ種類ヲ示セ

陶齒ハ大別シテ有根陶齒及無根陶齒ノ二種トス

- 單純有釘齒 護謨床及「セルロイド」床用
- 有孔齒 護謨床用
- 有管齒 金床及架工齒用
- 無根尾溝齒 護謨床用

金線ヲ製センニハ多量ナル時ハ坩堝ヲ熔爐ノ火上ニ置キテ熱シ其内面ニ硼砂ヲ塗り先ツ金ヲ溶解シテ次ニ銀及銅ヲ加ヘ更ニ亞鉛或ハ真鍮ヲ加ヘテ混和攪拌シ鑄型ニ鑄入シテ錠トナシ次ニ鉛及「ロール」ヲ用ヒテ薄板トナシ細片ニ切リテ使用スベシ若シ少量ナル時ハ硼砂ヲ塗布セル木炭上ニ於テ吹火管ヲ使用シ酒精或ハ瓦斯ノ火力ヲ以テ溶解ス

第三十八問

上下兩顎ノ總義齒ヲ製スル

爲メニ施スベキ咬合假定法

及其注意ハ如何

咬合關係ヲ定ムルノ方法種々アレモ今最モ正確ナル二法ヲ示ス

一 築蠟法 石膏模型上ニ假床(金床ナラバ鑄印シ

タル床)ヲ作り齒齶ニ沿テ將來植立スベキ陶齒ノ寸長ト同一ナル蠟堤ヲ築キ之ヲ口腔ニ試適シ患者ヲシテ自然的ニ閉口セシム築蠟高キニ過クレバ小刀ヲ以テ蠟ヲ削リ低キニ過クレバ之ヲ添加シ尙ホ唇及頰ノ外觀ニヨリテ之ヲ整理ス後築蠟ノ人中部分ニ正中線ヲ畫シ口角部ニ上顎犬齒ノ符合ヲ印シ口角ヲ横ニ擴張セシメテ小白齒ノ部位ヲ記シ尙ホ兩唇ヲ能ク開シ展セシメテ上下ニ一線ヲ畫シ之ヲ齒頸ノ符合トス而シテ以上ノ咬合状態ヲ維持センガ爲メU字形ノ鐵線ヲ熱シテ二三ヶ所ニ穿入シ兩顎ヲ保定ス後此假床ヲ口外ニ取り出シ兩模型ニ適合シ之ヲ咬合器ニ附着シ齒頸部ヲ印記シアル線迄築蠟チ一二齒分ツ、除去シ陶齒ヲ排列スベシ

二 試適法 蜜蠟ヲ以テ上下顎ノ正當ナル咬合ヲ探得シ之ニ依テ上下兩顎ノ模型ヲ咬合器ノ正位置ニ附着シ咬合器ヲ調節シテ兩顎ノ距離ヲ適當ナラシメ次ニ假床ヲ作り陶齒ヲ排列セル後患者ノ口腔内ニ試適シテ不長ノ點ヲ修正スベシ

以上ノ咬合假定法ニ關スル注意ハ下ノ如シ(一)患者ノ咬合ハ不當ナルヲ多クシバ虛心平氣ナル時咬合ヲ命ズベシ嚙下時ニ於ケル下顎後退ノ位置最モ可ナリ(二)二個ノ咬合アルハ下顎ノ後退セルモノヲ撰ムベシ(三)下顎ノ假床ハ其破損ヲ防グ爲メ金屬線ヲ入レ置クヲ宜シトス(四)陶齒植列後咬合器ヲ動かシ顎ノ運動ヲ模シ白唇運動等ニ於テ差支ナキヤヲ試ムベシ(五)陶齒植列ノ際始メ犬齒次ニ中切齒ヲ植ヘ漸次

他齒ニ及ブベシ何トナレバ犬齒ト中切齒トハ人ノ容貌ニ大關係アルモノナルガ故ニ最モ注意ヲ要ス(六)咬合時ノ壓力ハ左右兩側ノ白齒部ニ平均ニ加ハル様ニスベシ若シ不平均ナルハ床ノ接着ヲ不充分ナラシム殊ニ上顎ニ於テ然リトス(七)築蠟法ニ於テ築蠟ハ可成的天然齒列ノ状態ヲ模スベシ

第三十九問 義齒ヲ口内ニ維持スル諸法

ヲ説明セヨ

義齒ヲ口内ニ維持スル法數種アリ今其主ナルモノヲ列舉スレバ

- 一 床 單ニ齒齶及口蓋部ヲ覆フ床ノ粘膜面ニ密着スルニ依リ數齒加之總義齒ヲモ維持シ得ルモノナリ
- 二 空室 義齒床ノ粘膜面ニ適宜空窩ヲ作ル時ハ外

- 三 鈎 健全齒ニ金屬、護膜或ハ「セルロイド」ノ條片ヲ纏フモノニシテ一部義齒ノ維持ニ甚ク強力ナリ
- 四 合釘 床ニ合釘ヲ附シ殘齒根ノ根管ニ挿入ス釘ニ彈力鍛ノ一片ヲ附スレバ最モ可ナリ
- 五 加重床 義齒床ニ重量ヲ附シテ下顎義齒ヲ維持スルモノナリ之ニ「ウキ」テットラバー」ヲ用ヒ或ハ護膜床中ニ金屬片ヲ蒸和シ或ハ全部ヲ「ロ」ト氏又ハウキストン氏合金ヨリ鑄造ス
- 六 彈力發條 上下顎總義齒ノ際螺旋發條又ハU字形彈力線ヲ白齒部ニ附着シ其彈力ニヨリテ維持ス
- 七 齒冠總續術 齒冠缺損シ其齒根殘存スルモノニハ人工齒冠ヲ作り合釘或ハ「バンド」ヲ付シ「セメン

第四十一問 帶鈎ニ用ユル材

各類ノ優劣

- 帶鈎ニ用ユル材品ハ大別シテ金屬性及植物性トス
- 一 金 柔軟ニ過ギテ彈力性ヲ缺クガ故ニ純金ハ使用ニ適セズト雖銅及銀チ加ヘ十八乃至二十加練トナシタルモノハ適當ノ硬度及彈力性ヲ有シ最モ普通ニ用ヒラル
- 二 白金 其純粹ナルモノハ堅硬ニ過ギテ齒牙ノ接觸面ヲ磨耗スルノ弊アリ金ト等量ノ合金トシ或ハ其少量チ金ニ混シテ用ユルモノハ彈力性強ク鈎トシテ最モ優等ナルモノナリ又白金ノ薄板上ニ金ヲ流布シテ用ユルコトアリ
- 三 銀 彈性并ニ硬性ヲ缺キ且ツ口内ニ於テ化學的

ト」ヲ以テ合着維持セシム

- 八 齒冠架工術 繼續齒或ハ健全齒ヲ支臺トシテ其間ニ架工齒ヲ連結維持スルモノナリ四五ノ支臺ハ全顎義齒ヲ維持スルニ足ル

第四十問 義齒床ニ用ユル空室ノ形狀

則並ニ原則ニ違反スルキハ如何ナル結果ヲ生ズルヤ

空室ノ形狀ハ適意ナレハ概テ「ハート」形ノ淺クシテ廣キチ用ユ而シテ全床ノ重心ニ裝置スルチ原則トス之ニ反スレバ其維持力甚ク弱キモノナリ尙ホ注意スベキハ其邊緣銳利ナラズ然モ適當ノ角度ヲ有シ空氣ノ侵入シ易カラザル様ニセサルベカラズ然ラサレバ或ハ粘膜ヲ刺戟シ或ハ其維持不充分ナリ

第四十二問 鈎ヲ以テ支フル一部義齒床

ノ形狀ニ三鈎ノ種類名稱及鈎ヲ用ユル天然齒ノ鑑別

- 作用ニ犯サル、ガ故ニ通常用ユル「ナシ」之ニ銅、白金ノ少量チ混ズレバ稍ヤ使用ニ適ス
- 四 洋銀、黃銅 化學的作用ニ犯サル、ト比較的少ク彈性ヲ有シ且ツ廉價ナルチ以テ屢應用セラル
- 五 蒸和護膜「セルロイド」 床ヨリ延長シテ齒面ヲ包擁セシムヨク齒面ニ密接シ稍ヤ彈力チ有シ齒牙ヲ磨耗スルガ如キ「ナシ」ト雖使用久時ナレハ弛緩シテ其効ヲ減ズ

第四十二問 鈎ヲ以テ支フル一部義齒床

ノ形狀ニ三鈎ノ種類名稱及鈎ヲ用ユル天然齒ノ鑑別

義齒ノ形狀ハ其數、部位、維持ノ方法等ニヨリテ一様ナラズ今下顎第一及第二大白齒ヲ缺損シタル時ハ

舌面ニ於ケル床ハ第一小白齒ノ部ヨリ第三大白齒ニ至ル齒齦ヲ狭ク覆ヒ頰面ニ於テハ該當部及第三大白齒部ノ齒齦ヲ覆ヒ第二小白齒ニ鈎ヲ纏フ又上顎前齒二三ヲ失ヘタル時ハ床ヲ顎堤ニ沿テ狭ク左右トモ第一小白齒或ハ第一大白齒部迄延長シ小白齒ニ鈎ヲ付シテ維持セシム

鈎ノ種類ヲ列舉スレバ

- 一 スター 床ヲ延長シテ彈力ヲ有セシメタルモノナリ
- 二 單純鈎 普通使用セラル、モノニシテ金屬ノ條片ヲ以テ齒牙ヲ纏ヒ齒齦線ニ於テ新月形ヲナスモノナリ
- 三 耳狀鈎 白齒ニ用ユ齒牙ヲ纏ヒ

上部ヨリ金片ヲ突出セシメ之ヲ屈折シ咀嚼面ノ一部ヲ削リテ之ニ適合セシム

- 四 翼狀鈎 口蓋面ニ於テ床ト連結シ其兩端隣接面ヲ通シテ唇面ニ於テ相合シ恰モ双翼ヲ以テ齒牙ヲ包擁スルガ如キモノナリ
- 五 「スタンダード」鈎 齒冠ノ中央部ニ於テ纏ヒ一
- 六 海扇狀鈎 幅廣クシテ舌面ノ齒齦線ヲ弧線狀ニ切除シ齒頸部ヲ露ハセルモノナリ
- 一 位置 前齒六枚ハ容易ニ人目ニ觸レテ天然ノ容貌ヲ害スルモノナルガ故ニ之ヲ避ケ白齒部ニ用ユベシ

- 二 形狀 犬齒及智齒ノ如ク圓錐形ヲナスモノ及不正ノ形狀ナルモノニ於テハ鈎滑脫シテ充分ノ效果ナシ又齒冠甚ダシク低キモノモ亦不適當ナリ一般ニ小白齒及大白齒ヲ撰擇ス殊ニ小白齒ハ圓筒形ニシテ之ニ纏ヘタル鈎ハ維持最モ確實ナリ
- 三 健否 齒膜ニ疾病アルモノ弛緩セルモノ及近傍組織ニ疾患アルモノハ使用ニ堪ヘズ其治癒ヲ待テ設置スベシ
- 四 造構 珐瑯質ノ完全ナルヲ要ス若シ其造構不完全ナル時ハ鈎ノ磨擦ニヨリ容易ニ毀損セララルベシ

第四十三問 帶鈎ヲ齒牙ニ設置スルニ如何ナル注意ヲ要スルヤ

齒牙ニ帶鈎ヲ設置スルニハ顔貌及齒牙、齒齦等ヲ損

害セザルヤ否ヤニ付キ注意スルヲ要ス其注意事項ハ

- (一) 齒牙ノ位置
- (二) 齒牙ノ形狀
- (三) 齒質造構ノ良否
- (四) 齒牙及近傍部ノ健否ヲ注意撰擇スベシ
- (五) 帶鈎ハ齒牙ニ克ク密接シ僅少ノ間隙タモ存スベカラズ
- (六) 帶鈎ハ齒牙ヲ強ク牽引シテ其動搖ヲ來タシ又其力緩和ニ過ギテ動搖シ齒牙ヲ磨擦スルガ如キヲナキ
- (七) 帶鈎金屬硬固ニ過ギテ齒牙ヲ磨耗スルガ如キヲアルベカラズ
- (八) 齒頸部ヲ可成的遠ザカリタル中央部ニ設置スベシ
- (九) 尙ホ顎ノ兩側ニ設置スルハ牽引力ヲ平均スベキ相對ノ位置ヲ撰ムベシ

第四十四問 「グラスプ」ヲ用ユルニ何レノ齒牙ヲ忌避スベキヤ其理由

四枚ノ切齒、兩犬齒、第一小臼齒時トシテ第三大白齒
ハ忌避スベシ又不治ノ疾病アルモノ造構不完全ナル
モノモ忌避スベシ(前問及前々問參照)

第四十五問 「クリーブランド」氏式空窩

床ノ長所ヲ示セ

- 一 空窩ノ形状大ナルト口蓋粘膜ニ接スル空窩縁明
ニ角度ヲ有スルトニヨリ吸着力強大ナル
- 二 床ノ下面即舌ニ對スル面ハ平等滑澤ニシテ他式
ノ如ク空窩隆起シ居ラザルガ故ニ舌ノ運動圓滑ニシ
テ不快ノ感ナキ
- 三 二重床ナルヲ以テ屈撓等ノ加力ニ對シテ強大ナ
ル抵抗力ヲ有シ義齒床堅牢ナル

、第四十六問 空窩式及接着式各自ノ適症ヲ

示セ

一 空窩式ハ主トシテ上顎總義齒ニ用ユ其適症ハ齒
槽突起ノ甚クシク吸收セルモノ口蓋淺クシテ到底接
着式ヲ以テ維持シ能ハザルモノ及口蓋粘膜ノ硬軟適
度ナルモノ等ナリ

二 接着式ハ有床義齒ニ汎用セラル、方式ニシテ顎
ノ上下ヲ論ゼズ局部ト全部トニ關セズ普通ノ狀態ニ
シテ空窩ヲ用ユルノ要ナキモノハ皆之ガ適症ナリ上
顎總義齒ニ於テハ口蓋ノ深キモノ齒槽突起ノ吸收セ
ザルモノ等ハ其適症ナリ

、第四十七問 金床義齒ノ製作法

一 鑄型製作 先ツ通法ニヨリ患者ノ口腔ヲ印象シ
石膏模型ヲ造リ金屬ヲ以テ陰陽兩鑄型ヲ製ス(第十

八問參照)

二 金銀鑄印 紙片或ハ錫箔ヲ取り陽型面ニ貼シ概
界將來作ルベキ床ノ形状ニ切リテ模床ヲ作り之ヲ金
銀上ニ貼シテ同一ノ形状ニ切截ス金銀ハ金位十八乃
至二十加煉ニシテ上顎ナラバ二十六乃至二十八番下
顎ナラバ二十四五番ノ厚徑ヲ有スル者タルベシ其金
銀ヲ燒還シ酸ヲ以テ表面ヲ清淨トナシ之ヲ陽型ニ貼
シ轉騰セザル様同ク適當ナル位置ニ支持シ角製或ハ
木製ノ槌ヲ以テ輕打シ型陽面上ノ凹凸ニ出來得ル丈
ケ一致セシメテ床ノ概形トナシ陰型ヲ其下ニ置キ重
量アル槌ヲ以テ陽型基底ヲ打撃シ金銀ヲ鑄印ス或ハ
「プレス」(螺旋壓抵器)ニ鑄型ヲ置キ兩鑄型面ノ相
接合スル迄螺旋ヲ回轉シテ壓迫ス其間時々之ヲ檢シ

テ位置ヲ正シ又時々燒還シテ柔軟トナシ鑄製ヲ防ギ
且ツ硫酸ニ浸シテ鑄型金屬ノ附着セルヲ除去スベシ
次ニ齒頸部成形針子及金銀鍍ヲ以テ不要部ヲ截除シ
粗糙部ヲ磨磨シテ之ヲ口内ニ試適ス若シ必要アラバ
「グラス」ヲ鑄着シ又維持ニ氣室ヲ要スル時ハ石膏
模型口蓋面ノ適位ニ氣室ノ形ニ切リタル「パラフィン」
ヲ附着シ之ヲ鑄型ニ顯ハシテ鑄印時床ニ氣室ヲ印記
スベシ

三 陶齒排列 石膏模型ニ就テ刮リ合セタル陶齒ヲ
白金ノ薄銀ニテ裏裝シ咬合關係ヲ正シツ、之ヲ金床
上ニ梳列シ硬蠟ヲ以テ假着シ口腔ニ試ム

四 鑄着 蠟ノ存在セル部分丈ケテ露出シ他ハ悉ク
石膏ト砂又ハ石碱トノ混合物ニ埋没シ埋没材ノ乾固

セル後熱湯ヲ以テ蠟ヲ軟化シテ除去シ蠟着部ニ細砂ノ飽和溶液ヲ塗布シ且ツ少量ノ金網細片ヲ置キ次ニ全部ヲ蠟着盆ノ炭火上ニ置キ徐々ニ加熱シ埋没材ノ紅色ヲ呈スルニ至リ吹火管ヲ以テ銳キ火焰ヲ燬ニ與ヘテ之ヲ鎔流シ尙ホ蠟ヲ追加シテ齒牙口蓋面ノ豐隆ヲ形成ス

五 整美 蠟着ヲ終ラバ徐々ニ冷却シ全ク冷却セル後埋没材ヲ破壊シ稀鹽酸中ニ浸シテ酸化物及礫砂ノ附着セルヲ溶解シ去リ清水ヲ以テ洗滌シ蠟ノ過剩部及不平面ヲ蠟磨シ全部ヲ研磨シテ竣工ス

第四十八問 陶齒ヲ金床ニ附着スルニ當テ蠟

着法ト硫化護膜附着法トノ優劣ヲ記シ併セテ其理由ヲ

示セ

一 劣レル點

1 製作法複雑ニシテ困難ナリ

2 義齒ニ重量ヲ與フルガ故ニ上顎ニ於テハ維持力ヲ減ズ

3 陶齒ヲ附着スルト同時ニ前齒部ノ齒齦ヲ形成スルヲ得ズ却ツテ金色ニヨツテ醜觀ヲ呈スルコトアリ

4 高度ノ熱ヲ與フル爲メ陶齒ヲ脆弱ナラシム

二 優レル點

1 堅固ニシテ永久ノ使用ニ堪ユ

2 護膜ノ附着法ニ比シテ清潔ナリ

3 少量ノ蠟ヲ以テ完全ニ附着スルヲ得陶齒口蓋面ヲ過剩ニ豐隆セシムルヲ要セズ又殆ント如何ナル咬合ニ於テモ用ユルヲ得

硫化護膜附着法

一 優レル點

1 製作法簡易ニシテ破壊セル場合ニモ修繕容易ナリ

2 比較的輕シ

3 陶齒ヲ附着スルト同時ニ齒齦ヲ形成スルヲ得

4 高熱ヲ要セズ故ニ陶齒ヲ害スルコトナシ

二 劣レル點

1 破壊シ易シ

2 床ト蒸和護膜トノ間ニ空隙ヲ生ジ汚物ヲ滯留ス

3 護膜ノ多量ヲ要シ陶齒口蓋面ヲ豐隆セシメザルベ

カラズ爲ニ不快ノ感アルノミナラズ咬合關係ニヨリテハ使用スルヲ得ズ

以上ノ比較ヲ見ル時ハ各一長一短アリト雖蠟着法ノ缺點ハ術者ノ熟練ト努力トヲ以テ償フヲ得ベキモノニシテ其特長ハ到底護膜附着法ノ企圖シ能ハザル所ナルガ故ニ蠟着法ヲ以テ優レリトス

第四十九問 義齒床ニ用ユル護膜ノ成分

製法分量并ニ鈎ノ毒毒

蒸和護膜ハ彈性護膜ニ硫黃及顔料ヲ混シ蒸氣ニヨリテ熱セラレタル轉輾器ヲ幾度トナク通過セシメテ製シ或ハ彈性護膜ヲ溶解劑(「テレピン」油或ハ「テレピン」油ト石臘油若シクハ「ペンシン」ノ混和物)ニテ溶解シ之ニ硫黃及顔料ヲ混合シ能ク攪拌シテ全ク混和

シタル後玻璃板上ニ廣布シ溶解劑ヲ揮發セシム其成分二三ヲ舉グレバ

暗褐色 印度護膜 四八 硫黃 二四

「ピンク」色 印度護膜 四八 硫黃 二四

白色酸化亞鉛 三〇 朱 一〇

黑色 印度護膜 四八 硫黃 二四

象牙墨 四八

帶鈎ハ局部義齒床ノ維持ニ向テ屢大ナル必要ヲ感ズルモノナレハ不適當ニ造ラレタルモノハ種々ノ弊害ヲ伴フ(一)過度ニ堅硬ナル金屬ヲ用ヒ或ハ不適合ナル時ハ齒面ノ珞瑯質ヲ磨耗ス(二)齒面ニ密着セザル時ハ汚物ヲ停滯シ口内ヲ不潔ニシ齒牙ヲ蝕蝕ス(三)齒根ヲ壓迫スル時ハ齒齦及齒膜ヲ刺戟シテ炎症ヲ起

ス(四)彈力强キニ過ケル時ハ齒牙ヲ牽引動搖セシメテ其脱落ヲ催進ス(五)位置破格ナル時ハ容貌ヲ醜變ス

第五十問 硬護膜ト軟護膜トハ共ニ蒸和

シ得ルヤ若シ得ルトセバ其結

果如何

硬護膜ト軟護膜トハ披裂口蓋補缺術等ニ於テ屢々連續使用セラル其際同時ニ填入蒸和スルモ敢テ差支ナシ唯蒸和ノ熱度ニヨツテ護膜ノ融解スルヤ硬護膜中ニ含有セル硫黃ノ軟護膜中ニ侵入スル爲メ其接合部少許ヲ硬變シ半硬ノ状態トナスガ故ニ必要ヨリハ稍十廣ク軟護膜ヲ填入スベシ但シ正確ヲ要スル者ハ始メ硬護膜部ヲ蒸和シ次ニ軟護膜ヲ追加スルヲ可トス

第五十一問 護膜床義齒ヲ製作スルニ用

ユル器械及之ヲ用ユル順序

ヲ示セ

一 印象蓋 ニ印象材ヲ盛りテ口腔ヲ印象シ

二 石膏煉盆及石膏筥 ナ以テ石膏ヲ煉化シ印象ニ

注入シテ模型ヲ作り

三 咬合器 ニ付シテ咬合關係ヲ正シ

四 「レーズ」 ニ「コロンドム」ヲ附シテ陶齒ヲ刮リ

合セ

五 「グラスブホーセツプ」 ナ以テ鈎ヲ作り

六 「スパチユラ」 ナ以テ「バラヒン」ヲ模型上ニ流

布シ假床ヲ作り陶齒ヲ植列ス

七 「フラスク」 中ニ石膏ヲ以テ埋没シ石膏ノ硬化

セル後熱湯ヲ以テ假床ヲ去リ

八 護膜填入器 ナ以テ蒸和護膜ヲ精密ニ填塞シ

九 螺旋付「タンク」 中ニテ之ヲ溫メ壓抵シテ「フ

ラスク」ヲ閉鎖ス

十 蒸和罐 中ニ入レ約三百二十度ニ於テ蒸和シ後

之ヲ取り出シ

十一 「スケレットパー」、鑊子 ナ以テ全表面ヲ形成シ

十二 「レーズ」ノ「ブラッシ」及砂紙 等ヲ以テ研磨

滑澤ナラシム

第五十二問 硬護膜ノ蒸和後海綿狀ヲ呈

スル理由如何

硬護膜ヲ蒸和スルニハ過急ナラザル火力ヲ以テ低溫度ヨリ長時間ヲ設シテ徐々溫度ヲ上昇セシメ三百度

乃至三百二十度ニ至ツテ熱ノ昇降ヲ止メ三十分乃至一時間蒸和ス此蒸和ハ護膜ノ硬化スル温度ノ範圍ノ可成的低度ニ於テ長時間行フヲ長トス然ルニ若シ急劇ニ高熱ヲ加ヘ一時ニ温度ヲ上昇セシムル時ハ護膜ノ表面ノミ急ニ硬固トナリ其際發生スル硫化水素ハ内部ニ封鎖セラレテ遂ニ氣泡ヲ生ジ甚ダシク其質ヲ脆弱ナラシムルモノナリ且ツ護膜填入ノ際粗雜ニシテ空隙ヲ殘スガ如キモ亦大ニ關係アリ

第五十三問 重量アル下顎義齒ノ製法

床ノ重量ニヨツテ維持セシムル下顎義齒ニ二種アリ

一 易銻合鑲床 (第五十四問參照)

二 加重護膜床 ハ普通ノ護膜床義齒製作法ト政テ異ル所ナシ只之ニ使用スル護膜ハ「ウエテツトラバ

」ト稱シ蒸和護膜中ニ金屬ノ粉末ヲ混入シテ重量ヲ增加セルモノナリ又時トシテ普通ノ護膜床中ニ金屬線或ハ銀ヲ入レテ重量ヲ與フルコトアリ

第五十四問 ウエストン氏合鑲床ノ製作法及其特長ヲ示セ

常法ノ如ク印象ヲ探得シ石膏ト砂、「アスベスト」、大理石末ノ等分混合材ヲ以テ模型ヲ作り蠟、「パラフィン」ヲ以テ可成的薄ク假床ヲ作ル但シ重量ヲ必要トスル時ハ厚カラシムベシ次ニ護膜床用有釘陶齒或ハ「カウンスターシンク」有釘陶齒ヲ假床上ニ排列蠟着ス若シ一部義齒ノ咬合甚ダ密接セルモノニハ金或ハ銀板ヲ以テ裏裝シ尙ホ延長ノ端ヲ假床中ニ埋入ス咬合關係適當ナラバ「フラスク」中ニ埋没ス其法ハ先ツ同

氏改良「フラスク」ノ下部ヲ硝子板上ニ置キ模型ト一ノ材品ヲ以テ護膜床ノ埋没ト同様ニ埋没ス其部位ハ可成的合金注入口ニ遠リタル部分ニ置クヲ可トス

次ニ注入口ヨリ模型ニ至ル通路ヲ「スクラップ」ニテ形成ス其深サハ上部ノ「フラスク」ト合シテ全形ヲナスモノナルガ故ニ所要ノ半ナラシム即假床ノ厚徑ヲ超ユルベカラズ通路ハ其半ニ至ル迄次第ニ大サヲ減シ上顎ナラバ其ヨリ漸次廣カラシメ下顎ナラバ二路ニ分岐ス埋没材上面ヲ平坦トシ白堊ト水トノ煉材ヲ塗布シ「ソーブストーン」細末ヲ散布ス次テ上部「フラスク」ヲ載セ埋没材ヲ注入ス

埋没材ノ硬化後少シク加温シテ蠟ヲ除キ沸湯ヲ以テ洗滌シ上部「フラスク」ノ通路部ヲ堀鑿シテ下部ト同

一ノ溝ヲ作ル

「フラスク」兩部ヲ括約シテ之ヲ一時間以上加熱シ濕氣ヲ全ク脱出セシム濕氣ノ存否ハ鏡ヲ注入口上ニ翳シテ曇ヲ生ズルヤ否ニヨツテ判別ス尙ホ持續加熱シ坩堝中ニ銻解セル合金ヲ注入ス「フラスク」冷却セバ之ヲ開キ義齒ヲ取り出し過剩部ヲ鋸斷シ蠟子及「サンドペーパー」ニテ磨削シ浮石末ヲ以テ滑澤ニス

若シ上顎ニ於テ維持ニ空室ヲ要スル時ハ印象ニ於テ空室ノ形狀ヲ堀鑿シ或ハ模型面上ニ石膏ヲ以テ空室ノ形狀ヲ築造スベシ但シ其境界ハ不定ニシテ確然タルベカラズ此合鑲床ノ特長ハ下顎義齒トシテ重量ヲ付シテ維持ヲ安全ナラシメ粘膜面ニ密接スル等ナリ

第五十五問 白金床裝銀義齒製作法ヲ舉

白金床裝鑲齒トハ白金床ニ陶質ヲ以テ鑲嵌シ密燒
形成シ色澤形狀恰モ天然齒齦ノ如クナシタルモノヲ
云フ

一 印象模型 一般鑲齒ノ製作時ニ於ケルト異ナル
ナシ唯模型ノ高徑ヲ二吋位トシ鑄型製作ニ適當ナル
樣形成ス可シ後陰陽鑄型ヲ作ル

二 白金床調製 石膏模型ニヨツテ陰陽型ヲ作り先
ツ厚キ錫箔ヲ以テ模床ヲ作ル其大サハ床ノ眞形ヨリ
少シク大ナラシム此模床ニ就キテ白金飯(上顎ナレ
バ二十九番下顎ナレバ二十九番ヲ二葉ヲ合セ用ユ一
部鑲齒ナレバ二十九番ニ補充飯トシテ二十六番位ノ
モノヲ追加シテ用ユ)ヲ剪裁シ能ク燒選シ陽型面ニ

グロ

精密ニ磨着シ又燒選ヲ反覆シ之ヲ再ビ陽型面上ニ置
キ陰型ヲ覆ヒ即白金飯ヲ兩型間ニ間在セシメテ之ヲ
轉倒シ陽型ヲ上方トナシ其基底ヲ打撃シテ鑄印ス鑄
印ヲ終ラバ稀鹽酸中ニ煮沸シテ清淨トナシ石膏模型
ニ適合シテ過剩線ヲ剪去或ハ鏽去シ周圍ノ邊線ニ半
圓形十六番ノ白金線ヲ純金ニテ磨着シ陶質附添ノ限
界トナス又砂型ヲ作ルニ先ツ蠟ノ條片ヲ模型ノ周圍
ニ繞ラシ床ノ外形線ニ會セシメ茲ニ模型面ニ對シテ
角度ヲ呈セシムレバ白金床鑄印後床ノ周緣ニ風曲シ
タル部ヲ生シ半圓線ト同一ノ効アリ

腔ニ試道シ咬合關係ヲ正シ口腔外ニ取リ出シ再ビ模
型上ニ置キ蠟ヲ以テ後來陶質ヲ付添スベキ齒齦部及
口蓋部等モ天然的ニ形成シ終レバ門齒及齒齦部模型
ノ外面ニ分離劑ヲ塗布シ石膏泥ニテ外壁ヲ造リ硬化
後離去スレバ内面ニ於テ陶齒並ニ齒齦ノ形狀ヲ印シ
タル壁ヲ得ベシ茲ニ於テ蠟及陶齒ヲ去リ白金床ヲ酸
液中ニ煮沸シ清淨トナシ再ビ石膏模型ニ安置シ石膏
壁モ元ノ如ク位置セシメ其内面ニ印記シタル形ニ微
ビ陶齒ヲ排列ス

四 鐵着 陶齒排列ニテラバ鐵ニテ再ビ假着シ壁ヲ
除キ白金床ヲ模型ヨリ取り去リ床ノ粘膜面ニ當ル部
ニ石膏ト石絨等分ノ混合物ヲ泥狀トナシタル埋沒材
ヲ充シ別ニ硝子板上ニ此埋沒材ヲ四分程積ミ上ケ之

ニ白金床ヲ置キ更ニ同一ノ埋沒材ヲ以テ陶齒ノ口蓋
面ノミヲ殘シ全部ヲ埋沒シ硬化後蠟ヲ去リ次ニ二十
九番ノ白金飯ヲ取り前齒ヨリ第一小白齒迄他ハ第一
小白齒ヨリ第二大白齒迄三部ニ裏裝シ克ク乾燥シ純
金ヲ以テ陶齒釘、裏裝飯及白金床ヲ織着シ冷却後埋
沒材ヲ破壞シ床ヲ取り出シ酸液中ニ於テ煮沸スベシ
此際再ビ口内ニ試道シ其適否ヲ正スベシ

五 陶質塗敷 以上ノ如ク製作セラレタル鑲齒ニ陶
質ヲ塗敷シテ約三回ニ密燒ス第一回ハ陶質ヲ以テ陶
齒ト床トノ間隙ヲ充シ且ツ之ヲ連絡シ併セテ諸部ノ
概形ヲ作り尙ホ陶質ノ收縮ニ依テ陶質ノ位置ヲ變ス
ルヲ防グ爲メ各陶齒ノ間ヲ「チセル」ノ如キモノニテ
微劃分界シ「マッパル」内ニ入レ爐内ニテ密燒シ少時

ノ後取り出し裂隙及缺損等ヲ生ジタル部ニ再ビ陶質
 ナ塗敷補缺シ第二窯燒ヲナシ次ニ口蓋及齒齦部ヲ天
 然ノ形狀ニ模シ陶質ヲ塗敷シ（此際石膏ノ外壁ヲ參
 考トスベシ）第三窯燒ニ付シ冷却「マッフル」中ニ移
 シ漸次冷却スベシ而シテ陶質面ヲ克ク濕潤シ置キ齒
 齦珐瑯材ヲ「ゲーシ」二十六番位ノ厚徑ニ平均ニ最モ
 美麗ニ塗敷シ「マッフル」内ニ入レ爐内ニ於テ窯燒シ
 漸次冷却セル後周縁ヲ「アーカンサス」石ヲ以テ研磨
 セバ茲ニ完成ス

第五十六間 「セルロイド」ノ成分

火綿 一〇〇分 樟腦 四〇分 酸化亞鉛 二分
 朱 〇、六分

第五十七間 齒齦ニ繼續術ヲ應用スル其

如何ナル狀態ヲ適當ト
 ナルカ並ニ其理由

繼續術ヲ施スベキ齒根ハ左ノ狀態タルヲ要ス少クト
 モ諸種ノ治療ニヨツテ左ノ狀態タラシメ得ルモノナ
 ラザルベカラズ

一 硬質ノ常態ナルト 若シ齒根ノ破壞軟化甚クシ
 ク補修ニヨツテ回復シ得ザル時或ハ齒根ノ吸收著シ
 クシテ合釘ヲ挿入スベキ長徑ヲ有セザル時ハ繼續齒
 ナ維持スルヲ得ズ又白聖質瘡等ノ存在スル時ハ早
 晩拔去セザルベカラズ

二 根管ノ常態ナルト 若シ根管時形ニシテ充分清
 掃シ得ラザル時ハ繼續後容易ニ齒膜ノ疾病ヲ惹起
 スルモノナリ

三 齒膜ノ健全ナルト 齒膜炎、齒槽膿瘍、膿漏等ノ
 病疾ナキト若シアリトスルモ全治シ得ベキヲ要ス然
 ラザレバ其病勢ヲ増劇シテ齒根弛緩スルノミナラズ
 他部ニ障害ヲ及ボスニ至ラン

四 齒槽ノ健全ナルト 腐骨、齒槽突起ノ瘦削、骨膜
 炎等ナキヲ要ス齒根如何ニ健全ナルモ此等ノ疾病存
 在セバ早晩脱落シ或ハ拔去セザルベカラザルニ至ラ
 ン

第五十八間 齒冠繼續術ヲ施スベキ齒牙
 ノ準備

齒冠繼續術ヲ施ス齒牙ノ前準備ハ破壞ノ狀態及各種
 續式ニヨリ差異アレハ大別シテ金冠ヲ裝置スルモノ
 ト他ノ繼續齒ヲ裝置スルモノトノ二種トス

一 金冠ヲ裝置ノ齒冠ハ先ツ根管ヲ清淨ニシ齒膜ノ
 疾病ヲ治療セシムルヲ要ス形成ハ出來得ル丈ク多ク
 齒質ヲ殘存スベシ時トシテ齒髓ヲ保存シテ形成スル
 トアリ輪狀其他適宜ノ形狀ヲ有スル「コロングム」、
 「カーボランダム」（又切断鉗子「チセル」鑪子等ヲ用
 エ）チ「エンジン」ニ附シ齒冠周圍ヲ削リテ圓錐狀ト
 ナシ咀嚼面ヲ削リテ高徑ヲ減シ對合齒トノ間ニ金冠
 ノ嚙面ヲ裝置シ得ラル、丈ケノ間隙ヲ作ル又隣齒ト
 密接セル時ハ分離用錐子及「カーボランダム」テスク」
 ナ以テ齒間ヲ分離ス尙ホ齒根ノ破壞甚シキ時ハ根管
 ニ合釘ヲ立テ「アマールガム」ヲ以テ破壞部ヲ形成ス

二 他ノ繼續齒ヲ裝置スルニハ特別ノ場合ノ外一般
 ニ齒髓ヲ除去ス（一）齒冠切除 齒冠ノ大部分殘存

スルモノハ「ドリール」ヲ以テ切斷セント欲スル部ニ
 數孔ヲ穿テ「バー」、「カーホランダム」等、鋸子等
 ナ以テ其孔ヲ連續シテ切斷ス或ハ上記ノ器械ヲ以テ
 齒質ノ半部マテ澁ヲ作り切斷齒子ヲ以テ一時ニ離斷
 ス(二) 齒根形成 「カーホランダム」或ハ「コロ
 ダム」輪、圓錐狀鑿子、平滑子、「カウスター」、サンクバ
 「」等ヲ等ヲ以テ齒根面ヲ平坦トナス唇面ヲ必ズ齒
 線線下ニ至ラシムルヲ要ス尙ホ各式ニヨリテ或ハ山
 形ニ形成シ或ハ溝ヲ作り或ハ中央ヲ凹陷セシムル等
 特種ノ形成ヲナス但シ金帽ヲ裝置スル者ハ齒根周圍
 ナ平滑トナスヲ要ス(三) 根管形成 「ドリール」、「
 「バー」、「リマー」等ヲ以テ合釘ヲ挿入スルニ充分ナ
 ル丈ケ根管ノ約三分ノ二部ヲ開大シ次ニ小輪狀「バ

「」或ハ「ゲルビー」等「バー」ヲ以テ根管內壁ニ溝ヲ
 作ル又各式ニヨリ特種ノ「バー」ヲ用ヒテ特種ノ形成
 ナ要スル「」アリ若シ根ノ破壞深ク齒線以下ニ及ブ時
 ハ「アマルガム」ヲ以テ根管壁ヲ形成シ或ハ金製ノ細
 キ圓筒ヲ挿入シテ其周圍ニ「アマルガム」ヲ以テ補修
 充填ス(四) 根管充填 根管ハ其尖端約三分一部ニ
 至ル迄金箔、偏答百兒加等ノ材品ヲ以テ充填スベシ
 第五十九問 齒冠繼續術ニ應用スル合釘
 ノ種類(性質及形狀)ヲ記セ

「」樹ヲ擧用ス(三) 兩質混製合釘ハ「ヒツコリー」樹
 ノ中心ニ金又ハ白金釘ヲ貫通シタルモノナリ
 其形狀ニヨリテ分類スレバ(一) 圓形合釘ハ木製及混
 製ニ於テ見ル所ナリ金屬製ニ於テモ此形狀ヲ有ス
 ルモノアリ(二) 方形合釘ハ最モ普通ニ用ヒラル、モ
 ノニシテリツチモンド氏モ亦之ヲ用ユ(三) 螺旋狀合
 釘ハ圓形ノ合釘ニ螺旋ヲ切リタルモノナリ「ナット」
 或ハ小頭ヲ添テ用ユル「」アリハウツ氏、ハウラント氏、
 フォスター氏等ノ式ハ之ヲ採用ス「メリヤムゲート」
 氏ハ螺旋ナレト稍ヤ異ル所アリ(四) 三角形合釘ハ「バ
 ンムオル」氏式ニ用ヒラル(五) 餘狀合釘ハ扁平ニ兩
 緣ニ鋸齒ヲ有ス「ウエストン」氏ノ式ナリ(六) 橢圓形合
 釘ハ「バンウチル」氏ノ式ナリ(七) 階段狀合釘ハ「ロー」氏

ノ式ニシテ階段狀ナシ根面ヲ覆ベキ盃狀ノ鍍チ付ス
 大小七種アリ(八) H字狀合釘ハ方形ノ兩側ニ溝ヲ有
 シ其橫斷面H字形ヲナスモノナリ「ロー」ガン氏ノ式是
 ナリ

第六十問 齒冠繼續時ニ用ユル合着材品

ハ如何

繼續齒ノ合釘ト根管ノ間及金冠內面ニ填入シテ之ヲ
 齒牙ニ合着維持セシムル材品ハ左ノ如シ
 一 「セメント」 最モ普通ニ使用セラル、者ニシテ
 酸「セメント」ヲ用ユ其用法ハ之ヲ稍ヤ緩ク煉和シテ
 根管及齒牙ノ孔溝ニ填メ合釘ニ纏ヒ金冠內面ニ充シ
 齒冠ヲ壓抵シテ一定ノ位置ニ保持シツ、唾液ノ觸接
 ナシ避ケ熱氣ヲ以テ乾燥ス硬化セシ後溢出シタル過剩

ヲ除去ス當時之ニ專用セラル、**「クラウンセメント」**
 (磷酸)ナルモノアリ、
 二、**「備答百兒加」** 先ツ根管及齒冠ノ溝ニ嚼囉仿膜ヲ
 塗布シ之ニ加熱シテ柔軟トナシタル備答百兒加ヲ充
 シ齒冠装置器ヲ以テ齒冠ヲ挾ミ合釘ヲ加熱シテ適位
 ニ嵌入ス其際布片ヲ以テ齒齦及唇、頰ヲ保護シ火傷
 等ノ過失ナキ様注意スベシ此合着ハ一時假的ノモノ
 ニシテ齒膜疾病ノ治癒確實ナラザル時ニ行ヒ裝着後
 齒根ニ異狀アレバ容易ニ除去シ得ベシ又廉々諸材品
 ト併用スルコトアリ
 三、**「アマルガム」** 最モ堅牢ナル合着ヲ得ルモノニ
 シテ殊ニバンウエル氏齒冠ニアリテハ過剰水銀ノ爲
 メ合釘ハ「アマルガム」トナリ維持確實ナリ但シ齒冠

ノ色澤ヲ奇變スルノ害アリ其用法ハ先ツ柔軟ニ煉リ
 タルモノヲ根管ニ充シ稍ヤ硬ク煉リタルモノヲ齒冠
 ノ溝ニ充シ根管内ノ「アマルガム」ニ細キ線ヲ挿入シ
 テ合釘ノ通路ヲ作り齒冠ヲ壓抵ス若シ齒冠ノ溝ヨリ
 外面ニ達スル孔チ有スル繼續齒ニ於テハ此部ヨリ充
 填器ヲ以テ凝實ス
 四、**「金箔」** 時トシテハウ氏及ウエストン氏式ニ於テ
 用ユル「ア」リ然レモ「セメント」ト併用シ決シテ單獨
 ニ用ユル「ア」ナシ先ツ根管内ハ「セメント」ヲ以テ齒冠
 チ確固ニ合着シタル後「セメント」ノ露出セル部ヲ刮
 リ金箔ヲ施ス
 第六十一問 前齒用陶齒外裝金頭齒冠(イ)

ツチモンド齒冠(繼續式)

一 ナ示セ

一、**「齒根ノ形成」** 先ツ齒根周圍ヲ平滑トナシ根面ハ
 口蓋部ヲ齒齦以上ニ少シク殘存シテ平坦トナシ唇面
 ハ斜ニ齒齦線下ニ別刮ス又口蓋面ヨリ唇面ニ向テ斜
 ニ別刮スルモ可ナリ
 二、**「金帽調製」** 齒根ノ周徑ヲ計リ之ニ應ジテ狹キ金
 銀(三十番位)ヲ以テ環ヲ作り之ヲ齒根ニ嵌入シ「コ
 ロンダム」ヲ以テ唇面ヲ齒齦線下マテ別刮シ金色ノ
 外觀ニ觸レザル様ニス次ニ白金或ハ金銀ヲ根面ニ貼
 シ其面ニ應ジテ之ヲ屈曲シ兩者チ口外ニ於テ鐵着シ
 一體トナス次ニ根管ニ適合スル合釘ヲ作り金帽チ口
 内ニ裝置シ「ドリール」ヲ以テ其中央ハ孔ヲ穿チ之ヲ
 通シテ合釘チ根管ニ挿入シ兩者チ口外ニ於テ鐵着ス

又金帽ノ製作ハ齒根ノ印象ヲ探得シ之ヲ易鑄合金ニ
 顯ハシ金銀チ鑄印シテ無蠟金帽ヲ作ルモ可ナリ
 三、**「陶齒冠裝置」** 色澤形狀適當ナル金床陶齒ヲ取リ
 金帽ノ唇部ニ刮リ合セ金或ハ白金板ヲ以テ裏裝シ蠟
 チ以テ金帽上ニ假着シ咬合及排列關係ヲ正シ口腔外
 ニ取り出スベシ此作業ハ模型及咬合ニヨリ口外ニ於
 テナスモ可ナリ
 四、**「鐵着」** 蠟ヲ以テ假着シタル齒冠ハ石膏ト砂、石
 絨或ハ大理石末トチ等分ニ混合セル埋沒材中ニ埋沒
 シ蠟ノ部分ノミニテ露出ス埋沒材ノ硬化セル後熱シ
 テ蠟ヲ去リテ鐵着盆上ニ於テ金銀ヲ流布シ金帽ト陶
 齒トチ合着シ先ニ蠟ノ存在セシ部分ヲ充スベシ冷却
 シタル後埋沒材ヲ去リ過剰及粗糙部ヲ蠟磨シ口蓋面

ハ天然のニ形成シ研磨竣工ス

五 裝着 合釘ニ鐵目ヲ入レテ粗槽トナシ緩ク煉リタル「クヲウンセメント」ヲ根管及金帽内面ニ充シ合釘ニ纏テ齒根ニ挿入壓着シ充分ニ乾燥ス

第六十二問 ローガン齒冠綴續式

本齒冠ハローガン氏ノ創意ニ成ルモノニシテ特異ノ合釘ヲ有ス外觀天然齒ノ如ク底部ニ於テ合釘ヲ繞ツテ「カウンターシンク」溝ヲ有ス合釘ハ前齒及小白齒ニハ一箇大臼齒ニハ二箇アリ方形ニシテ尖端ヲ以テ終リ其兩側面ニ縱溝アリ横断面ハH字狀ヲナス當時改良ノ合釘ハ圓形ニシテ螺旋狀ヲナス
裝置スベキ齒根ハ合釘ニ合スル樣根管ヲ開大シ根尖端ニ充填ヲ施シ尙ホ小形ノ「バー」ヲ以テ根管壁ニニ

溝ヲ穿ツ根面ハ齒線縁下ニ至ル迄刮磨シテ平坦トナシ次ニ色澤形狀適當ナル齒冠ヲ撰定シ根管ニ挿入試

適ス合釘ハ「ブライヤー」ヲ用ユンバ隨意ニ屈曲スルガ故ニ咬合ノ關係及根管ノ狀態ニヨリ便宜彎曲スベシ次ニ「コロンダム」輪ヲ以テ齒冠基底ヲ刮磨シ漸次齒根面トノ間隙ヲ減シ水密ニ接合セシム此作業ハ模型ニヨリテ行フモ可ナリ此際「コロンダム」ニヨツテ合釘ヲ磨耗スルノ恐アルガ故ニ「ブライト」氏製薄銀ヲ輪側ニ添付シテ用ユベシ既ニ齒冠ノ形成ヲ終ラバ根管ヲ消毒乾燥シ「セメント」「ガッタバーチヤ」或ハ「アマルガム」ヲ以テ合着ス小白齒ノ二根ヲ有スルモノニハ合釘ヲ縱斷シテ二トシ兩齒根ニ挿入ス又上顎大臼齒ニ於テハ二個ノ合釘ノ中一ヲ口蓋根ニ一ヲ頰

後根ニ挿入ス

第六十三問 齒冠綴續術調製法ノ二三ヲ

舉ゲヨ

○新リツチモンド氏式

齒冠ハ外觀上唇面、口蓋面共ニ天然齒ニ類似シ方形ノ合釘ヲ有ス基底ハ中央斜面ニ凹陷シV字形ヲナス齒根面ハ扁平或ハ方形ノ鐵子及「コロンダム」輪ヲ以テ齒根中央ヨリ唇面及口蓋面ニ向テ斜面ニ形成ス根管ハオットレンギー氏「リマー」第二號ヲ以テ穿鑿ス次ニ形狀色澤適當ナル齒冠ヲ取り根ニ試適シツ、根面ヲ刮磨シ齒冠基底ト全ク水密ナル接合ヲ得セシム此際備答百兒加ノ一片ヲ基底ニ置キ之ヲ熱シテ根管ニ挿入シ押壓スル時ハ兩斜面ノ不等部ヲ直ニ知ルテ

得ベシ

齒根ニ裝着センニハ備答百兒加ノ薄片ヲ取り合釘ヲ其中心ニ穿通シテ齒冠基底ニ達セシメ之ヲ熱シテ根管ニ挿入シヨク壓着シ冷却セル後口外ニ取り出シ基底以外ノ備答百兒剩餘部ヲ銳利ナル小刀ニテ除去シ磷酸「セメント」ヲ以テ合着ス其利益トスル所ハ内外兩面ヨリ來ル壓力及輪狀ノ回轉ニ抵抗スル力強キニアリ

○ハウ氏式

ハウ氏齒冠ニ二種アリ一ハ四個釘齒冠ト稱シ口蓋面ハ著シク凹陷シ茲ニ四箇ノ桿狀釘ヲ有ス前齒ニノミ專用ス一ハ鳩尾溝齒冠ト稱シ基底ニ鳩尾形ノ溝ヲ有シ白齒ニ用ヒラル合釘ハ共ニ螺旋狀ナリ今四箇釘齒

冠ニ就テ述ベシ

齒根面ヲ刮磨シテ平滑トナシ唇面ヲ齒齦線下迄切り下ケ根管ハ「バー」ヲ以テ開鑿擴大シ更ニ螺旋狀「ダップ」ヲ保持器ニ付シテ根管ニ旋入シ根管壁ニ螺旋形ヲ作ル次ニ螺旋合釘ヲ保持器ニ附シテ根管内ニ旋入シ隣齒トノ排列及對合齒トノ咬合關係ヲ見テ或ハ合釘ヲ彎曲シ或ハ短縮ス

陶齒冠ヲ取り之ヲ根面ニ試適シテ適當ニ刮リ合セ之ヲ「マンドレール」ニ保持シハウ氏鉗子ヲ以テ桿狀釘ヲ屈曲シ「マンドレール」ヲ除ケバウハ係蹄狀ヲナス之ヲ齒根ノ唇面ニ貼シ排列咬合等ヲ察シテ釘ヲ屈曲シ合釘ニ纏絡シ金、「セメント」、「アマールガム」或ハウツド氏「メタル」等ヲ以テ根管及舌面ヲ充填形成ス

本式ノ利トスル所ハ合釘ノ屈曲自在ニシテ齒冠ヲシテ隨意ノ角度ヲ有セシムルヲ得ルニアリ

第六十四問 齒冠繼續術用咬合器ノ用法

如何

繼續齒冠ヲ調製スルノ際患者ノ口腔ニ試適スルノ不傾ヲ避クル豫メ模型ニヨツテ作業スル時ハ「ハント」氏ノ咬合器ヲ用ユ齒根ノ形成ヲ終リシ後根管ニ金屬或ハ木製ノ軸ヲ挿入シテ之ガ印象ヲ採得シ又對合齒牙ノ印象ヲ採り次ニ其部ニ軟化セル蠟塊ヲ置キ上下顎ヲ閉合セシメテ咬合關係ヲ寫シ上下ノ模型ヲ相符合スル蠟塊ノ印記面ニ置キ咬合器ヲ閉合シタル間ニ挾ミ石膏ヲ以テ模型ヲ各別ニ咬合器ノ上下板ニ附着シ蠟塊ヲ除ケバ繼續スベキ齒牙ノ咬合關係ヲ明知ス

ルヲ得ベシ

第六十五問 金冠製作法

金冠ノ製作法ハ種々アリテ一々列舉ニ暇アラズ今其一ヲ記サン

一 齒冠ノ形成 金冠ヲ施サンニハ可成的多クノ齒質ヲ殘存スルヲ可トス周圍ハ眞直ニ刮磨シテ圓筒狀トナシ結節ヲ剔刮シテ高徑ヲ減ズ齒髓ノ尙ホ生活セルモノハ損傷セザル様注意スベシ齒冠ノ破壞甚シキ時ハ白金或ハ銀線「T」字形若クハU形字トナシ根管ニ嵌入シ「アマールガム」ヲ以テ形成スベシ

二 頸箍ノ製作 細キ鍍線ヲ「デンチメーター」ニ付シ齒冠ノ周徑ヲ計リ之ニ應シテ三十番位ノ金鍍（二十加練）ヲ切り環狀ニ彎曲シテ兩切線ヲ合シ織着シ

テ頸箍トナス織着部ヲ遠心側（口蓋側）ニ向ケタル位ニ置ニ於テ兩隣接部ニ相當スル下線ヲ弧線狀ニ缺除シ口腔或ハ模型ニ試適シテ形ヲ整理シ高徑ヲ適當ナラシム

三 嚙面鍍ノ製作 頸箍ノ一端ニ「パラヒン」ヲ盛リ之ヲ口内ニ試適シテ上下顎ヲ閉合セシメ之ヲ口外ニ取り出シ「パラヒン」面上ニ印記セラレタル對合齒ノ痕跡ニヨリ之ヲ彫刻シテ解剖的形態トナシ「モルテン」中ニ壓入シテ之ヲ砂型トシ易銻合鍍ヲ流入シテ陰陽兩型ヲ作り兩型間ニ金鍍ヲ挿ミ打壓シテ嚙面鍍トス又「ホーリンクス」ウオース氏ノ嚙面型或ハ陰型盤ヲ用ユルモ可ナリ

四 鍍着ノ裝着 今嚙面鍍ヲ頸箍上ニ適合セシメ鍍

細線ヲ以テ結紮シ接合部ニ細砂液ヲ塗布シ少量ノ線片ヲ置キテ火焔上ニ醫シ兩者ヲ鑲着ス後過剩部ヲ切除或ハ總削シ去リ研磨嵌工ス之ガ合着ニハ緩ク煉化シタル「セメント」ヲ金冠内面ニ充シ齒牙ニモ塗布シ強ク壓入シ其下縁ヲ齒根下ニ至ラシム

第六十六問 無縫金冠調製法

無縫金冠(又無縫金冠)トハ一金板ヲ以テ金冠ノ全形ヲ造ルモノナリ即チ縫成金冠ガ鍍下嚙面鍍トチ鍍着シテ作ルニ反シ全ク鍍ヲ用ヒズシテ調製スルモノナ云フ是ニハ數法アレモ茲ニ其チ一二記ス他ハ推シテ知ル可シ

一 齒根ヲ適宜ニ形成シタル後其齒頸ニ鍍線ヲ繞クラシテ之ヲ結び置キ或ハ銅鍍ヲ繞クラシ齒冠ノ形ヲ

鑲其他ノ煉性材品ニテ形成シタル後石膏印像ヲ採得シ鍍又ハ銅ノ鍍ヲ共ニ移シ來リ之ヨリ石膏模型ヲ製ス此際鍍ヲ切り去ル時ハヨク齒頸ノ形ヲ現ハスガ故ニ尙深ク齒根ノ形ヲ彫刻シ隣接齒ヲ削リ去リ全齒形ヲ「モールデン」ニ印像シ易鎔合金ノ鑄型ヲ作り鑲金「チ」ヲ燒還シツ、鑄印ス若シ鑄型二個ヲ作り一ハ齒頸ノ方ヲ却テ廣カラシメ即チ富士山形ヲ呈スル陽型ヲ作りテ概形ヲ與ヘ次ニ一齒冠ノ全形アルモノニテ鑄印スル時ハ甚ダ佳也

二 近時(千九百〇一年)シャープ氏ノ創案セル調製具ハ從來ノ方法ヲ用フルニ比シテ頗ル鮮美ナル金冠ヲ得ルニ適ス此裝置ハ二具ヲ以テ成ル一ハ圓形桿ト之ニ適スル凹窩ヲ有スル「プレス」ニシテ以テ金板

チ圓錐狀ナラシム大小數種アルガ故ニ患齒ノ大小ニ照シテ採用スルヲ得カクシテ成レル金帽ハ之ニ齒冠外形ヲ與ヘザル可カラズ之レカ爲メニ七十二種ノ可撓性護謨齒型アリ齒頸ノ直徑并ニ齒冠ノ形狀適切ナルヲ取テ護謨輪中ニ置キ易鎔金ヲ注ギテ陰型ヲ作り兩者間ニ金帽ヲ置キ附屬セル鑄印器ニテ鑄印シ終ル此裝置ニ依テ作ラレタル金冠ハ外形ノ美ナルト、金板ノ薄クナラザルト(鑄印ニ依テ)、鑲裝ノ生セザルト、齒頸ニ於ケル狹窄完全ニ現ハル、トチ以テ勝レリトス

第六十七問 有床義齒ト架工義齒トノ利害如何

有床義齒ト架工義齒トハ各特長ヲ有シ其利害ヲ判別

スルヲ容易ナラズト雖モ架工義齒ハ最モ進歩シタル方式ニシテ義齒トシテ必要ナル條件ヲ具備スルヲ多キガ故ニ有床義齒ヨリモ利益アルモノトス今其利害ヲ對比セシ

架工義齒

一 利益

1 有床義齒ヨリモ破壊ヲ來スル少ナク永時ノ使用ニ堪ユ

2 有床義齒ノ如ク口腔粘膜ヲ被フヲナキガ故ニ不快ノ感ナク又舌ノ運動自在ナルヲ以テ發音及味覺ヲ

障害スルヲナシ

3 有床義齒ノ如ク齒槽ヲ壓迫スルヲナキガ故ニ齒槽ノ吸收ヲ促シ粘膜ノ疾病ヲ起ス等ノヲナシ

4 齒根ヲ保存シテ支持ニ用ユ又破壞セル齒牙ヲ保護ス

二 弊害

1 口腔ニ齒牙ヲ有セザル總義齒ニ於テハ支臺トスベキモノナキガ故ニ架工義齒ヲ施スチ得ズ

2 殘齒ヲ支臺トスル爲メ健全ナル齒牙ヲ削削シ或ハ冠部ヲ切斷スルヲアリ

3 其製作困難ナリ

4 固定架工義齒ハ清潔困難ニシテ食片等停滯シ易シ

有床義齒

一 弊害

1 架工義齒ニ比シテ破損シ易ク永久ノ使用ニ堪エズ

2 床ヲ以テ口腔粘膜ヲ被覆スルガ爲メ不快ノ感アリ

又舌ノ運動自由ナラズ言語及味覺ノ異狀ヲ來ス

3 床ニヨツテ粘膜ヲ壓スルガ爲メ齒槽ヲ吸收セシメ粘膜ノ炎症ヲ起スヲアリ

4 多クノ場合齒根ヲ拔去セサルベカラズ又「クラス」等ニヨツテ隣齒ヲ害スルヲアリ

二 利益

1 口腔内ニ一齒ダモ殘存セザル時總義齒ヲ施スチ得

2 殘存齒ヲ破壞スル心要ナシ

3 其製作簡易ナリ

4 患者自身之チ口外ニ取り出し清掃スルヲ得

第六十八問 「アルミニウム」ノ燒選法

「アルミニウム」ノ燒選法ハ攝氏七百度ナルガ故ニ

燒選ノ際不注意ニ加熱シテ赤色ヲ顯ハスニ至レバ鑄解シテ形ヲ損スルモノナルヲ以テ其灰色ニ至ルチ度トシ燒選ヲ止ムベシ最モ安全ナル方法ハ「アルミニウム」銀ノ上面ニ脂肪或ハ植物油ノ一滴ヲ點下シ其下面ヲ瓦斯火上ニ各部熱度ノ不均ナキ様平等ニ加熱シ油ノ燃焼シ盡クルチ度トシテ漸次放冷ス

第六十九問 披裂口蓋補綴法

口蓋披裂ヲ整復スルニハ外科的縫合法ト技術學的方法トアリ前者ハ結果良好ナレバ披裂ノ大ナルモノニハ應用シ難シ茲ニ於テカ後者ヲ用フルノ必要ヲ生ズ是ニ又ニアリ栓塞子并ニ人工口蓋之レナリ栓塞子トハ名ノ如ク單ニ開口部ヲ閉塞スルニ止リ後者ハ軟口蓋ヲ補綴シ之ト一致シテ運動ヲ營マシムルノ用ニ供

ス何レヲ取ルモ鼻腔トノ間ニ完全ノ境界ヲ作ルコト及發音ヲ自由ナラシメンコトヲ計ル可シ但シ此發音ノ整調ハ後天的披裂ノ患者ニ於テハ直ニ起レバ先天性的發音不全ヨリ來ル披裂ニ於テハ更ニ發音ノ訓練ヲ經ザル可カラズ

一 調製ノ第一着手ハ印像採得ニアリ材品トシテ「モテリング」コンボッシュン」及石膏ノ何レカチ用ユ後者ハ破片ヲ殘遺ス（殊ニ口腔内）ルチ多キガ故ニ叮嚀ニ長キ鑄子ニテ拾收スルチ要ス印像時嘔吐并ニ石膏泥ノ咽喉内墜落トハ特ニ豫防チ要スル處ナリ印像蓋トシテハ普通ノモノハ後縁ニ個答百兒加又ハ錫銀ヲ延長セシメテ用ユ次テ是ヨリ石膏模型ヲ製ス二 栓塞子ハ硬膜ヲ以テ製シ若シ硬口蓋ノミノ穿

孔ハ通常ノ床ト同一ニシテ異ナルコト無ク鈎ヲ以テ天然齒ニ維持セシム軟口蓋ニ至レルモノハ披裂孔ヲ全ク閉塞シ且軟口蓋ト同一ノ厚徑ヲ有スル中空栓子ヲ連合ス可シ斯ク中空トナスハ栓子ノ重量ヲ減セシムガ爲メニシテ蠟製假栓子ヲ常法ノ如ク「フラスク」中ニ埋没シ更ニ之ヲ離開シテ護膜ヲ充填スルニ當リ一葉ヲ取テ石膏面ニ壓抵シ中ニ水ヲ滿シ「フラスク」ヲ閉合シ蒸和スルコト常ノ如シ此栓塞子ト義齒床(維持セシムル爲メ必ズ之ヲ要ス)トノ連合ハ鈎釘ヲ以テシテ佳ナリ螺旋釘ニシテ用ニ際シ別離シ得ルモノハ一層佳ナリ蝶番關節ヲ用ヒテ栓塞子ノ軟口蓋ト共ニ移動センコトヲ計畫スルコトアレハ必奏効ス可カラズ薄キ白金板ヲ以テ連合シテ其彈力ヲ利用スル

カ或ハ栓塞子ヲ歐護膜ニテ作ルヲ勝レリトス此場合ニハ印像時ニ當リ軟口蓋緊張ノ状態ヲ寫サンコトヲ要ス

三 人工口蓋ハ上下二板ヨリ成リ披裂孔縁ヲ挾マシム共ニ三角形ヲ爲シ尖端ハ口腔ニ向ハシム此兩板ハ元ヨリ披裂孔ヲ通シテ相連合スルモノナリ是ニ依テ人工口蓋ハ軟口蓋ト共ニ自由ニ上下ス可シ而シテ此調製時ニハ其石膏模型ヲ極メテ平滑ニ作り「フラスク」内埋没石膏ノ軟護膜ニ接スル面ハ叮嚀ニ錫箔ヲ布クヲ要ス易鎔合金ヲ以テ模型ヲ製スル時ハ極メテ佳ナリ此ノ如キ必要アルハ蒸和後ト雖モ軟護膜ハ研磨スルニ困難ナルニ由ルナリ人工口蓋ト床トノ連合ハ鈎釘ヲ以テス

第七十問 「セルロイド」床製作法

先ツ印像ヲ採得シ模型ヲ作ル空室ヲ要スル時ハ模型面上ニ石膏ヲ以テ築造ス次ニ「パラフィン」ヲ以テ假床ヲ作り模型ニ壓着シテ隆起皺襞等ヲ寫ス假床ノ厚徑ハ完成時所要ノ「セルロイド」床厚徑ヨリ稍厚カラシムベシ上顎ニ於テハ「パラフィン」板一葉ヲ以テ足レリトス本床用内齒ヲ適合排列シ口内ニ試ミ齒齶部ヲ形成シテ隆起凹陷等ノ眞形ヲ模シ後全面ニ六十番位ノ錫箔ヲ貼付ス口蓋部ニ川ユルモノハ大サノ一致シタル一葉ヲ取り其周圍ニ狹キ「V」字形間隙ヲ作り皺襞ノ生ズルヲ防グベシ

次ニ淺キ下盒中ニ模型ヲ高ク支ヘテ埋没ス石膏泥ハ盒縁ヨリ假床下縁ニ至ラシム硬化後分離劑トシテ石鹼液ヲ塗布シ深キ上盒ヲ重テ石膏ヲ注入シ上蓋ヲ被フ

硬化後少時之ヲ加温シテ上下兩盒ヲ離開シ沸湯ヲ注下シテ蠟ヲ溶解シ「セルロイド」過剩分ノ逃路ヲ作ル其法ハ或ハ蒸和護膜床ノ如クシ或ハ上盒ニ於テ假床縁ヨリ盒側縁ニ向テ石膏ヲ刮除ス

次ニ義齒ノ大小ニ應ジタル「セルロイド」原床ヲ上下盒間ニ入レ加温ス其製作ニ數種アリ大別シテ濕熱法ト乾熱法ノ二トス

一 濕空氣熱法 濕空氣熱裝置ヲ用ユ點火部、加熱器、壓搾器ノ三部ヨリナル上下盒間ニ原板ヲ挿ミ水中ニ没シテ水分ヲ帶バシメ壓搾器ノ蓋板ト底板ノ間ニ入レ「ナット」ヲ追進シテ輕ク「フラスク」ヲ壓接シ

加熱器中ニ容レ下部ヨリ加熱ス「セルロイド」軟化シ
始メタル時ハ螺旋ニ依テ加壓シ次第ニ壓チ強クシテ
「フラスク」ノ全ク閉合スルニ至ル此間時ニ器中ヨリ
取り出シテ各部ノ状態ヲ検査スベシ

二 乾熱法 カンパル氏新式加熱装置ヲ用ユ本器ノ
概形ハ圓筒狀ノ二室ヲ有ス一室ハ他室ヲ包擁ス外室
ハ蒸氣室ニシテ内室ハ熱氣室ナリ兩室ハ前方ニ於テ
其壁ヲ連合シ硝子扉ヲ有スル一孔ヲ開ケリ是ヨリ内
景ヲ觀察ス又上部ニハ檢溫器、蒸氣弁及「フラスク」
閉合用大螺旋柱、同小柱ヲ有ス其法ハ先ツ「フラス
ク」ヲ内室ニ入レ加熱シテ石膏ヲ硬固ナラシメ乾燥
後室外ニ去リ原床ヲ挿入シテ再ビ内室ニ入レ大螺旋
ヲ追進シ「フラスク」ノ蓋板ニ壓抵ス約五分時ニシテ

「セルロイド」軟化スルガ故ニ螺旋ヲ進メ「フラスク」
ヲ閉合スルニ至ル約三百度ノ熱ヲ加フル時ハ大概十
分時ニシテ完成スルヲ得

然ル後「セルロイド」床ヲ石膏中ヨリ掘出シ錫箔ヲ剝
離スル時ハ其表面美麗ナル色澤ヲ呈ス又過剩部ハ纖
細ナル鋸或ハ砂紙ヲ以テ削除シ研磨完成ス

、第七十一問 「アルミニウム」床ノ口内
ニ於テ破損シ且惡臭ヲ放ツ
理由

「アルミニウム」床ハ多數ノ長所アルニモ拘ラズ一
大缺點ヲ有ス其ハ口内ニ於テ化學的作用ニ侵サレ、
「是ナリ殊ニ不純ニシテ他金屬ヲ夾雜スルモノハ一
層甚シク屢一點ニ害作用ヲ集中シ穿孔ヲ生ズル「ア

リ此化學的作用ハ格魯兒、鹽酸、苛性「アルカリ」ニ
由テ起ルモノナリ食物中ノ食鹽ハ口内ニ於テ格魯兒
ヲ生ジ口腔液ノ亞爾加里性ハ常ニ作用シテ床面ヲ侵
害ス

如斯口腔内ニ起ル化學的作用ニ抵抗シ能ハズシテ床
面粗糙トナル時ハ其粗糙面ニ汚物ヲ停留シ腐敗醱酵
シテ惡臭ヲ放ツ

、第七十二問

總義齒ニ於ケル陶齒ノ撰擇

- 總義齒ニ於テ陶齒撰擇上ノ標準タルモノ左ノ如シ
- 一 患者ノ性 女子ハ男子ニ比シテ小形ニシテ優美
ナル陶齒ヲ撰ブベシ
 - 二 年齡 年齡ニ比例シテ齒槽ノ吸收、切縁ノ磨耗、
齒牙ノ挺出、齒色ノ黃變等ニ差異アレバ之ニ從テ陶

齒ヲ撰ブベシ

- 三 顔貌 色ノ白キハ淡色ノ陶齒、色ノ黒キハ濃色
ノ陶齒、細面ハ狹キ陶齒、丸顔ハ廣キ陶齒ヲ撰ブベシ
- 四 稟賦 (一) 膿液質ハ黃褐色ニシテ角度ヲ有スル
縱徑ノ稍ヤ長キ陶齒 (二) 血液質ハ透映黃色ニシテ
形狀圓滿、長徑幅徑相當セル陶齒 (三) 神經質ハ透
明帶青白色乃至帶灰白色ニシテ菲薄ナル縱徑長キ陶
齒 (四) 淋巴質ハ帶暗青白色ニシテ光輝ナク幅徑廣
クシテ大ナル陶齒ヲ撰ブベシ
- 五 以前ニ使用セシ義齒 之ヲ參考トシテ比較的稍
ヤ老人型ノモノヲ撰ブベシ
- 六 齒穹ノ形狀 齒穹大ナレバ從テ大形ノ陶齒ヲ、
齒穹小ナレバ從テ小形ノ陶齒ヲ撰ブベシ又齒穹ノ方

形、圓形、三角形ナルニ從テ角度ノ銳鈍、長徑幅徑ノ比例ヲ異ニスルガ故ニ之亦參考スベシ

七 齒槽ノ高低 齒槽堤高キ時ハ短形ナルカ或ハ基底甚シキ斜面ヲ呈シ幾分齒槽唇面ヲ覆蓋スルモノヲ撰ビ齒槽低キモノニハ陶齒長ク加モ基底平面ニシテ顎堤直上ニ植立セシメ得ベキモノヲ撰ブベシ

八 咬合狀態 咬合低キモノニハ短形ヲ、咬合高キモノニハ長形ヲ撰ブベシ下顎突出セルモノニハ陶齒基底ノ斜面甚タシキモノヲ用ヒ後退セルモノニハ基底平面ニ近キモノヲ用ユ

九 齒槽ノ吸收 甚シク齒槽ノ吸收セルモノニハ有銀陶齒或ハ少許ノ根部ヲ附隨セルモノヲ撰ブベシ吸收少キモノハ普通ノ陶齒ニテ可ナリ但シ義齒ハ天然

齒ヨリ稍ヤ小ナランコトニ注意スベシ婦人ニ於テ殊ニ然リトス

第七十三問 狼咽ノ補綴術ヲ詳記シ且外科的手術トノ優劣ヲ舉ゲヨ

狼咽ヲ整復スルニハ外科的縫合法ト技術的補綴法トノ二種アリ各々特長ヲ有ス前者ハ手術ニシテ成功セシカ殆ンド完全ナル成績ヲ得テ常人ト同一ノ狀態トナルモ披裂ノ程度甚シキモノハ其兩縁ヲ癒合セシムルコト得ズ故ニ外科的手術ハ披裂間ノ間隙熱キモノニ於テ稱用スベキ方法ナリ又幼年者ニ於テハ技術的補綴裝置ヲ口腔ニ留置スルコト困難ナルガ故ニ是非トモ外科的手術ヲ撰バザルベカラズ(第六十九問參照)

第七十四問 齒科專用ノ易鑲合金申主ナ

ルモノ二種ノ成分ヲ舉ゲ併セテ二者ノ優劣ヲ示セ

メロツト氏 錫 二 鉛 三 銻 鉛 八
ウツド氏 「カドミンム」 一 鉛 六 銻 鉛 七

兩者ハ何レモ齒科專用ノ合金ナリメロツト氏合金ハ攝氏九十二度ニ於テ熔解シ繼續齒及架工義齒製作ニ於テ「モルデン」ト併用シ鑄型ヲ作ル熔解點低キガ故ニ操作簡易ニシテ陰陽型共ニ一合金ヲ以テ製スルヲ得又即記鮮明ニシテ金屬ノ壓印ニ充分ノ硬度ヲ有スウツド氏合金ハ攝氏八十二度ニ於テ熔解シ鑄造義齒床用材トシテ用ラレ又護謨床ノ補修金屬床義齒ノ合着ニモ應用セラル前者ヨリモ粘硬性少キカ故ニ多大ノ壓力ニ耐ニルヲ得ザルモ熔解點低クシテ化學的作

用ニ浸サル、コト少シ兩者ヲ比較スルニウツド氏合金ハ鑄型ニモ用ユルヲ得レト寧ロ義齒床トシテ特長ヲ發揮シメロツト氏合金ハ鑄型ニ適シ此點ニ於テハ他合金ノ及フベカラザル優品ナリ

第七十五問 固定架工術ト可撤架工術トノ利害ヲ舉ゲヨ

固定架工術

- 一 弊害
- 1 患者ノ隨意ニ取除クコト得ズ
- 2 充分ナル清掃ヲ施スコト得ズ
- 3 撤去スル際ニハ少クトモ支臺ヲ破壞セサル可カラズ
- 4 一顎少クトモ四齒以上ノ殘存スルニ非レバ本義齒

ヲ施スヲ得ズ

5 支齶ニ過度ノ壓力ノ加ハル爲メ屢々之ヲ發病セシムルアリ

二 利益

1 緊確ニ固定セラレテ些ノ動搖ナシ

2 口外ニ取り出スノ煩ナシ

3 決シテ床ヲ用ザルガ故ニ舌ノ觸覺ヲ害スルコトナシ
可撤架工術

一 利益

1 必要ニ應ジテ取除クコトヲ得

2 隨時完全ナル清掃ヲ施スコトヲ得

3 修繕等ノ場合ニ於テ天然齒及架工義齒ヲ損セズシテ撤去スルコトヲ得

ニ普通五—一〇%ノ銅ヲ加ヘタルモノヲ用ユ一〇%ノ銅ヲ加ヘタルモノハ其亡失五%ニ止ル今兩法ヲ比較スレバ

鐵着法

一 優レル點

1 鐵着ノ際床ヲ損セズ確實ニ附着スルヲ得

2 堅固ニシテ容易ニ破壊セズ

3 稍ヤ汚物ヲ停滯スルノミナリ

4 少量ノ鐵ヲ以テ完全ニ附着スルヲ得殆ンド如何ナル咬合ニモ用ユルヲ得

二 劣レル點

1 製作複雜困難ナリ

2 口腔ノ化學的作用ニ浸サレ其結果陶齒ノ色澤ヲ變

4 一顎二齒以上ノ殘存齒アレバ義齒ヲ施スヲ得
5 狹床ヲ有スルモノハ維持ヲ天然齒ノミニ依頼セズ故ニ殘存齒ヲ害スルコト少シ

二 弊害

1 固定セラル、緊確ナラズ

2 時々口外ニ出シテ清淨セザル可ラズ

3 狹床ヲ有スルモノハ稍ヤ舌ノ觸覺ニ不快ヲ感ズ

第六十六問 陶齒ヲ銀床ニ附着スルニ方

リ鐵着法ト硫化護膜附着法

トノ優劣ヲ記シ併セテ其理

由ヲ示セ

純銀ハ柔軟ニ過ギテ義齒床ニ適セズ殊ニ硫化護膜ト共ニ蒸和スレバ其四二%ヲ亡失シ破壊スルニ至ル故

ズ

3 高熱ヲ與フルニヨリ陶齒ヲ脆弱ナラシム

4 義齒ニ重量ヲ與フルガ故ニ上顎ニ於テハ稍ヤ維持力ヲ減ズ

硫化護膜附着法

一 劣レル點

1 附着ノ際床ヲ損シ附着確實ナラズ

2 破壊シ易シ

3 床ト蒸和護膜トノ間ニ汚物停滯ス

4 護膜ノ多量ヲ附着スルガ故ニ不快ノ感アリ且ツ咬

合關係ニヨリテハ使用スルヲ得ズ

二 優レル點

1 製作簡易ナリ

- 2 口腔ノ化學的作用ニ侵サレズ
- 3 低度ノ熱ニヨリ製作スルヲ得テ此弊ナシ
- 4 比較的輕量ナリ

其優劣ハ上記ノ如ク一目瞭然ニシテ鐵着ノ優レルヲ萬々ナリ然レモ銀床ニ白金或ハコニツケルヲ加ヘタル時ハ大ニ硫化護膜附着法ノ缺點ヲ濟フヲ得ベシ

第七十七問 可撤架工術ハ如何ナル場合ニ施スベキヤ及其調製法ヲ

詳記セヨ

可撤架工術ハ顎ニ於テ適當ナル位置ニ二個以上ノ齒根殘存スレハ行フヲ得ベシ然レモ二三齒ノ缺損ヲ補綴シタルモノハ屢々撤去スルヲ繁雜ナルガ故ニ固定齒ヲ可ナリトスサレバ適應症ハ多數齒牙ノ缺損ヲ

補綴スルニアリ

可撤架工術齒ノ調製法ニハ種々ノ式アリ一々述ブルヲ得スト雖モ今一例ヲ以テ之ヲ説明セン上顎ニ於テ左右兩犬齒根及右側ノ第二大臼齒殘存シ其他ノ齒牙ヲ總テ亡失セルモノニ於テハ

一支齶 左右ノ犬齒ハ口蓋側ヲ稍ヤ殘存シテ唇側ヲ齒根線下ニ至ル迄削去シ根ノ周圍ヲ平滑トナシ根管ハ「ゲージ」十三番位ニ擴大スベシ次ニ其齒根ニ三十番位ノ金銀ヲ以テ金帽ヲ作り又白金銀(三十二番)ヲ以テ根管ニ當合スル細キ圓筒ヲ作り其一方ハ同一ノ銀ヲ鐵着シテ閉塞ス金帽ヲ齒根ニ裝置シテ其中央ニ孔ヲ穿テ根管ノ入口ト一致セシメ孔ヲ通シテ根管內ニ圓筒ヲ挿入シ兩者ノ位置ヲ變セサル様靜ニ口外ニ

出シ接合部ニ於テ鐵着ス後金帽面上ニ挺出セル圓筒ハ切除ス之ヲ齒根上ニ假ニ裝置シ其上ヲ被フベキ一ノ金帽ヲ作り其唇側ヲ切除シ隣接側及口蓋側ヲ殘スベシ同時ニ圓筒ニ適合スル白金加金ノ合釘ヲ作り後ノ金帽ノ中央ニ鐵着シ合釘ノ尖端ヲ中央ニ於テ縱裂シテ稍ヤ壓開ス是レ犬齒ニ於ケル支齶ナリ右側第二大臼齒ハ之ヲ圓筒狀ニ削リ高徑ヲ低ノ二重ノ金冠ヲ作り内金冠ハ致テ阻嚙面ヲ形成スルニ及バズ平坦ニシテ可ナリ兩金冠ハ密ニ適合スルモノタルヲ要ス左側ニ於テハ齒牙ナキガ故ニ第一及第二大臼齒ノ部位ヲ印象シ其齒根上ニ橢圓形ノ小金銀(二十八齒)ヲ鐵印シ之ヲ支齶トス

二 架工齒 前齒ニ對シテハ金床陶齒ヲ用ヒ臼齒ニ

對シテハ外裝陶齒ヲ用ユ前齒ハ模型ニ付キ適當ニ削リ合セタル後白金銀ヲ以テ裏裝シ臼齒ハ先ツ純金銀ヲ以テ阻嚙面ヲ鑄印シ其内部ニ高熔ノ金鐵ヲ熔流シ外裝陶齒ノ上縁ト適當ナル位置ニ磨リ合セ蠟ヲ以テ假着シ陶齒ニ裏裝銀ヲ施シタル後兩者ヲ鐵着ス

三 合着 支齶ヲ口腔ノ定位ニ條入シ置キ全顎ヲ印象シテ模型ヲ作ル此際内金冠及内金帽ハ口腔ニ殘存シ外金冠、外金帽及狹床銀ノミ模型面ニ存在スル様ニスベシ此模型上ニ架工齒ヲ配列シ硬蠟ヲ以テ假着シ一度口腔ニ試適合ヲ行ヒ排列及咬合關係完全ナレバ石膏ト石絨トノ等分ノ混合材中ニ埋没シ全體ヲ鐵着スレバ外金冠、外金帽、狹床銀、架工齒ハ一體トナシ冷却後埋没ヨリ出シ過剰ノ蠟ヲ總磨シ全體ヲ研磨

完成ス之ヲ口腔ニ裝置スルニハ内金冠及内金帽ヲ「セメント」ニテ齒根ニ合着シ其上ヨリ架工義齒ヲ嵌入ス患者ハ隨意ニ義齒ヲ除去スルヲ得ベシ

利害

成分ハ(第五十六問参照)

其利益トスルハ

- 一 其色相ノ粘膜及齒齦ニ一致シ護膜床ヨリ一層自然的ナルコト
- 二 彈力ニ富ム
- 三 強靱ニシテ表面滑澤美麗ナル
- 四 調製ノ容易ナル
- 五 輕度ナルが故ニ上顎總義齒ノ如キ最も適ス

六 惡臭ヲ與ヘザル

其害トスル處ヲ擧グレバ種々アレド此レ致テ缺點トシテ擧グベキモノニ非ス唯不注意ナル取扱ヨリ生スルモノナルが故ニ矯正セラレ得ルモノナリ

- 一 變形シ易キ
 - 二 燃燒シ易キ
 - 三 調製ノ法正シカラザルハ口腔液ヲ吸收ス
 - 四 變色シ易シ
 - 五 浸蝕セラレ易シ
 - 六 異物ヲ沈着シ易シ
- 以上ノ缺點中變色及侵蝕ニアリテハ原床トシテ純粹ノ物ヲ使用スルハ之ヲ矯正シ得ベシ
- 第七十九問 齒齦ニ於テ著シク硬軟ノ差

チ有スル口蓋ヲ如何ナル方法ヲ以テ印象ヲ採得スルヤ

元來齒齦部ニ於テ硬ク口蓋部ニ於テ軟カキハ之生理的齒齦ナリ依テ如何ナル方法ニヨルモ印象ヲ採得スルヲ得ベシ之レニ反シテ硬軟ノ差著シキ口蓋ニアリテハ前者ニ對シテ病的ノ齒齦ト云ハザル可カラズ從テ其印象モ困難ナリ故ニ印象ヲ採得スル前ニ當リ齒齦部ニ適當ナル治術ヲ施シテ後採得スベシ然レハ齒槽突起ノ吸收ニ起因スルカ又ハ老者、重症者等全身ノ營養衰退セシモノニ發起スルハ多クハ徒勞ニ屬スルアリ

此際印象材必要ノ性質ヲ殆ンド有スル石膏ヲ以テ印象採得スルヲ適當トス石膏ハ壓迫弱キが故ニ齒齦

ノ變形又ハ變位ヲ起ス患ナシ尙ホ充分軟化シタル蜜蠟ヲ用ユルモ可ナリ(使用法及採得法ハ第十問及第十一問参照)

第八十問

モチリングコンボシヨント

以テ採型スル方法及二三ノ注意ヲ記セ

印象ヲ採取スルニハ供用スル處ノ材品ノ性質ニ依テ自ラ其方法ヲ異ニセリ

一 前準備 (一) 蓋ノ撰定 印象スベキ口腔ニ適合スル處ノ蓋ヲ用ユルハ甚ク必要ニシテ印象前必ズ口腔ニ適否ヲ檢スベシ然ラザレバ總テノ部分ヲ精密ニ印象スル能ハズ殊ニ下顎ニ於テ蓋ノ線端ヲ以テ粘膜ヲ傷ケ又強壓シ患者ニ苦痛ヲ感セシムルコト少ナカ

フズ(二)口腔ノ清淨 印象採得前ハ必ず冷水ヲ以テ
 口腔ヲ洗滌スベシ(三)知覺過敏 咽頭部ノ知覺過敏
 ニシテ微小ナル刺激ニ咳嗽、嘔氣ヲ發スルガ如キ患
 者ニアリテハ完全ナル印象ヲ採取スル能ハザルガ故
 ニ該部ニ一少鹽酸古加乙温ノ如キヲ噴霧シテ一時鈍
 麻ヒシメザル可カラズ又材品ノ臭氣ニヨリ嘔心嘔吐
 ナ催起セシムルコトアルガ故ニ注意スルヲ要ス

二 上顎印象法 (一)蓋ノ準備 撰定セル蓋ニ向テ
 材品ヲ滿タサンニハ兩者ノ粘着ヲ助ケンガ爲メ蓋ヲ
 加熱スルヲ要ス材品ノ量ハ形態廣狹ニヨリテ一ナ
 ラズト雖モ通常線端ト平坦ナラシム(二)患者並ニ術
 者ノ位置 患者ハ治療室ノ低位ニ在ラシメ術者ハ其
 後側ニ立ツ(三)蓋ノ送入 蓋ニ盛りタル材品ノ表面

ヲ加熱シ右手ニ持シ蓋ノ右側縁ヲ以テ唇ヲ壓排シツ
 、口内ニ送り左指ニテ唇ヲ牽引シ蓋ヲ全ク口内ニ至
 ラシメ柄ト正中線ヲ一致セシム(四)材品ノ壓接 蓋
 已ニ口内正位置ニ至ラバ左右各二指ヲ底部兩拇指ヲ
 柄上ニ置キ顎ニ向テ壓迫シ後反射側ノ手指ヲ以テ材
 品ヲ齒齦ニ壓接ス(五)印象ノ分離 材品十分粘膜面
 ニ接着シ完全ニ之ヲ印象シタリト認メバ硬化シタル
 後口外ニ取出ス可シ若シ硬化ヲ速カナラシムルニハ
 冷水ニ濕セル線球又ハ氷水ニ浸セル布片ヲ貼接スベ
 シ印象ヲ口外ニ抽出センニハ右手ヲ以テ蓋ヲ持スル
 1. 送入時ノ如クシ左指ヲ以テ唇頰ヲ排シツ、徐々ニ
 取出スベシ分離セル後ハ其精細確實ナルヲ檢シ冷
 水ニ投シ全ク硬化セシム可シ

三 下顎印象法 術者ハ患者ノ前方又ハ後方ニ立ツ
 前方位置ニアリテハ左右各二指ヲ蓋上ニ兩拇指ヲ下
 顎下縁ニ抵當シテ粘膜面ニ壓接シ後舌ヲ舉上セシメ
 舌面全部ニ材品ヲ壓着シ硬化セシム其他ハ上顎印象
 法ト同シ

之ヲ防グ方法ニハ二種ノ方法ヲ以テス即護膜填入法
 及蒸和法トス

一 填入法 シモントレ氏ノ方法ヲヨシトス既ニ硬
 化セル護膜ヲ新護膜ト混シテ填入スルナリ硬化護膜
 トハ護膜研磨時ノ屑及廢物トセル護膜床ヲ鑿削シ之
 ヲ軟化セラタル新護膜中ニ填入スルナリ斯クシテ蒸
 和セシ床ニアリテハ決シテ海綿狀ノ變化ヲ呈スル
 ナシ併シ一度蒸和シタル護膜ヲ濕ズルニヨリ床ハ一
 層暗色ヲ呈ス又古護膜トノ境界明瞭ナル弊アリ

注意トシテハ(一)軟化ヲ平等ナラシムル(二)軟化
 スルニ高温度ヲ加フルルハ壓接セル粘膜ヲ損傷セ
 シム(三)蓋内ニハ多量ノ材品ヲ盛り可カラズ若シ多
 量ナルハハ壓接時ニ於テ呼吸困難又ハ嘔氣嘔吐ヲ催
 ス(四)齒齦著シク軟弱ナルハ用フル可カラズ

X 第八十一問 蒸和シタル硬護膜ノ海綿狀
 ナ呈スル理及之ヲ防グ方法

蒸和法 加熱ヲ可成的緩徐ナラシムルニアリ殊
 ニ厚度ノ著シキ床ヲ蒸和スルニ必要ナリ此方法ハ二
 百五十度ヨリ二百二十度ニ至ルノ時間ヲ二時間乃至
 三四時間トシテ熱上昇セシムルコトナリ其他厚層ノ護

理由(第五十二問参照)

膜ニアリテハ深層ノ部ニ酸化亞鉛、白色粘土ヲ混ス
ベシ

第八十二問 ウード氏合金ノ成分及其

應用ヲ記セ

成分 若鉛八分鉛四分錫二分「カドミウム」二分ヨリ
成ル

應用 金屬義齒床金冠金柄其他ヲ壓印スルニ鑄型ト
シ又下顎義齒ノ加重床ヲ作ルニ用フ (第十六問第五
十四問參照)

第八十三問 義齒ノ裝置ハ口内ニ於テ

如何ナル準備ヲ要スルヤ

一 齒齦及口腔粘膜ニ疾病アル時ハ充分ノ治療ヲ施
シ健全ノ狀態ダラシムベシ假令輕度ノ炎症ノ存在ト

雖義齒 裝置ニ依リ之ヲ増劇スルコトアリ

二 齒牙ニ沈着セル齒石ヲ除去シ全ク清潔トスベシ
齒石ハ印象ヲ歪曲シ義齒裝置後剝離スレバ其維持不
完全トナリ且ツ陶齒ノ損壞ヲ誤ラシムモノナリ

三 殘存セル齒根ハ拔去スヘシ發病セルモノニ於テ
殊ニ然リトス然ラズンバ裝置後疼痛ヲ感シ或ハ根ノ
脫落ニヨリ義齒ヲ廢用タラシムルコトアリ但シ架工
義齒等ニ於テ之ヲ維持ニ利用スル時ハ勉メテ殘存ス
ルヲ可トス

五 齒牙ニ疾病アル時ハ之ヲ治療セシメ齦齒ハ之ヲ
充填スベシ然ラザレバ其病ヲ増劇シ或ハ印象ヲ錯亂
スベシ

六 動搖シテ固定ノ見込ナキ齒牙治療ヲ施スモ治療

ノ見込ナキ齒牙ハ拔去スベシ又義齒製作ノ障礙タル
齒牙モ拔去スルヲ可トス

七 印象ニ先チ防腐性洗口水ヲ以テ含嗽セシメ知覺
過敏ナル神經質ノ患者ニ於テハ口蓋ニ古加ノ涅稀薄
溶液ヲ塗布スベシ

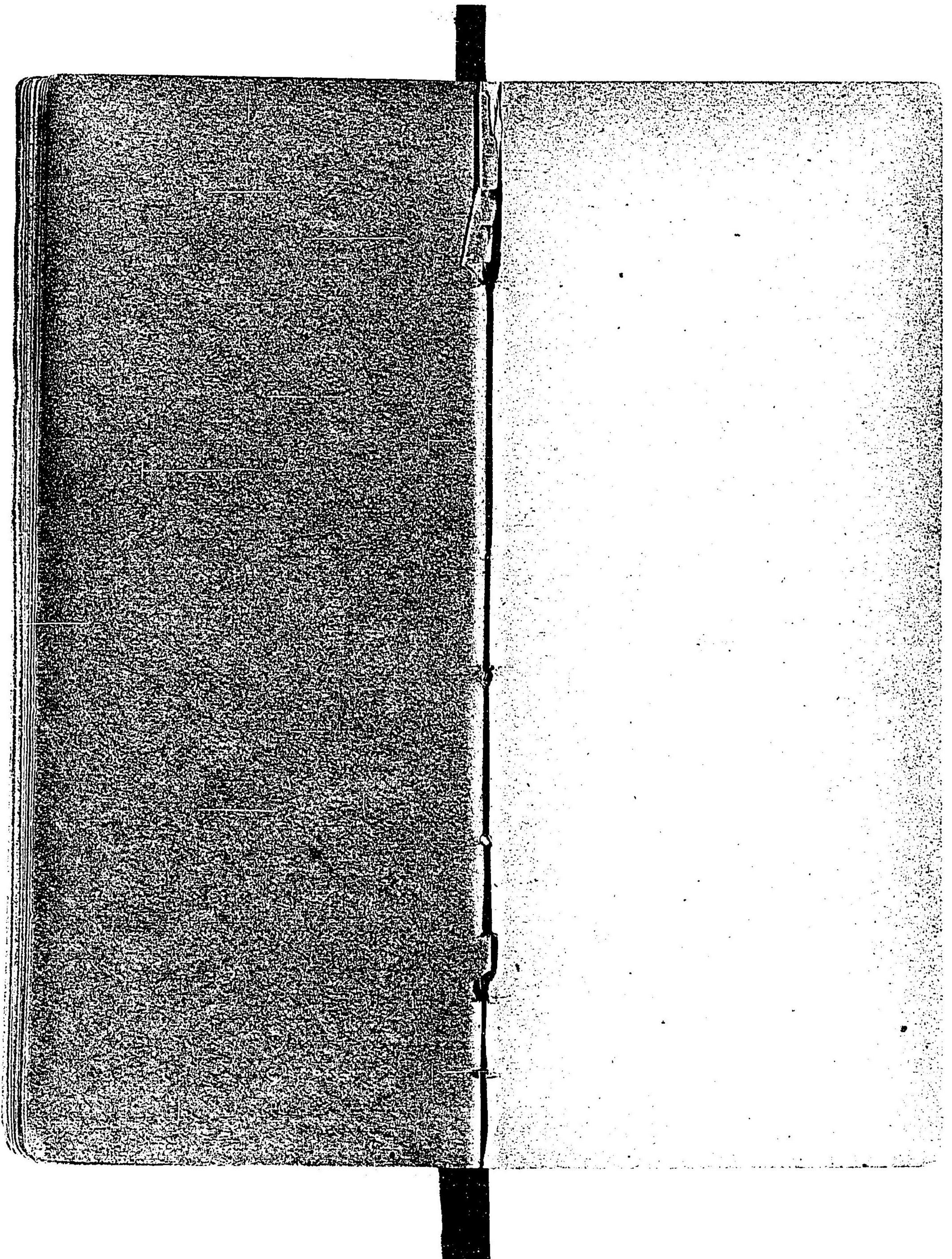
第八十四問 體質ト陶齒ノ形狀色トハ

如何ナル關係アリヤ

(第七十二問參照)

第八十五問 金屬性帶鈎ノ形狀ヲ類別

セヨ (第四十二問參照)



附 録

第一 齒科用度量衡

佛 國 尺 度

メートル	迷	三寸二分九厘九毛
デシメートル	極迷	三寸二分九厘三毛九
センチメートル	仙迷	三分二厘九毛元
ミリメートル	密迷	三分二厘九毛元
ミクロン	千分ノ一メートル	三厘三毛九元

英 國 尺 度

ライオン	六厘九毛餘
------	-------

佛 國 衡 量

ライオン	吋	十二	ライオン	八分三厘六毛餘
ライオン	呎	十二	ライオン	二尺〇三六餘

英 國 藥 衡 量

グラム	瓦	一、〇	三分六厘六毛餘
デシグラム	極瓦	〇、一	三厘六毛六絲
センチグラム	仙瓦	〇、〇一	三毛六絲六忽
ミリグラム	密瓦	〇、〇〇一	三絲六忽六微

グレイン	氏	一厘七毛餘		
スクルブル	刃	二十	三分四厘七毛餘	
ダラグラム	弓	三	スクルブル	二匁〇四厘三毛

第二 藥物極量表

大人ニ對スル一回及一日ノ極量

オ ン ス マ ラ ク ム ハ タ 三 分 三 厘 八 毛 餘	ホ ン ド セ 十 コ カ ン ス 百 分 五 厘 九 毛	英國金銀衡量	グ レ ー ン 氏 一 厘 七 毛 餘	ペ ニ ウ キ ー ト 二 十 四 氏 四 分 二 厘 六 毛 餘
--	---	--------	--	---

アセトアニリド	〇、五——一、五
亞砒酸	〇、〇〇五——〇、〇一五
石炭酸	〇、一——〇、三
稀硝酸	〇、一——〇、三
アグリナン	〇、一——
鹽酸アポモルヒネ	〇、〇二——〇、〇六
苦扁桃水	二、〇——六、〇
杏仁水	二、〇——六、〇
バクチ水	二、〇——六、〇

附 錄

液 量(佛英)

グ ラ ム	一、〇——立方センチメートル
リ ッ ト ル	一〇〇〇、〇——五合五勺〇六餘
オ ン ス	三〇、〇——二勺六餘
ホ ン ド セ	三六〇、〇——六合九勺八二餘
滴	〇、〇二——〇、〇三

附 錄

硝酸銀	〇、〇三——〇、一
溶性硝酸銀	〇、〇三——〇、一
ヨード砒素	〇、〇〇五——〇、〇一五
硫酸アトロピン	〇、〇〇一——〇、〇〇三
安息香酸ナトリウムカフェイン	一、〇——六、〇
サルチール酸ナトリウムカフェイン	一、〇——六、〇
カフェイン	〇、五——一、五
プローム樟腦	〇、三——一、〇
カレタリス	〇、〇五——〇、一五
蓆酸セリウム	〇、三——一、〇
抱水フロラール	二、〇——六、〇

鹽酸コカイン	〇、〇五——〇、一五
燐酸コテイレ	〇、一——〇、三
硫酸銅(催吐藥トシテ頓服スルノ量)	一、〇
サメチールアミドアンチピリン	〇、五——一、五
アコニツト越幾斯	〇、〇一五——〇、三
コロシト越幾斯	〇、〇五——〇、一五
ヒヨス越幾斯	〇、一——〇、三
阿片越幾斯	〇、一五——〇、五
カラバル豆越幾斯	〇、〇二——〇、〇六
南陸越幾斯	〇、五——一、五
莨菪越幾斯	〇、〇五——〇、一五
麥角越幾斯	〇、二——〇、六
番木鱉越幾斯	〇、〇五——〇、一

附 録

チキタリス葉	〇、二	—	一、〇	〇、二	—	一、〇
ヒヨス葉	〇、三	—	一、〇	〇、三	—	一、〇
グアヤコール	〇、三	—	一、〇	〇、三	—	一、〇
藤黄	〇、三	—	一、〇	〇、三	—	一、〇
ロハリア草	〇、一	—	〇、三	〇、一	—	〇、三
ブローム水素ホマトロペン	〇、〇	—	〇、〇	〇、〇	—	〇、〇
昇汞	〇、〇	—	〇、〇	〇、〇	—	〇、〇
赤色沃度汞	〇、〇	—	〇、〇	〇、〇	—	〇、〇
黄色沃度汞	〇、〇	—	〇、〇	〇、〇	—	〇、〇
黄色酸化汞	〇、〇	—	〇、〇	〇、〇	—	〇、〇
赤色酸化汞	〇、〇	—	〇、〇	〇、〇	—	〇、〇
サリチール酸汞	〇、〇	—	〇、〇	〇、〇	—	〇、〇
ヨードフォルム	〇、二	—	〇、六	〇、二	—	〇、六
ヨード	〇、〇	—	〇、〇	〇、〇	—	〇、〇
クレオソイド	〇、五	—	一、五	〇、五	—	一、五
ヨード砒素汞液	〇、五	—	一、五	〇、五	—	一、五
亞砒酸カリウム液	〇、五	—	一、五	〇、五	—	一、五
メチールスルフォナール	二、〇	—	四、〇	二、〇	—	四、〇
鹽酸アセチールモルヒネ	〇、〇	—	〇、〇	〇、〇	—	〇、〇
鹽酸モルヒネ	〇、〇	—	〇、〇	〇、〇	—	〇、〇
硫酸モルヒネ	〇、〇	—	〇、〇	〇、〇	—	〇、〇
巴豆油	〇、〇	—	〇、〇	〇、〇	—	〇、〇
阿片	〇、一	—	〇、一	〇、一	—	〇、一
パラアルデヒド	五、〇	—	一、〇	五、〇	—	一、〇
フェナセチン	一、〇	—	三、〇	一、〇	—	三、〇
磷	〇、〇	—	〇、〇	〇、〇	—	〇、〇

附 録

サルチール酸フィズスチグミン	〇、〇	—	〇、〇	〇、〇	—	〇、〇
硫酸フィズスチグミン	〇、〇	—	〇、〇	〇、〇	—	〇、〇
鹽酸ピロカルピン	〇、〇	—	〇、〇	〇、〇	—	〇、〇
コロシントヒヨス丸	〇、五	—	一、五	〇、五	—	一、五
醋酸鹽	〇、一	—	〇、三	〇、一	—	〇、三
莨菪根	〇、一	—	〇、三	〇、一	—	〇、三
ヤラバ脂	一、〇	—	三、〇	一、〇	—	三、〇
ホドファイルム脂	〇、一	—	〇、三	〇、一	—	〇、三
サントニン	〇、一	—	〇、三	〇、一	—	〇、三
麥角	一、〇	—	五、〇	一、〇	—	五、〇
番木鱧	〇、一	—	〇、二	〇、一	—	〇、二
吐酒石	〇、二	—	〇、六	〇、二	—	〇、六
金硫黄	〇、二	—	〇、六	〇、二	—	〇、六
硝酸ストリキニーネ	〇、〇	—	〇、〇	〇、〇	—	〇、〇
ズルフオナール	二、〇	—	四、〇	二、〇	—	四、〇
カレタリス丁幾	〇、五	—	一、五	〇、五	—	一、五
コルヒクム丁幾	二、〇	—	六、〇	二、〇	—	六、〇
コロシント丁幾	一、〇	—	三、〇	一、〇	—	三、〇
チキタリス丁幾	一、五	—	五、〇	一、五	—	五、〇
ゲルセミウム丁幾	〇、五	—	一、五	〇、五	—	一、五
ヨード丁幾	〇、二	—	〇、六	〇、二	—	〇、六
ロベリア丁幾	一、〇	—	三、〇	一、〇	—	三、〇
阿片丁幾	一、五	—	五、〇	一、五	—	五、〇
莨菪丁幾	一、〇	—	三、〇	一、〇	—	三、〇
ストロファンツス丁幾	〇、五	—	一、五	〇、五	—	一、五
番木鱧丁幾	一、〇	—	二、〇	一、〇	—	二、〇

ウエラトリン
コルヒクム酒

〇〇〇五—〇〇〇一五
二〇〇—一六〇〇

芳香阿片酒 一五—一五〇
硫酸亞鉛(嘔吐藥トシテ頓服スルノ量) 一〇〇

第三 加煉計算法

合金ニ於テ純金ト他金屬トノ比例ハ加煉ヲ以テ算ス
加煉ノ計算ニハ次下九種ノ場合アリ

今説明ニ際シテ假ニ標準加煉即二十四加煉ヲaニ
テ合金ノ加煉ヲbニテ合金全量ヲ1ニテ純金量ヲ
mニテ他金屬量ヲnニテ代表ス
一 合金量及加煉ヲ知リテ純金量ヲ求ムル法

$$a:b::l:m$$

例 十八加煉金十匁アリ純金量ヲ問フ

$$24:18::10:m=7.5$$

二 合金量ト加煉トヲ知リテ他金屬量ヲ求ムル法

$$a:(a-b)::l:n$$

例 十八加煉金十匁アリ他金屬量如何

$$24:(24-18)::10:n=2.5$$

三 純金ヲ任意ノ加煉トナス法

$$b:(a-b)::m:n$$

例 純金七匁五分アリ十八加煉トナスニハ他金屬

幾何ヲ加フヘキヤ

$$7.5:(24-18)::7.5:n=2.5$$

四 他金屬ヲ任意ノ加煉トナス法

$$(a-b)b:n:m$$

附 錄

例 銀二匁五分アリ幾何ノ純金ト混セバ十八加煉
トナルヤ

$$(24-18):18::2.5:m=7.5$$

五 純金及他金屬量ヲ知リテ加煉ヲ求ムル法

$$(m+n):m::a:b$$

例 純金七匁五分銅二匁五分ヲ混セバ幾加煉金ト
ナルヤ

$$(7.5+2.5):7.5::24:b=18$$

六 合金量及他金屬量ヲ知リテ加煉ヲ求ムル法

$$l:(l-m)::a:b$$

例 合金十匁中二匁五分ノ銅ヲ含有スト幾加煉ナ
ルヤ

$$10:(10-2.5)::24:b=18$$

七 合金量及純金量ヲ知リテ加煉ヲ求ムル法

$$l:m::a:b$$

例 合金十匁アリ内純金七匁五分ヲ含有スト幾加
煉ナルヤ

$$10:7.5::24:b=18$$

八 高位ノ金ヲ低位ノモノニ變スル法

$$a:b::l:m \quad l-m=n$$

$$b:(a-b)::m:n \quad n-m=n'$$

例 二十加煉ノ金十二匁ヲ十八加煉トナスニハ他
金屬幾何ヲ要スルヤ

$$24:20::12:m=10 \quad 12-10=2$$

$$18:(24-18)::10:n=3.3餘 \quad 3.3餘-2=1.3餘$$

九 低位ノ金ヲ高位ノモノニ變スル法

$$a:b::1:m \quad 1-m=n$$

$$(a-b):b::a:m' \quad m'-m=n$$

例 十八加鍊金十匁ヲ二十加鍊トナスニハ幾何ノ
純金ヲ加フベキヤ

$$24:18::10:m=7,5 \quad 10-7,5=2,5$$

$$(24-20):20::2,5,m'=12,5 \quad 12,5-7,5=5$$

第四 醫術開業試験規則

(明治十六年十月布達第三十四號)

第一條 醫術ヲ開業セントスル者ハ此規則ニ據リ試
験ヲ受クベシ

第二條 文部大臣ハ毎年二回醫術開業試験ヲ舉行ス
但シ東京ニ於テハ本文ノ外隨時ニ後期實地試験ヲ

舉行スルコトアルベシ

試験ヲ舉行スベキ地方及ビ試験期日ハ文部大臣之
ヲ告示ス(今回改正)

第三條 第四條(明治二十二年內務省令第七號ヲ以
テ削除)

第五條 齒科醫術開業試験ヲ除ク外醫術開業試験ハ
之ヲ二期ニ分チ前期試験後期試験トス前後二期ノ
試験ヲ同時ニ受クルコトヲ得ズ(今回修正)

第六條 試験科目ヲ定ムルコト如下ノ如シ ▲前期試験
科目(一)物理學(二)化學(三)解剖學(四)生理學 ▲
後期試験科目(一)外科學(二)内科學(三)藥物學

(四)眼科學(五)產科學(六)臨床實驗

前項後期試験科目中第一乃至第五ヲ學說試験科目

トシテ第六ヲ實地試験科目トシ學說試験ト實地試
験トハ分子テ之ヲ受クルコトヲ得此場合ニ於テハ學
說試験ヲ先ニシ實地試験ヲ後ニス(此項今回追
加)

第七條 齒科試験科目ヲ定ムルコト如下ノ如シ

(一)齒科解剖及生理(二)齒科病理及治術(三)齒科
用藥品(四)齒科用器械(五)實地試験

前項試験科目中第一乃至第四ヲ學說試験科目トス
學說試験ト實地試験トハ分子テ之ヲ受クルコトヲ得此
場合ニ於テハ學說試験ヲ先ニシ實地試験ヲ後ニス
(此項今回追加)

第八條 前期試験ハ一ヶ年以上後期試験ハ更ニ一ヶ
年半以上修學セシ者ニ非ザレバ之ヲ受クルコトヲ得

ズ但シ齒科醫術開業試験ハ二ヶ年以上修學セシ者
ニ非ザレバ之ヲ受クルコトヲ得ズ

第九條 試験ヲ受ケントスル者ハ願書(書式第一號)
ニ履歴書(書式第二號)戶籍謄本及寫眞ヲ添ヘ毎年

一月六月中ニ其試験ヲ受クベキ地ノ地方廳ニ差出
スベシ但シ實地試験ノミヲ受ケントスル者ハ居住
地方廳ニ差出スベシ

東京ニ於テ後期實地試験ヲ受ケントスル者ハ前項
ノ期限ニ拘ハラズ隨時出願スルコトヲ得願書及ビ履
歴書ハ本人之ヲ自書シ履歴書中受験資格ニ關シテ
ハ在學シタル學校ノ校長、病院ノ院長又ハ就學シ
タル教師ノ保證ヲ附シ寫眞ハ手札形(縦四寸横二
寸五分)トシ出願前六ヶ月以内ニ脱帽ノ儘撮影シ

タル者ニシテ其裏面ニハ撮影年月日出願シタル試験ノ種類及族籍氏名ヲ記入スベシ地方廳ニ於テハ前項ノ願書及附屬書類ヲ調査シ願書受領後十五日以内ニ進達スベシ(全文今同改正)

第十條 地方廳ニ於テ試験出願者中醫學ニ關シ犯罪若シクハ不正ノ行爲アリト認ムル者アルハ之ヲ内務者ニ具狀スベシ内務者ニ於テハ中央衛生會ノ會議ヲ經テ其情狀ニ因リ期限ヲ定メ試験ヲ許サ、ルアルベシ

第十一條 試験問題ハ試験委員協議ノ上之ヲ選定シ試験場ニ臨ミ受験人ヲシテ筆答セシムヘシ但シ時宜ニ依リ口答セシムルアルベシ

第十二條 (明治廿二年内務省令第七號ヲ以テ削除)

第十三條 (今同削除)

第十四條 醫術開業試験ヲ出願スルモノハ手数料ヲ納付ムベシ但シ納附シタル手数料ハ返附セズ

(明治廿六年内務省令第四號ヲ以テ改正)

前期試験手数料金五圓

後期試験手数料金九圓

學說試験ノミヲ受クル者ハ金六圓五拾錢實地試験ノミヲ受クル者ハ金六圓

齒科試驗手数料 九圓

學說試験ノミヲ受クル者ハ金六圓五十錢實地試験ノミヲ受クル者ハ金六圓(後期試験手数料以下ハ今回追加)

附 則

第十五條 本令ハ明治三十九年六月一日ヨリ施行ス第一號願書式(用紙美濃紙)

醫術開業試験願

收入
印紙

本籍
居所
族稱

出願試験ノ種類(前期(齒科)試験又ハ後期(學說(齒科實地)試験) 試驗ヲ受クベキ地 何地
氏 名
年月日生

右試験相受度別紙履歷書戸籍謄本及寫真相添へ此段相願候也

年月日 右氏 名

文部大臣宛

第二號履歷書式(用紙美濃紙)

履歷書

族籍

氏 名

年月日生

受験資格

一 明治何年何月ヨリ何年何月マテ何府縣何市郡何學校ニ於テ又ハ何誰ニ就キ何學修業

一 明治何年何月ヨリ何年何月マテ何府縣何市郡何病院ニ於テ又ハ開業醫何誰ニ就キ何科實習

一 明治何年何月何地ニ於テ前期試験(後期學說試験(齒科學說試驗)ヲ受ケ及第證書(學說合格承認書)第何號ヲ受ケ

受験資格以外ノ學業

- 一 明治何年何月何府縣何市郡何小學校ニ於テ尋常高等小學校卒業又ハ何學年修了
 - 一 明治何年何月何府縣何中學校ニ入り何年何月卒業又ハ第何年級修了
 - 一 明治何年何月ヨリ何年何月マテ何府縣何市郡何學校ニ於テ又ハ何誰ニ就キ何學修業
- 職業
- 一 明治何年何月ヨリ何年何月マテ何府縣何市郡ニ於テ何職ニ從事シ又ハ何業ヲ營ム
- 右之通相違無之候也

明治何年何月何日

族籍

氏

名

前期受験資格ノ確實ナルヲ保護ス

- 一 明治何年何月何日
- 一 學校長又ハ教師 氏 名
- 一 受験注意要項
- 一 試験ハ通常四月九月兩度ニシテ願書ハ六月中若クハ一月中地方廳ニ差出ベシ但シ實地試験ハ臨時施行セラル、トアリ
- 一 寄留地ニ於テ試験ヲ受ケントスル者ハ豫メ戶籍簿本ヲ原籍役場ヨリ取り寄セ置クヲ要ス
- 一 學說試験ハ地方廳所在地ニ於テ實地試験ハ東京市及大阪市ニ於テ施行セラル
- 一 願書差出ノ節ハ同一ノ實印ヲ持參スベシ
- 一 願書、履歴書、及寫眞ハ散亂セザル様紙撰ニテ綴

附 錄

- 一 實地試験ノミヲ受ケルモノハ願書差出ノ節學說承認證ヲ持參スベシ
- 一 總テ收入印紙ハ地方廳ニ於テ掛官之ヲ消印ス
- 一 總テ書類ハ綴込ニ便ナルタメ左右天地トモ約一寸程明ケ置クベシ
- 一 試験出願者ハ其願書ニ學說試験ヲ受ケントスル場所ノ外實地試験ヲ受ケントスル場所ヲモ附記スベシ(願書雜形参照)
- 一 試験出願者ハ期日數日前地方廳(但シ東京市ニテハ文部省內醫術開業試驗事務所)ニ出頭ノ上受験證ヲ受取ルベシ
- 一 實地試験出願者ハ受験期日ノ通知ヲ受ケントスル

込ムベシ

場所ヲ届出ツベシ

- 一 學說並ニ實地試験ニ及第シタルモノニハ內務省ヨリ及第證ヲ下附セラルベシ
- 一 學說合格承認證並ニ及第證ヲ下附セラル、トキハ實印ヲ持參スベシ

第五 齒科醫師法

- 第一條 齒科醫師ヲラントスル者ハ左ノ資格ヲ有シ
- 一 內務大臣ノ免許ヲ受ケルコトヲ要ス
- 一 文部大臣ノ指定シタル齒科醫學學校ヲ卒業シタルモノ
- 二 齒科醫師試験ニ合格シタル者
- 三 外國齒科醫學學校ヲ卒業シ又ハ外國ニ於テ齒科醫

附 錄

師免許ヲ得タル者ニシテ命令ノ規定ニ該當スル者

第二條 左ニ掲クル者ハ免許ヲ受クルヲ得ズ

一 重罪ノ刑ニ處セラレタル者但シ國事犯ニシテ復權シタルハ此ノ限リニ在ラズ

二 公權停止中ノ者

三 未成年者、禁治産者、準禁治産者、聾者啞者及盲者

第三條 禁錮ニ處セラレタル者又ハ醫事ニ關シ罰金

ニ處セラレタル者ニハ免許ヲ與ヘザルヲアルベシ

第四條 内務省ニ齒科醫籍ヲ備ヘ齒科免許ニ關スル事項ヲ登錄ス

登錄スベキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 齒科醫師ハ自ラ診察セズシテ診斷書、處方箋ヲ交付シ又ハ治療ヲ爲スヲ得ズ

第六條 齒科醫師ハ帳簿ヲ備ヘ患者ノ氏名、年齢、住所、職業、病名、及療法ヲ記載スベシ

前項ノ帳簿ハ十箇年間保存スベシ

第七條 齒科醫師ハ其ノ技能ヲ誇稱シテ虚偽ノ廣告ヲ爲シ又ハ秘密療法ヲ有スル旨ヲ廣告スルヲ得ズ

第八條 齒科醫師ハ齒科醫師會ヲ設立スルヲ得

齒科醫師會ニ關スル規程ハ内務大臣之ヲ定ム

第九條 齒科醫師會ハ齒科醫師衛生ニ關シ官廳ノ諮問ニ應ジ又ハ建議ヲ爲スヲ得

第十條 齒科醫師第二條第一號又ハ第三號ニ該當ス

ルハ其ノ免許ヲ取消スベシ

齒科醫師禁錮ニ處セラレタルハ又ハ業務ニ關シ罰金ニ處セラレ若クハ不正ノ行爲アリタルハ免許

ヲ取消シ又ハ期間ヲ定メテ齒科醫業ヲ停止スルヲアルベシ其事免許前ニ係ル場合亦同シ

本條ノ取消處分ヲ受ケタルモノト雖モ第二條三號ノ原因止ミタルハ又ハ改悛ノ狀顯著ナルハ再免許ヲ與フルヲアルベシ

本條ノ處分ハ内務大臣之ヲ行フ但シ第二項及第三項後改ノ場合ニ於テハ中央衛生會ノ審議ヲ經ルヲ要ス

第十一號 免許ヲ受ケズシテ齒科醫業ヲ爲シタル者

停止中齒科醫業ヲ爲シタル者又ハ第五條第六條若ハ第七條ニ違背シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

第十二條 本法ハ明治三十九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十三條 本條施行前ノ齒科醫術開業免狀ハ本法施行後ト雖モ仍其ノ効力ヲ有ス

齒科醫師法ニ次テ去ル明治三十九年九月三日内務省令第二十八號ヲ以テ齒科醫師法施行規則ガ

左ノ通り規定セラレタリ

○齒科醫師法施行規則

第一條 齒科醫師免許ヲ受ケントスル者ハ齒科醫師

法第一條規定ノ資格並住所氏名ヲ記載シタル申請書ニ月籍原本ヲ添ヘ住所地ノ地方長官ヲ經由シ内務大臣ニ提出スベシ

内務大臣ハ免許ヲ與フルトキハ齒科醫籍ニ登錄シ齒科醫師免許證ヲ下附ス

第二條 齒科醫籍ニ登錄スヘキ事項左ノ如シ

- 一 登錄番號及登錄年月日
- 二 族籍(外國人ナルキハ其國籍)、氏名、生年月日及女子ナルキハ其ノ旨
- 三 齒科醫師法第一號規定ノ資格ヲ取得シタル年月
- 四 免許ノ取消、齒科醫業ノ停止、其事由、期間及年月
- 五 免許證ノ再下附其ノ事由及年月日

六 抹消ノ事由年月日

第三條 齒科醫師前條第二號ノ登錄事項ニ變更ヲ生シタルキハ其ノ事由ヲ記シ免許證ヲ添ヘ三十日以内ニ住所地ノ地方長官ヲ經由シ内務大臣ニ齒科醫籍ノ訂正ヲ申請スルヲ得

前二項ノ場合ニ於テハ免許證ヲ換ヘ下附ス

第四條 齒科醫師免許證ヲ毀損亡失シタルキハ其ノ事由ヲ記シ三十日以内ニ住所地ノ地方長官ヲ經由シ内務大臣ニ再下附ヲ申請スベシ

前項免許證ノ再下附ヲ申請スル者ハ手数料金一圓ヲ納附スベシ

亡失シタル免許證ヲ發見シルキハ直ニ之ヲ其ノ地ノ地方長官ニ提出スベシ

第五條 第一條第三條及第四條ノ申請ヲ爲ス者ハ登錄稅又ハ手数料ニ相當スル収入印紙ヲ申請書ニ貼用スベシ

既ニ納附シタル登錄稅又ハ手数料ハ之ヲ還付セズ

第六條 齒科醫師齒籍登錄ノ抹消ヲ申請セムトスルキハ住所地ノ地方長官ヲ經由シ免許證ヲ内務大臣ニ返納スベシ

齒科醫師失踪ノ宣告ヲ受ケ又ハ死亡シタルキハ戶籍法ニ依ル風出義務者ヨリ三十日以内ニ前項ノ手續ヲ爲スベシ

第七條 齒科醫師其ノ住所ヲ變更シタルキハ十日以内ニ住所地ノ地方長官ニ届出ベシ其ノ移轉ニ依リ管轄地方廳ヲ異ニシタルキハ新舊兩地ノ地方長官

二届出ベシ

第八條 齒科醫師自己又ハ他人ノ診察所、治療所若

ハ其ノ出張所ニ於テ齒科醫業ヲ開始シタルトキハ十日以内ニ所在地ノ地方長官ニ届出ベシ其ノ之レヲ休止シ廢止シ又ハ診察治療ノ場所ニ異動ヲ生シタルトキハ亦同シ但シ其ノ異動ニ依リ管轄地方廳ヲ異ニシタルトキハ新舊兩地ノ地方長官ニ届出ベシ

官立又ハ公立ノ病院ニ於テ診察治療ニ従事スル場合ハ前項ニ依ルノ限ニ在ラズ

診察所又ハ治療所ト稱スルハ公衆ノ需ニ應ジ診察又ハ治療ヲ爲ス場合ヲ謂フ

第九條 齒科醫師其診察治療スル患者ニ自ラ藥劑ヲ

交附スルキハ容器又ハ包紙ニ其ノ用法患者ノ氏名及診察所治療所ノ名稱又ハ自己ノ氏名ヲ明記スベシ

第十條 地方長官ハ齒科醫師法第十條ノ處分ヲ必要ト認ムルハ內務大臣ニ具申スヘシ

第十一條 齒科醫師法第十條ニ依リ免許取消處分ヲ受ケタル者ハ五日以内ニ住所地ノ地方長官ヲ經由シ免許證ヲ內務大臣ニ返納スベシ

第十二條 齒科醫師法第十條ニ依リ停止處分ヲ受ケタル者ハ五日以内ニ免許證ヲ住所地ノ地方長官ニ差出スベシ前項ノ場合於テ地方長官ハ其ノ要旨ヲ免許證ニ裏書シ捺印ノ上預置シ期間満了ノ後之ヲ還附スヘシ

第十三條 左ニ掲ケル場合ニ於テ族籍、氏名、事由其ノ他必要ト認ムル事項ハ官報ニ公告ス

- 一 齒科醫籍ニ登錄シ又ハ抹消シタルキ
- 一 免許證再下附ノキ

一 齒科醫師法第十條ノ處分ヲ爲シタルキ

第十四條 第三條第一項、第四條第一項第三項、第六條第二項第七條及第八條第一項ニ違背シタル者ハ拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 第九條、第十一條及第十二條第一項ニ違背シタル者ハ貳拾五圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則
本則ハ明治三十九年法律第四十八號醫師法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○醫師届出ニ關スル府令

明治三十九年九月內務省令第二十七號醫師法施行規則第七條第八條并同年同月內務省令第二十八號

齒科醫師法施行規則第七條第八條ニ依リ醫業又ハ齒科醫業開始ノ届出ハ甲號書式ニ其ノ休止、廢止及診察治療ノ場所ノ異動并住所變更ノ届出ハ乙號書式ニ據リ住所地ノ區長又ハ村長（伊豆七島及小笠原島ニ在テハ其職務ヲ行フ者）ヲ經テ管廳ニ届出ベシ

前項ニ依リ届出ヲ爲スベキ事項ニ關シテハ明治三十四年七月東京府令第三十五號醫師藥劑師業務届出規則ヲ適用セズ
本令ハ明治三十九年十月一日ヨリ施行ス

甲號書式

醫師（又ハ齒科醫師）開業届

- 一 氏 名 外國人ナレハ片假名ニテ記スベシ
- 二 男女ノ別 男又ハ女ト記スベシ
- 三 住 所 何那市區町村大字番地（寄留又ハ同居者ナレバ其ノ月主ノ氏名トモ）
- 四 本 籍 道廳府縣市區町村大字番地（同居者ナレバ其月主ノ氏名トモ）ヲ記スベシ但シ本籍地住所番地ニ同ケレバ「住所地ニ同シ」ト記スベシ
- 五 年 齡 生年月日ヲ記スベシ
- 六 族 稱 何廳府縣華士族又ハ平民ト記スベシ但シ外國人ナレハ「ナシ」ト記スベシ

七業務ノ種別 醫師、齒科醫師、口中科、整骨科、
等免狀而記載ノ業務名ヲ記スベシ

八免狀ヲ得タル事由 試験及第、舊試験及第、府
縣立醫學學校卒業、大學卒業、高等學校
卒業、官立醫學專門學校卒業、外國醫
學校卒業、奉職履歴、從來開業、從來
開業醫子弟、限地許可等ヲ記スベシ

九(免狀ノ番號及免狀下附年月日) 免狀面ニ記載
シアル番號及年月日ヲ記スベシ

十開業ノ場所 何郡市區町村大字番地(同居者ナ
レハ何某方ト記スベシ) 診療所、治
療所又ハ診察出張所等但シ二箇以上
ノトキハ之ヲ併記スベシ

十一奉職ノ官公署 官公署ノ名稱ヲ記スベシ但シ
奉職セサルモノハ「ナシ」ト記スベシ

十二轉住ノ年月日 何年何月日道府縣郡市區町村
大字番地ヨリ轉住ト記スベシ但シ新
タニ免狀ヲ受ケタルモノハ本項記載
ヲ要セズ

右及御届候也
年 月 日 右 氏 名印
東京府知事宛

乙號書式
醫業(又ハ齒科醫業)異動届
住 所 氏 名

一異動ノ事項 何々

二異動ノ生シタル日 何年月日
右及御届候也

年 月 日 右 氏 名印
東京府知事宛

(記載方) 住所氏名ニ異動ヲ生シタルハ前記ノ住
所氏名ハ異動前ノモノヲ記シ捺印場所ノ
氏名ハ異動後ノモノヲ記スベシ

明治四十一年三月廿三日印刷
明治四十一年三月廿三日發行

二十三

正價壹圓貳拾錢

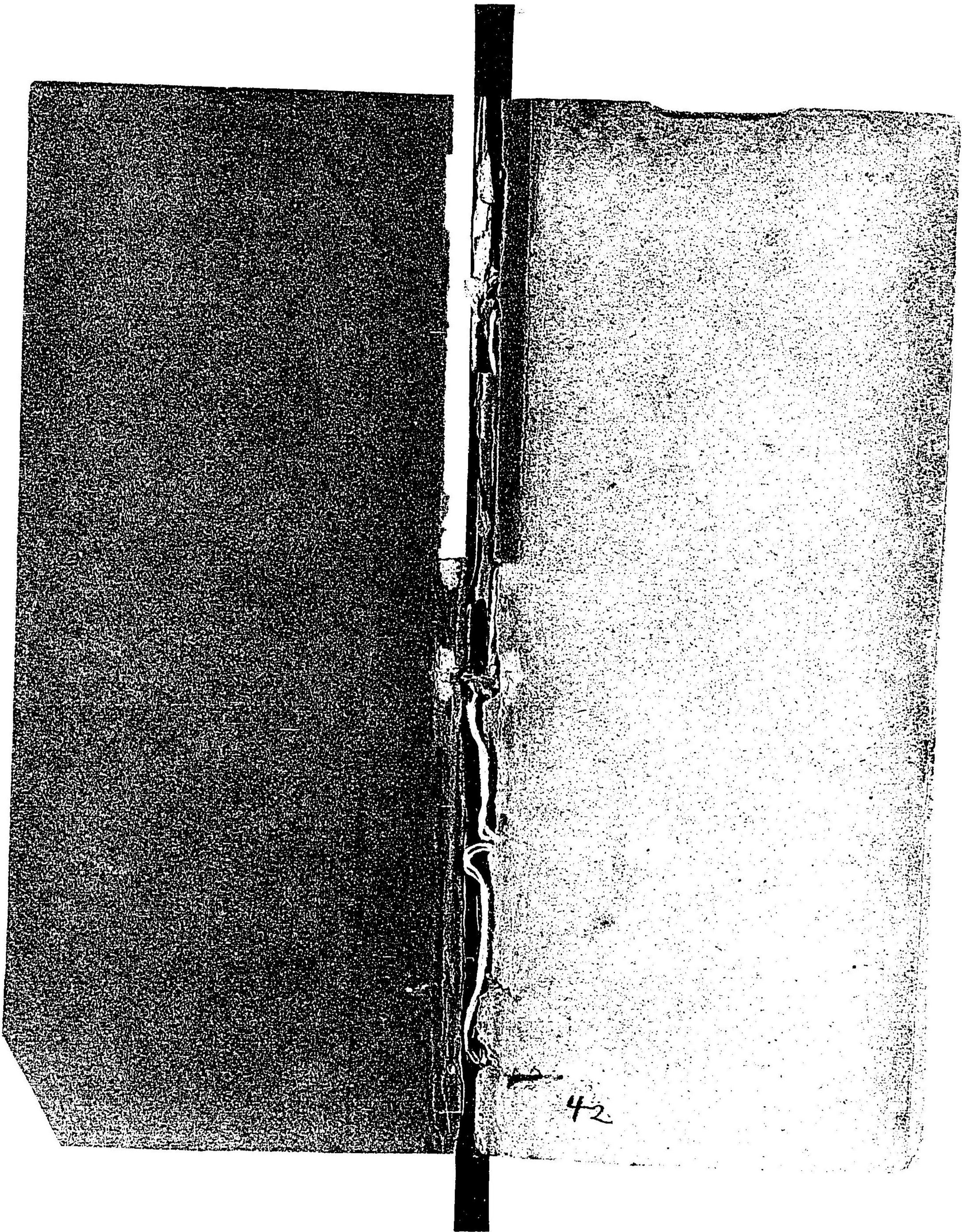
編纂者 千葉縣多古町 佐久間恭造

發行者 東京市本郷區元富士町二 堀口哲二

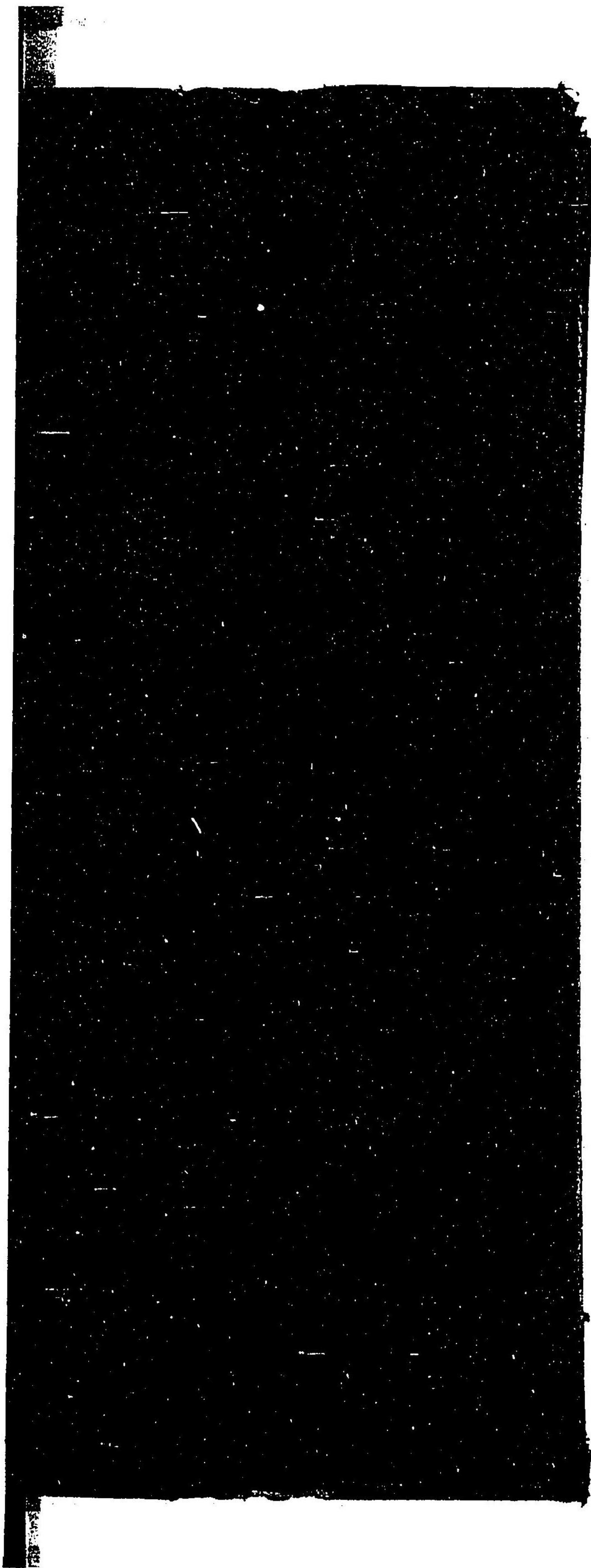
印刷者 東京市麴町區內幸町一ノ四 中村彌三郎

印刷所 東京市麴町區內幸町一ノ四 三生舍

發行所 東京市本郷區元富士町二 豐文堂



60
別庫
29



M

060208-000-4

60-29

齒科答案集

佐久間 恭造/編

M41

CBL-0040

